

# 平成29年度 館山市男女共同参画市民意識調査 報告書



平成29年10月  
館山市





# I 調査の概要

## 1 調査の趣旨

この調査は、市民の皆様の男女共同参画に対する意識を総合的に把握するとともに、実態・課題を明確化するために実施しました。

調査結果は、「第4期館山市男女共同参画推進プラン」策定の参考とし、あわせて館山市の男女共同参画に関する取組を推進するための基礎資料と位置づけます。

## 2 調査の内容

- (1) 男女平等に関する考え方について
- (2) 男女共同参画に関する用語の認知度について
- (3) 家庭生活について
- (4) 防災・災害復興対策について
- (5) 教育について
- (6) 人権について
- (7) 社会活動等への女性の参画について
- (8) 働き方について
- (9) 回答者のプロフィール(属性)について
- (10) 男女共同参画に関するアイデアについて(自由記述)

## 3 調査の方法

- (1) 調査対象地域 館山市全域
- (2) 調査対象者 館山市在住の18歳から79歳の男女 1,000人

※男女の比率は同数

- (3) 調査対象者抽出方法

層化無作為抽出法により、男女・年代・地区別に対象者を抽出しました。

- (4) 調査方法

郵送により調査票及び返信用封筒を配付し、郵送により回収しました。

- (5) 調査期間 平成29年4月25日から平成29年5月15日

【層化】市内を以下の10地区に分類し、層化を行いました

地区名	住所(大字)表示
館山地区	館山、上真倉、下真倉、沼、宮城、笠名、大賀、富士見
北条地区	北条、新宿、長須賀、八幡、湊、高井、上野原、北条正木
那古地区	那古、正木、亀ヶ原、小原
船形地区	船形、川名
西岬地区	香、塩見、浜田、早物、見物、加賀名、波左間、坂田、洲崎、西川名、伊戸、坂足、小沼、坂井
神戸地区	大神宮、中里、竜岡、犬石、佐野、藤原、洲宮、茂名、布沼
富崎地区	布良、相浜
豊房・神余地区	東長田、西長田、大戸、出野尾、岡田、南条、飯沼、古茂口、作名、山荻、畑、神余
館野地区	大網、安布里、山本、国分、稲、腰越、広瀬
九重地区	寶貝、水岡、安東、二子、菌、水玉、大井、竹原、江田

## 4 回収結果

有効回収数 403件(回収率 40.3%)

うち、女性222件、男性173件、無回答8件

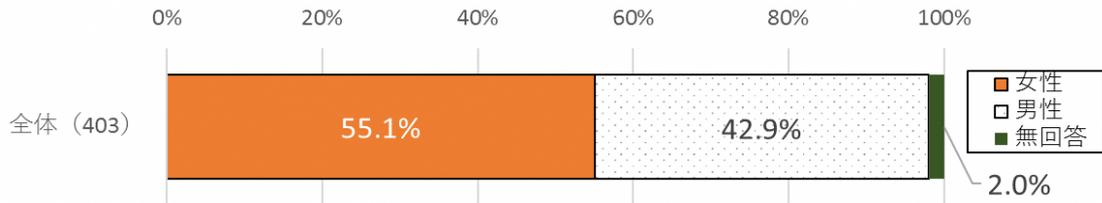
## 5 調査結果の見方

- (1) 結果は全て百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。  
このために、百分率の合計が100%にならないことや、個々の比率の合計とその小計の数値が一致しないことがあります。
- (2) 数値やグラフ中のカッコ内の数値は回答者総数(または分類別の該当者数)を示し、回答比率はこれを100%として算出しました。
- (3) 1人の対象者に2つ以上の回答を認めた設問では、百分率(%)の合計は、100%を超える場合があります。
- (4) 分析の軸(縦軸)としたプロフィールや設問は無回答を除いているため、各プロフィールの基数の合計が全体と一致しない場合があります。また、分析によっては、必要な選択肢を抽出して使用したり、複数の選択肢をまとめて使用しているところもあります。
- (5) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いていますが、スペースなどの関係から一部省略した表現としている箇所があります。

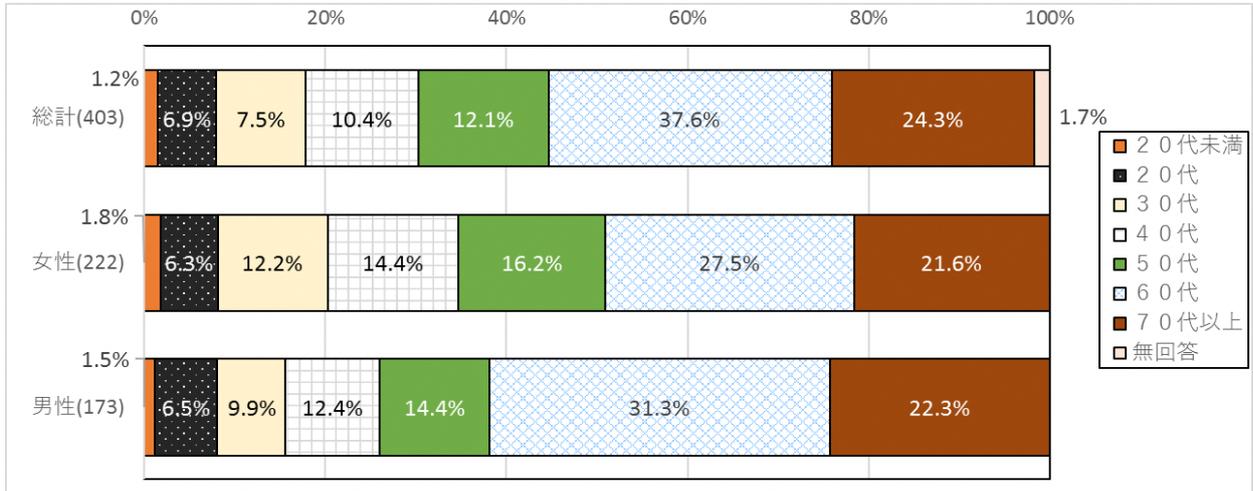
## II 調査の結果

### 1 回答者のプロフィール

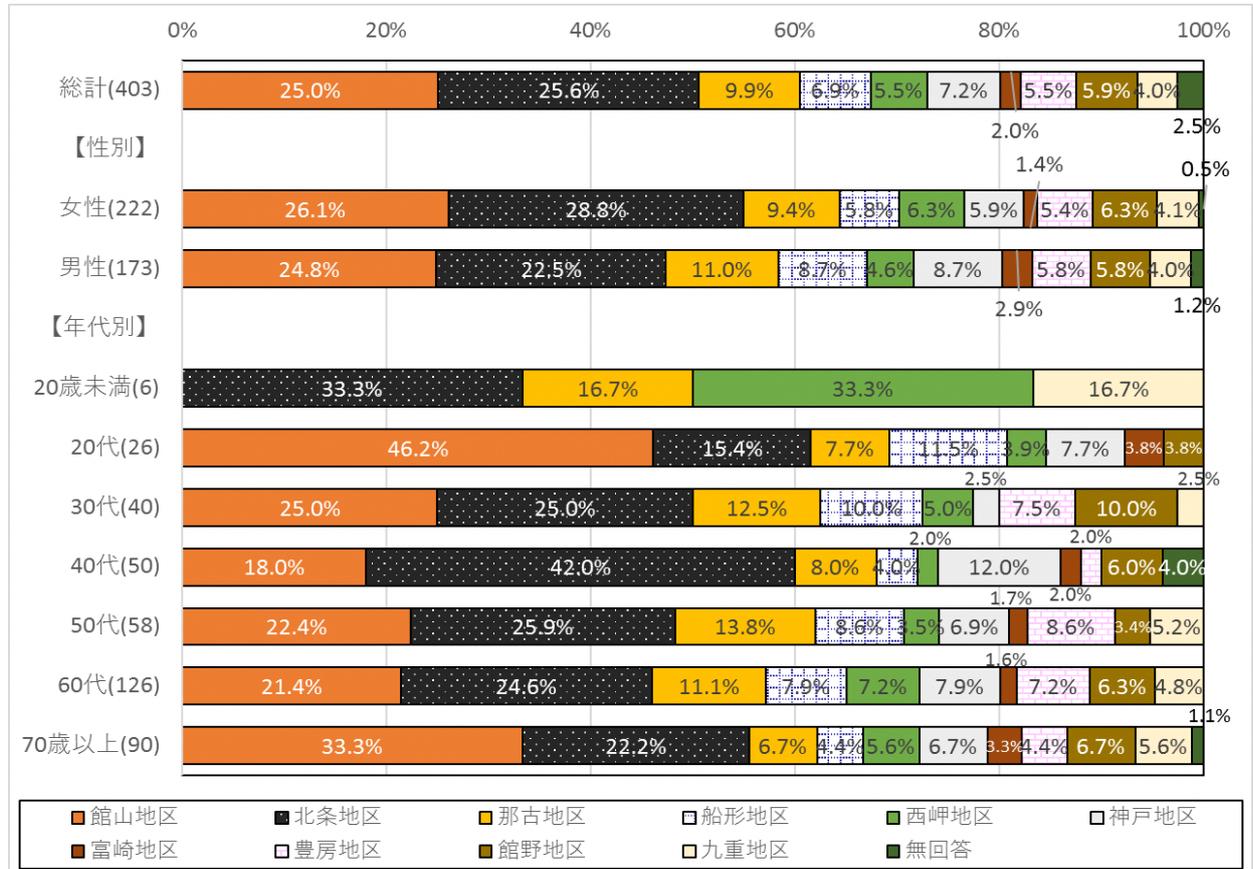
#### (1) 性別



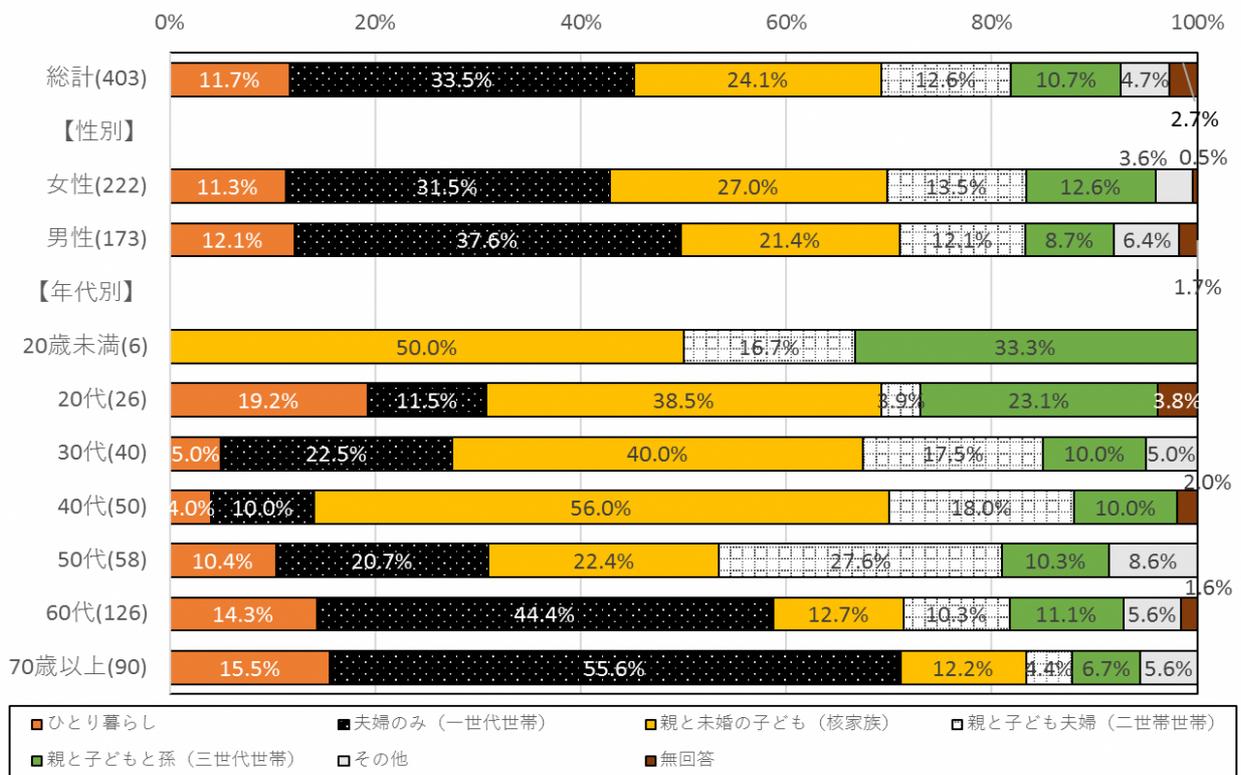
#### (2) 年齢構成



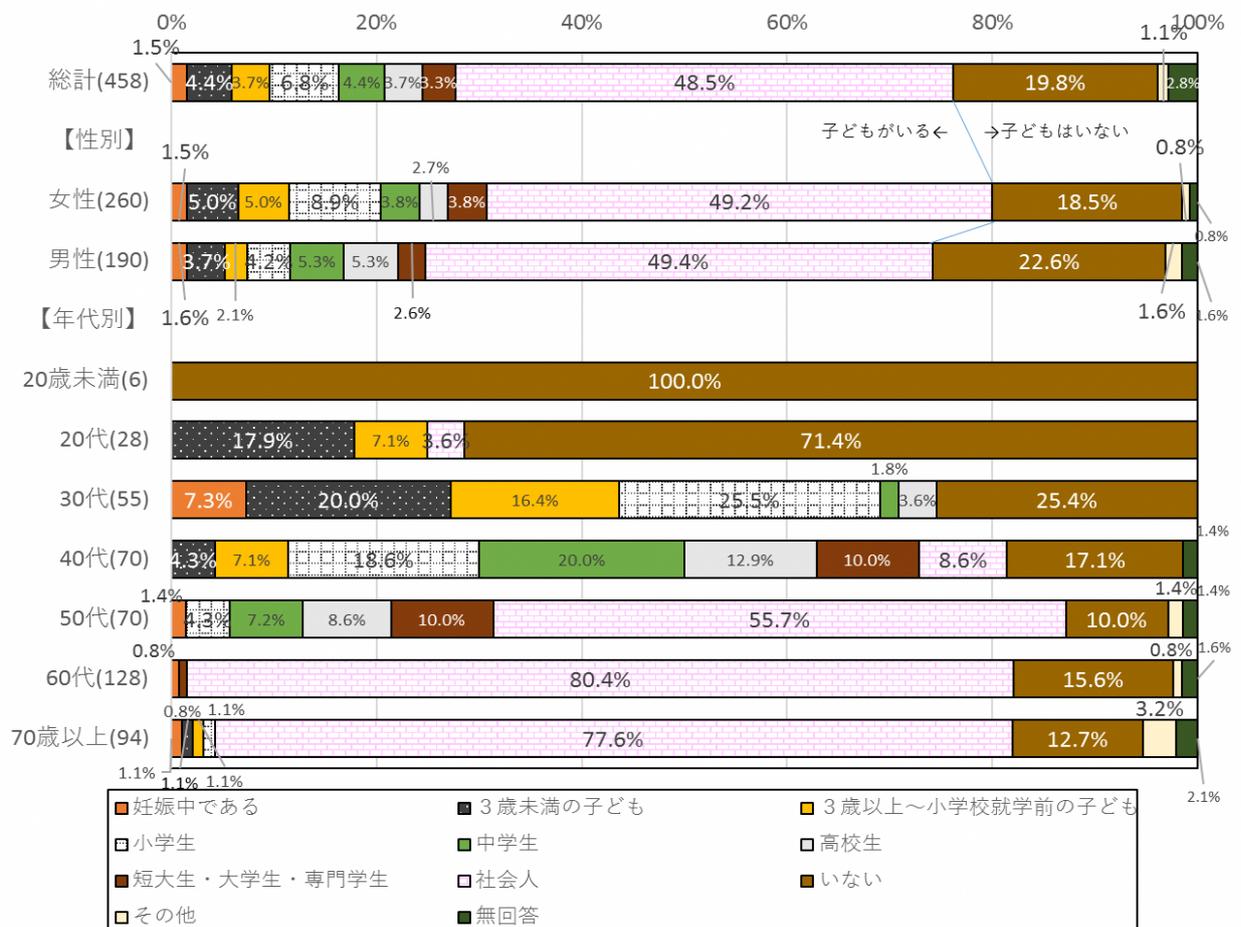
#### (3) 地区構成



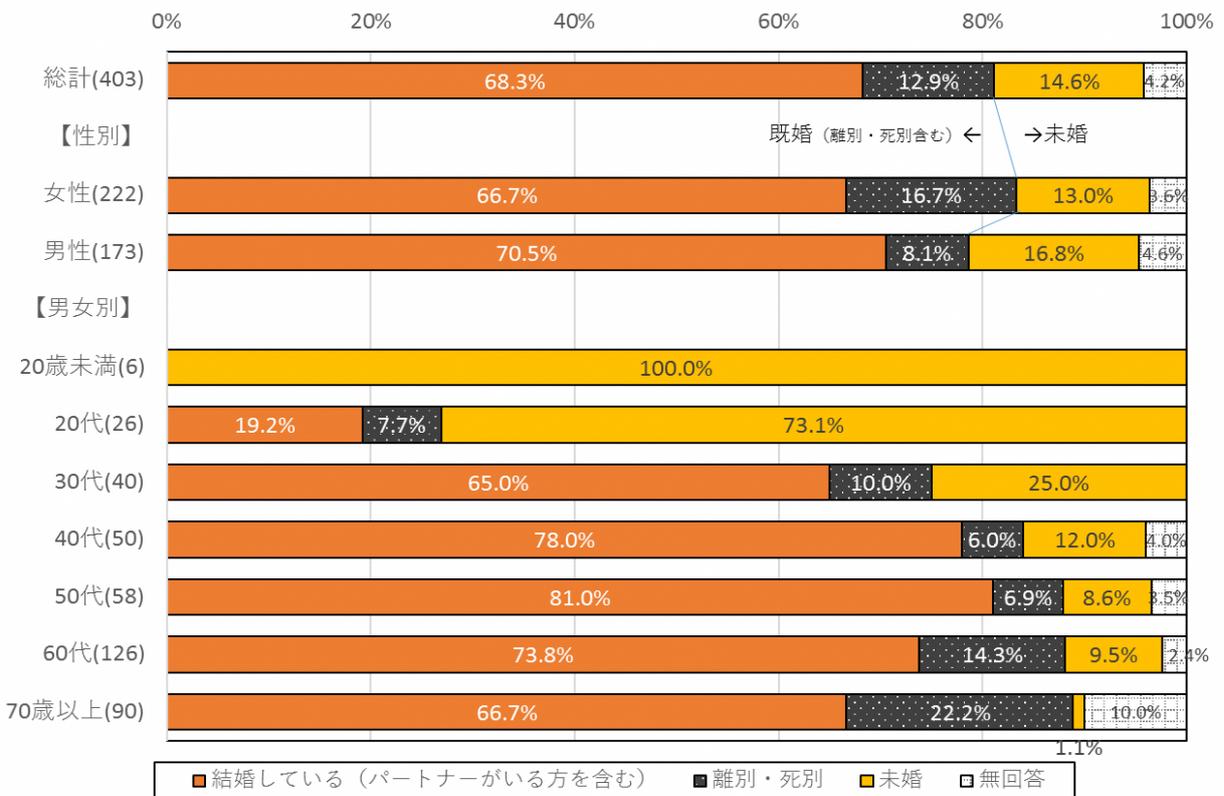
(4) 世帯構成



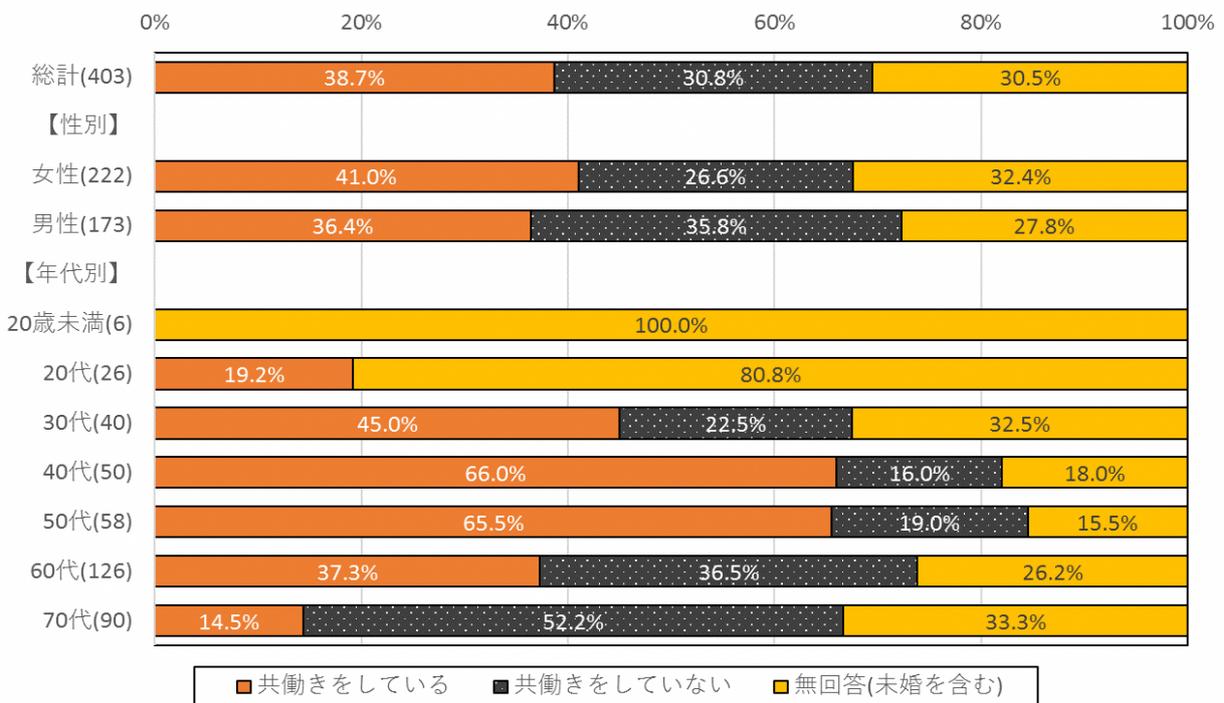
(5) 子どもの有無



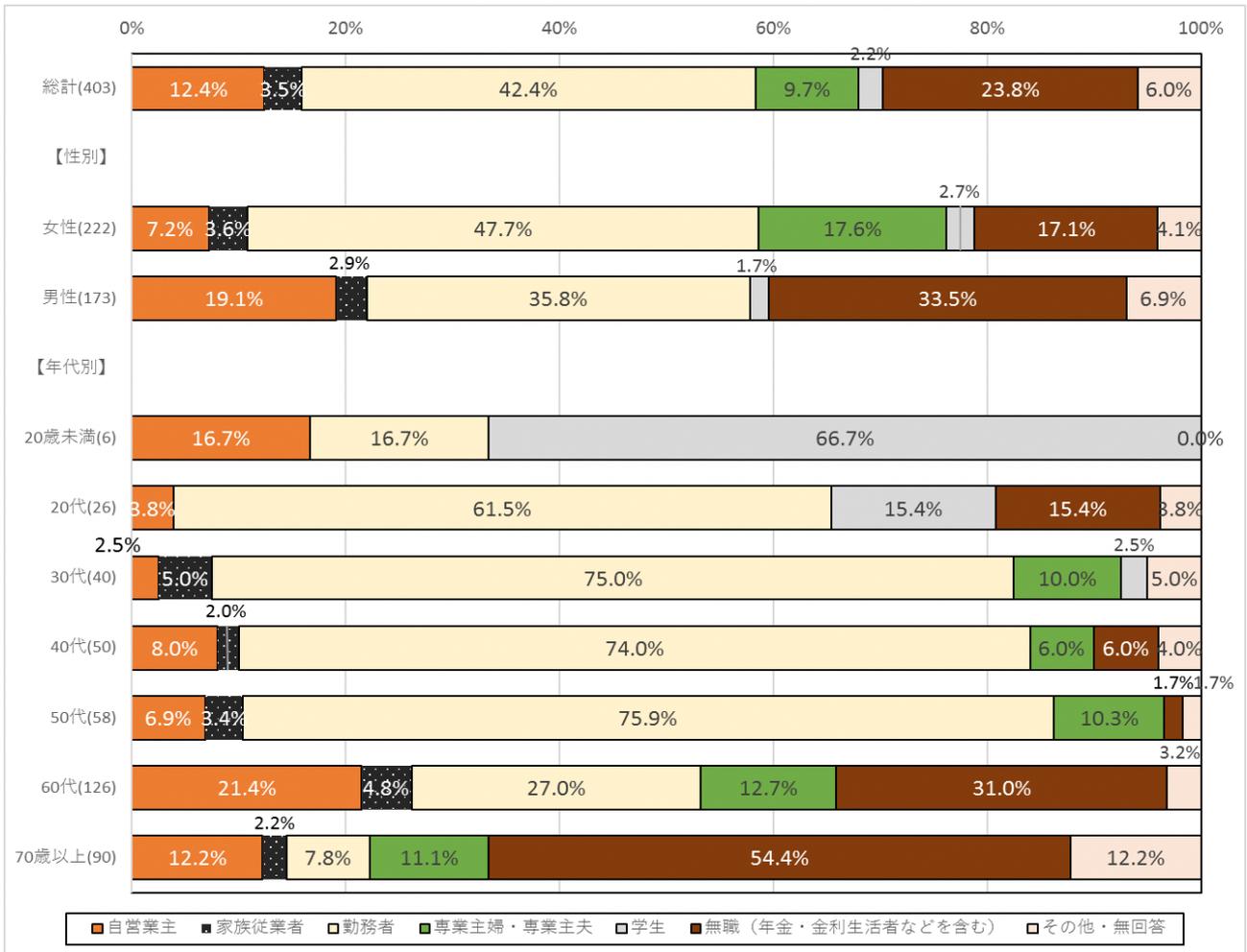
(6) 配偶者の有無



(7) 共働きの状況

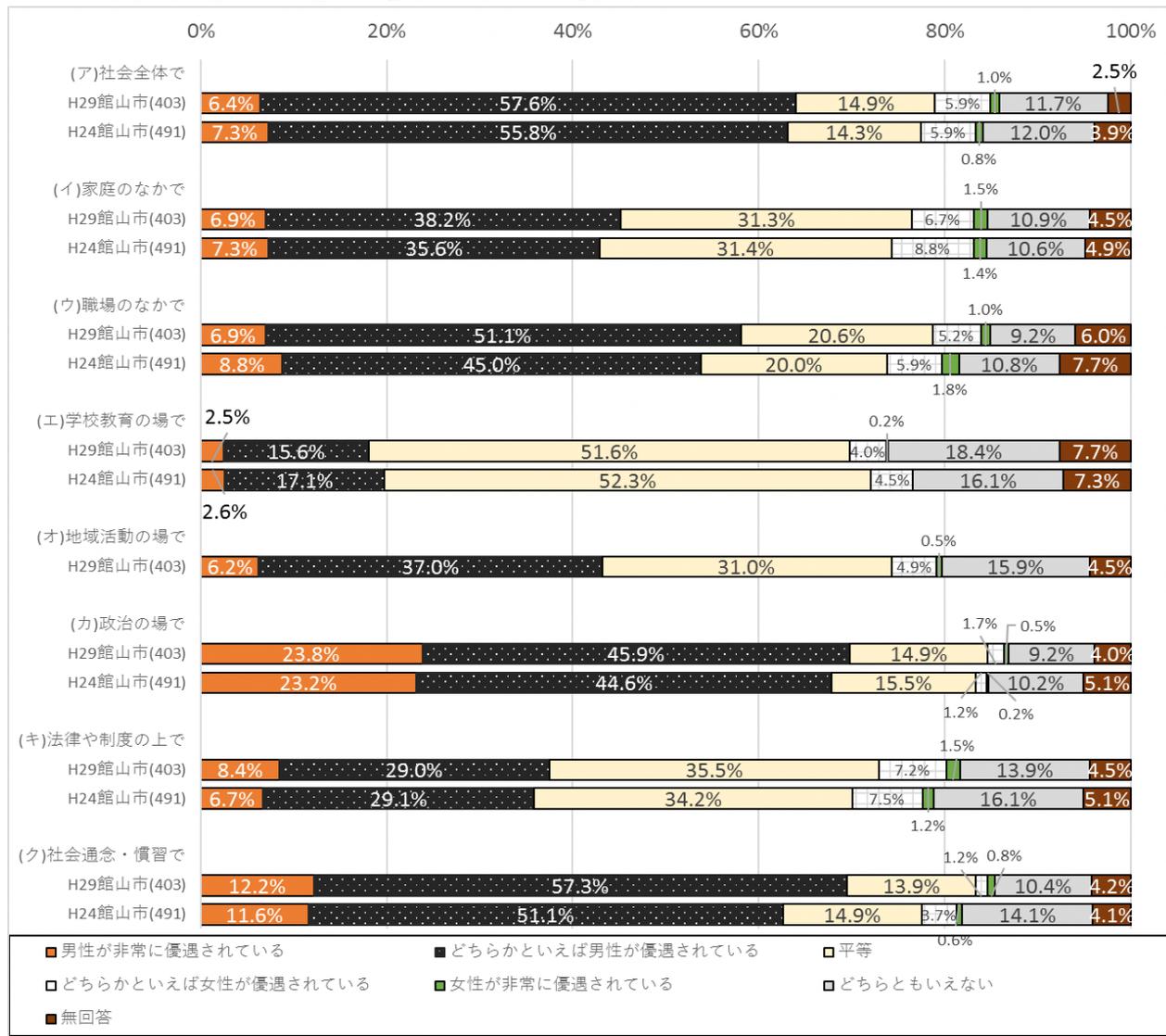


(8) 職業



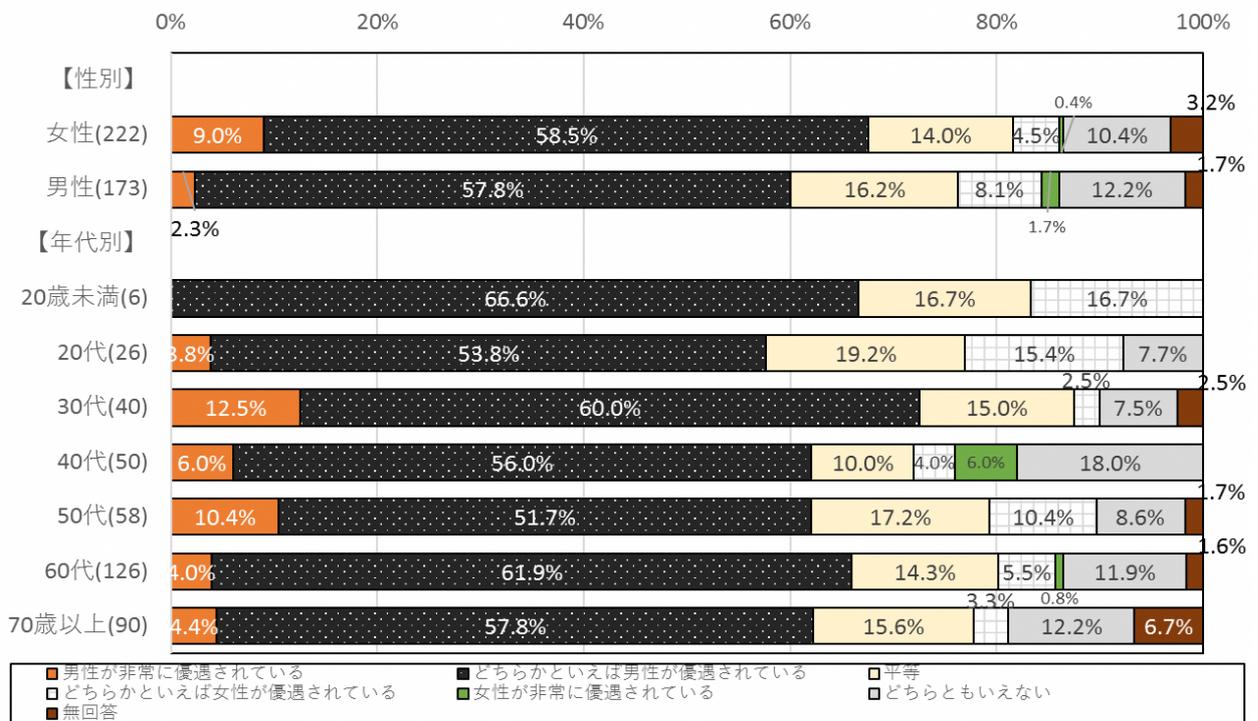
## 2 男女平等意識

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)から(ク)それぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

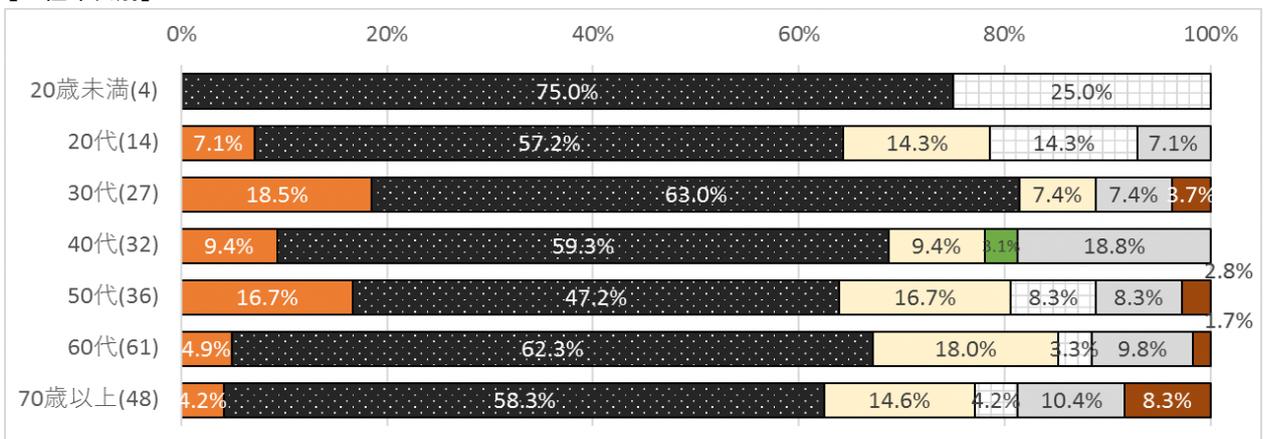


「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた「男性優遇」とする割合は、「学校教育の場で」を除く全ての項目で最も高くなっています。また、平成24年度の前回調査と比べ、わずかですが男性優遇とする割合が高くなっています。男性優遇とする割合が高い上位3つの項目は、「社会全体で」「政治の場で」及び「社会通念・慣習で」となっており、前回調査と同じ傾向を示しています。

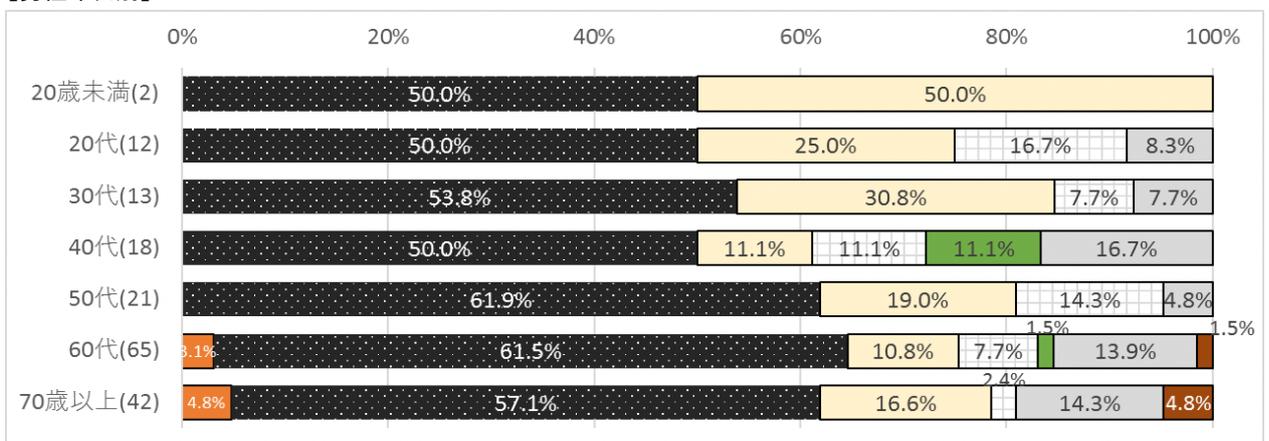
(ア)社会全体で



【女性年代別】

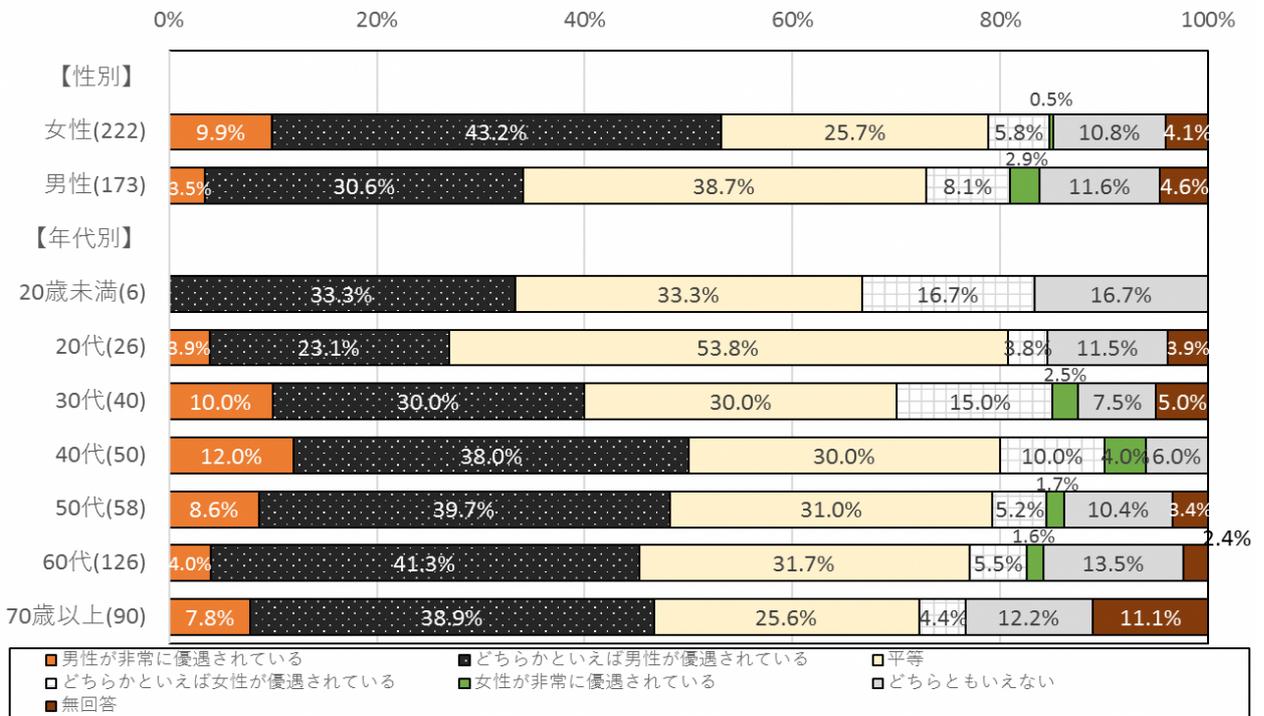


【男性年代別】

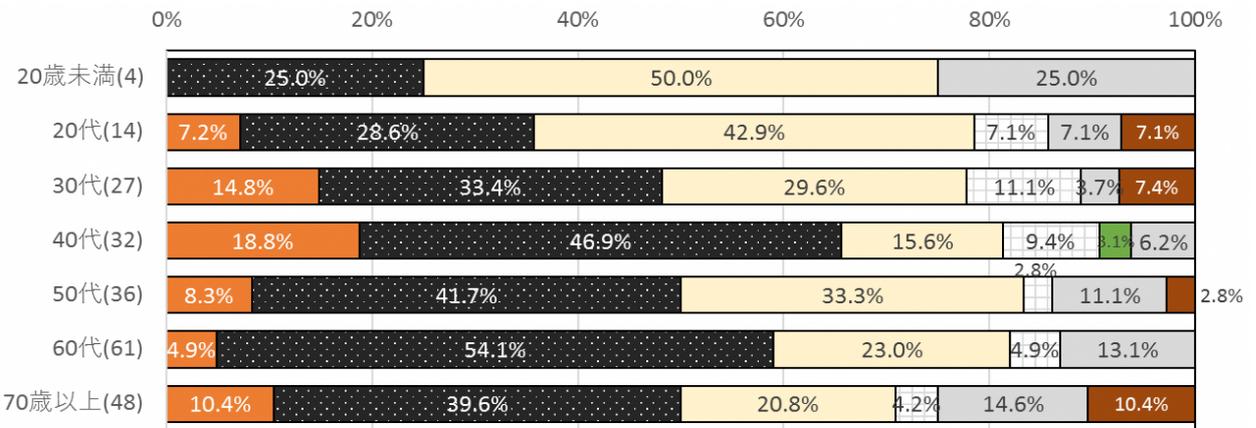


各性別や年代において、「男性優遇」とする割合が高くなっています。性別で比較すると、男性優遇とした割合は、女性が男性を7%ほど上回っています。年代別で比較すると、30代女性において男性優遇とした割合が80%を超えていること、男性においては、50代以上において、それ以下の年代と比べて男性優遇とした割合が高いことが特筆されます。

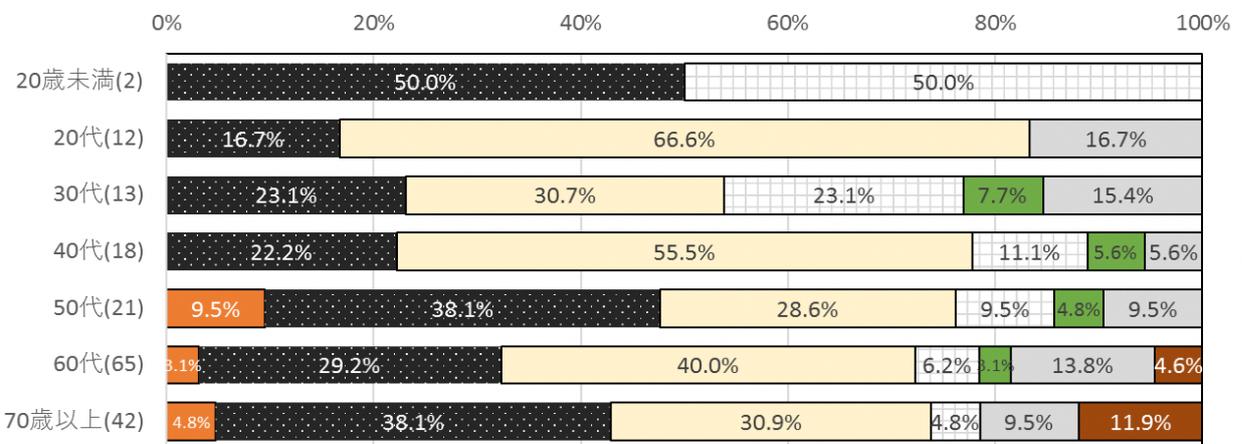
(イ) 家庭の中で



【女性年代別】

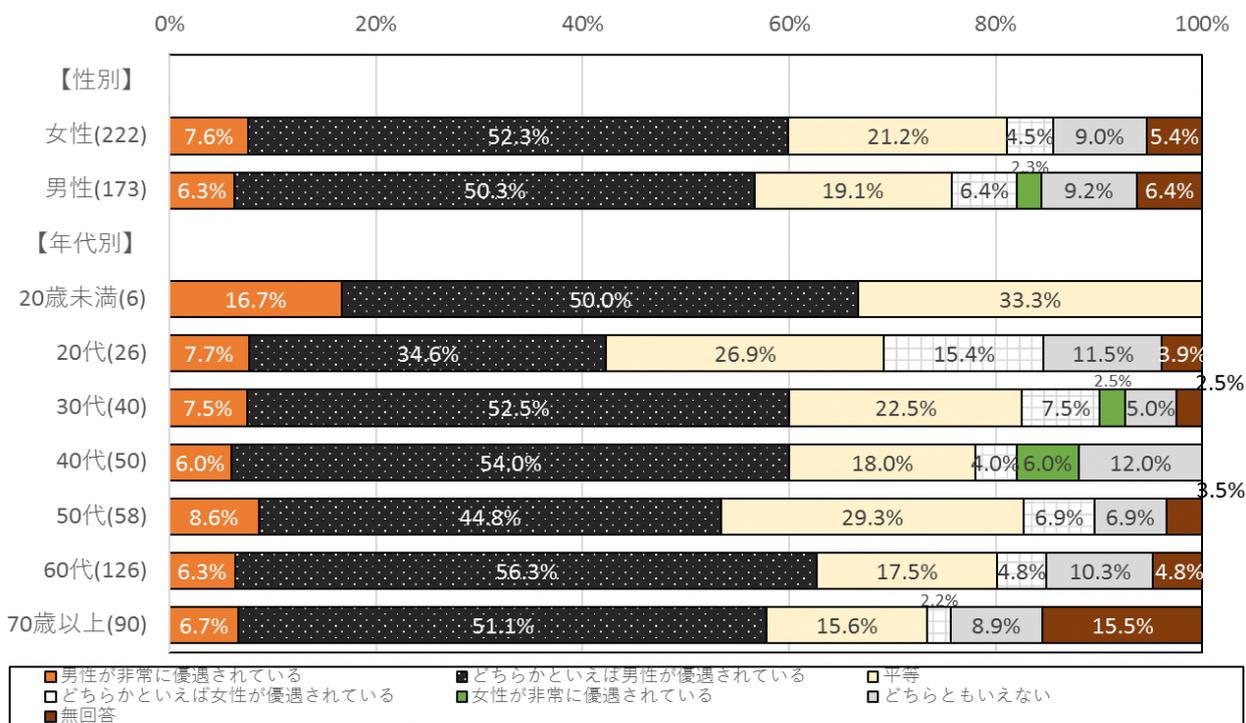


【男性年代別】

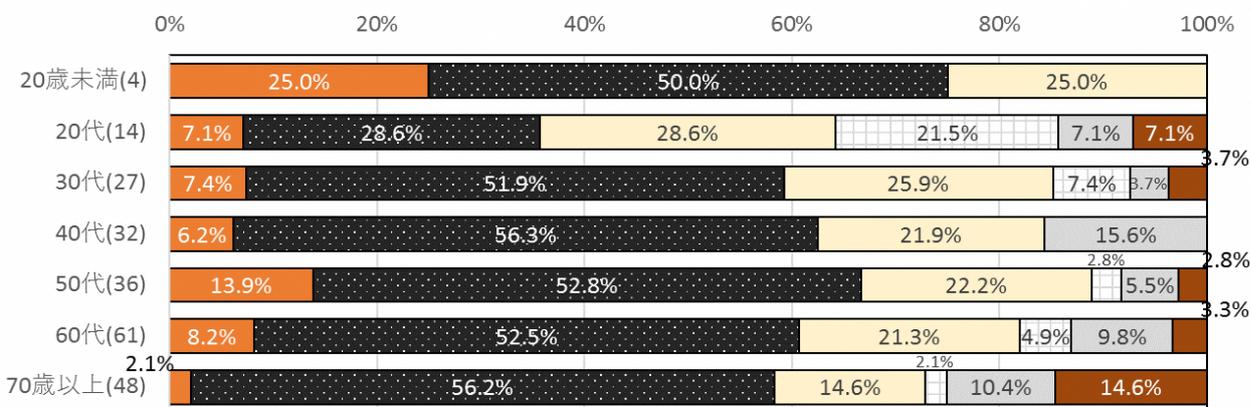


女性では、「男性優遇」とする割合が、男性では「平等」とする割合が高くなっています。年代別にみると、男女とも20代では平等とする割合が高くなっており、女性では40代、男性では50代で男性優遇とする割合が高くなっています。一方、男女とも60代、70歳以上になると、男性優遇とする割合が40代、50代に比べて低下する傾向となっています。

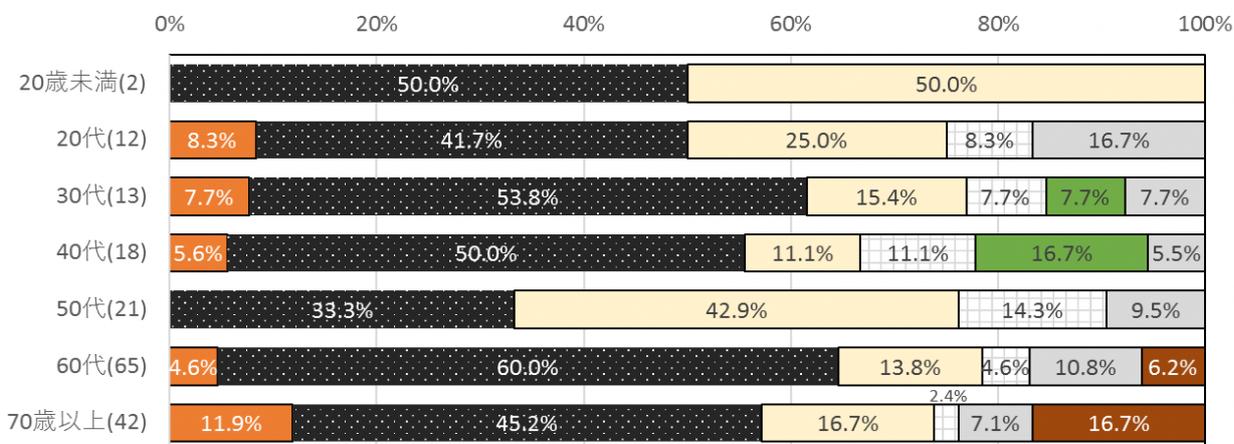
(ウ)職場のなかで



【女性年代別】

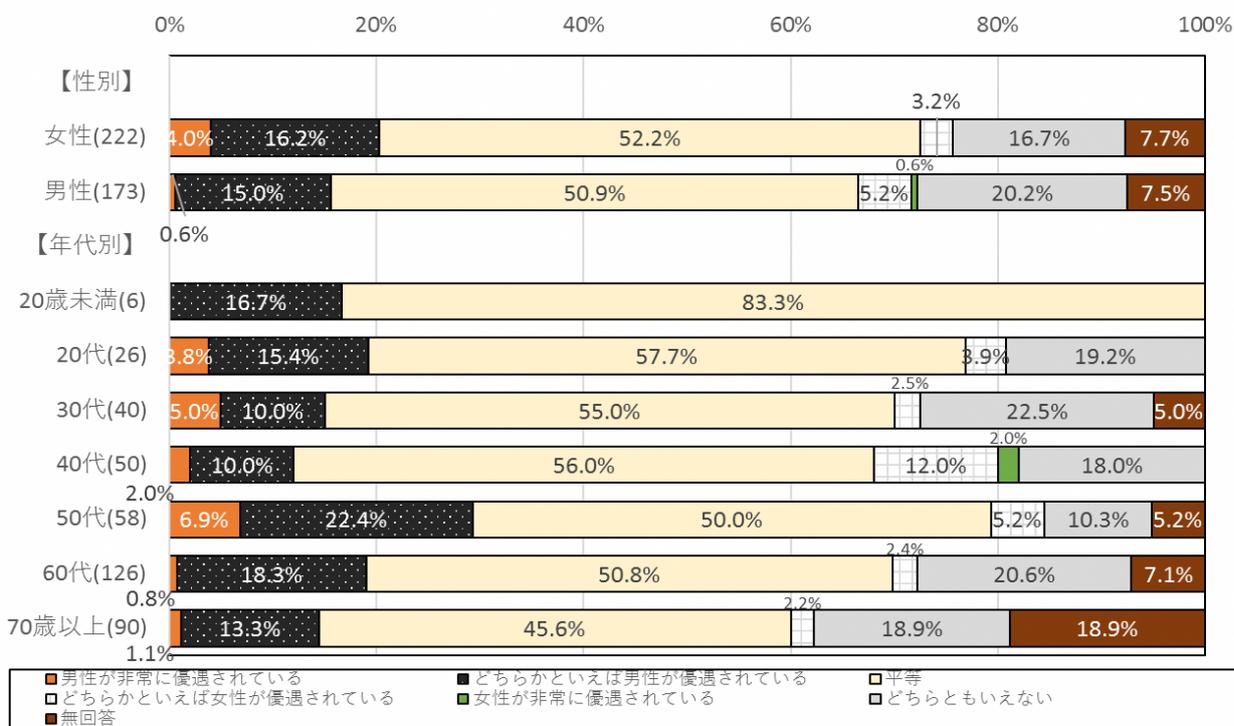


【男性年代別】

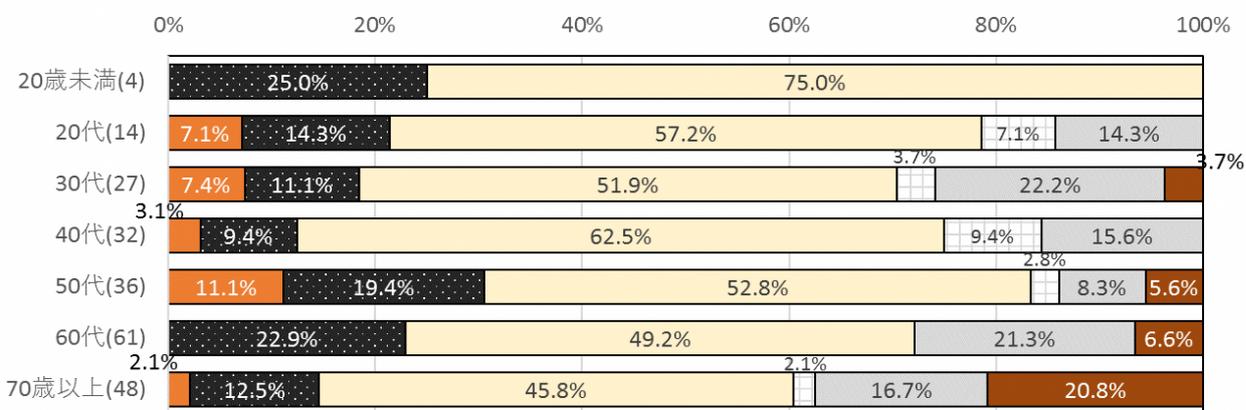


各性別や年代において、「男性優遇」とする割合が高くなっています。  
 50代男性では、「平等」とする割合が高くなっていますが、それ以外の年代では、男女共に男性優遇とする割合が最も高いか、平等とする割合と同程度になっています。

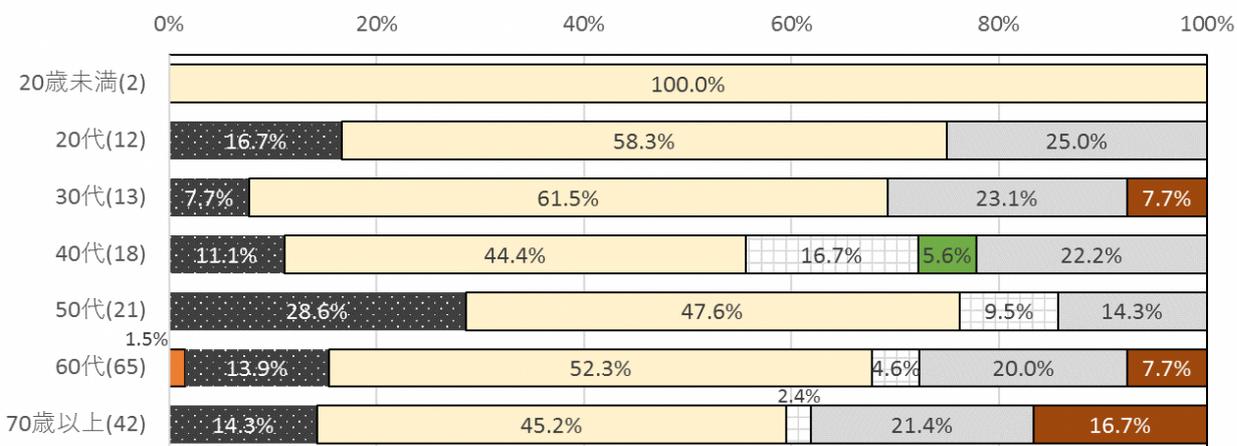
【エ】学校教育の場で



【女性年代別】

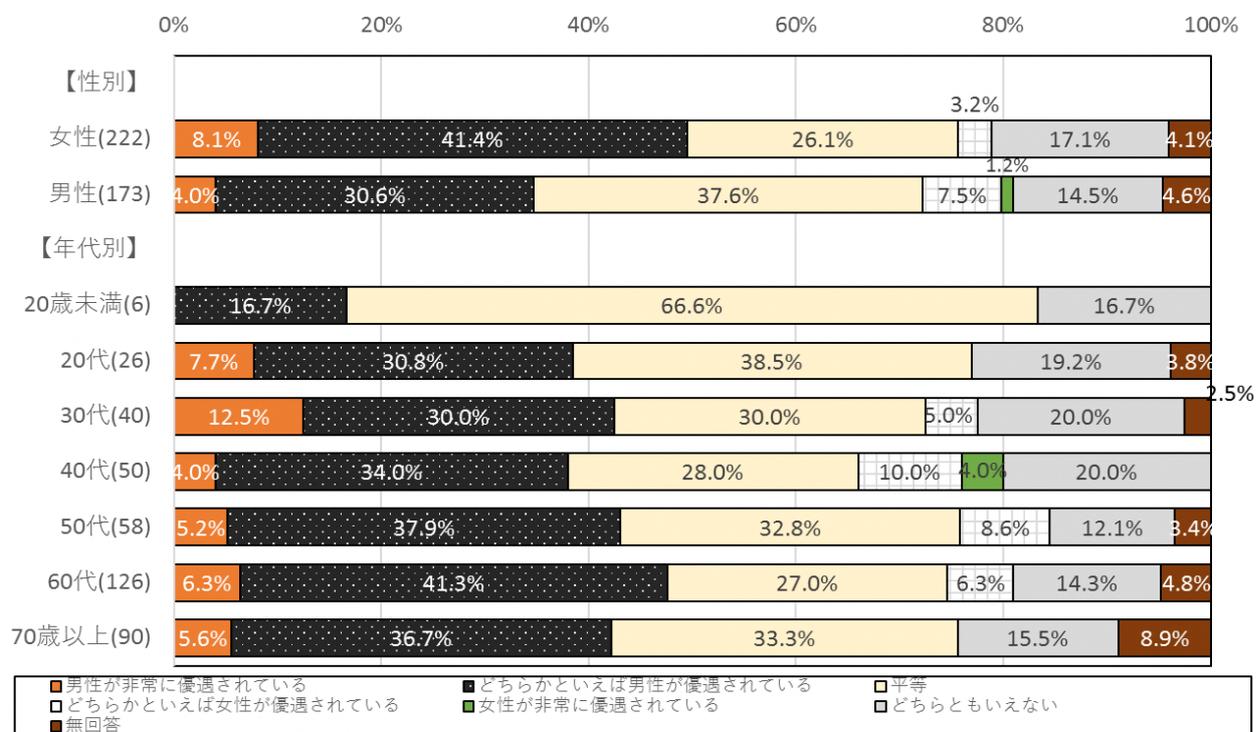


【男性年代別】

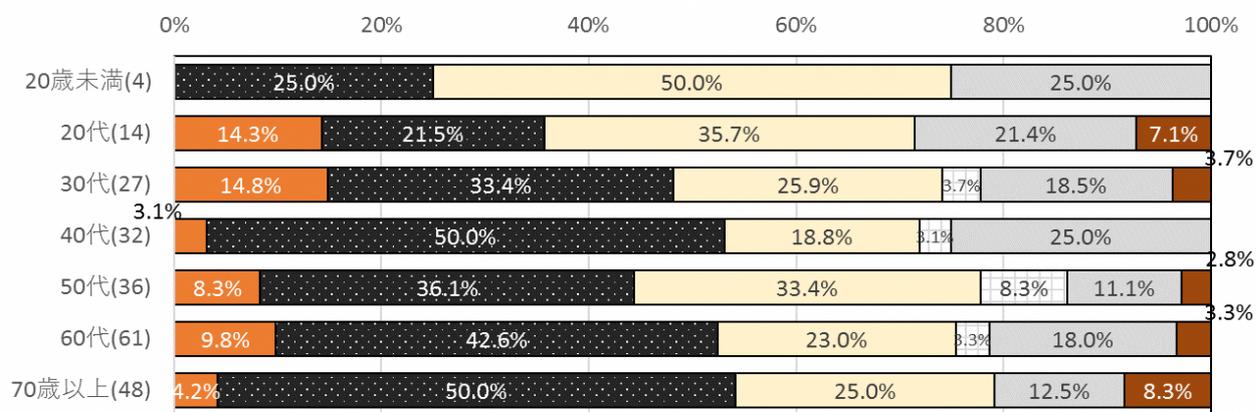


各性別や年代において、「平等」とする割合が高くなっています。  
 また、他の項目と比べ、「女性優遇」とする割合も低くなっていることが特筆されます。  
 男女とも、50代において「男性優遇」とする割合が最も高くなっています。

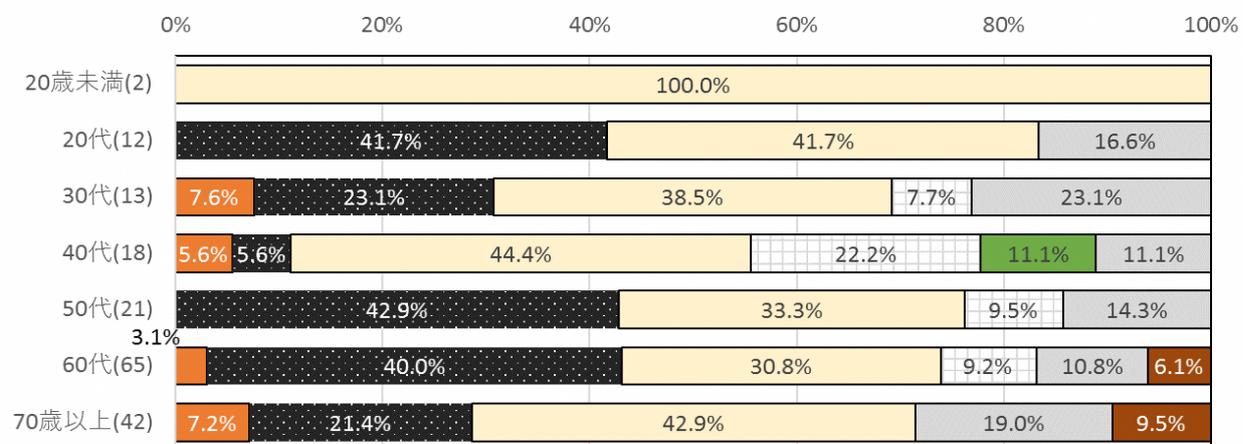
(オ) 地域活動の場で



【女性年代別】



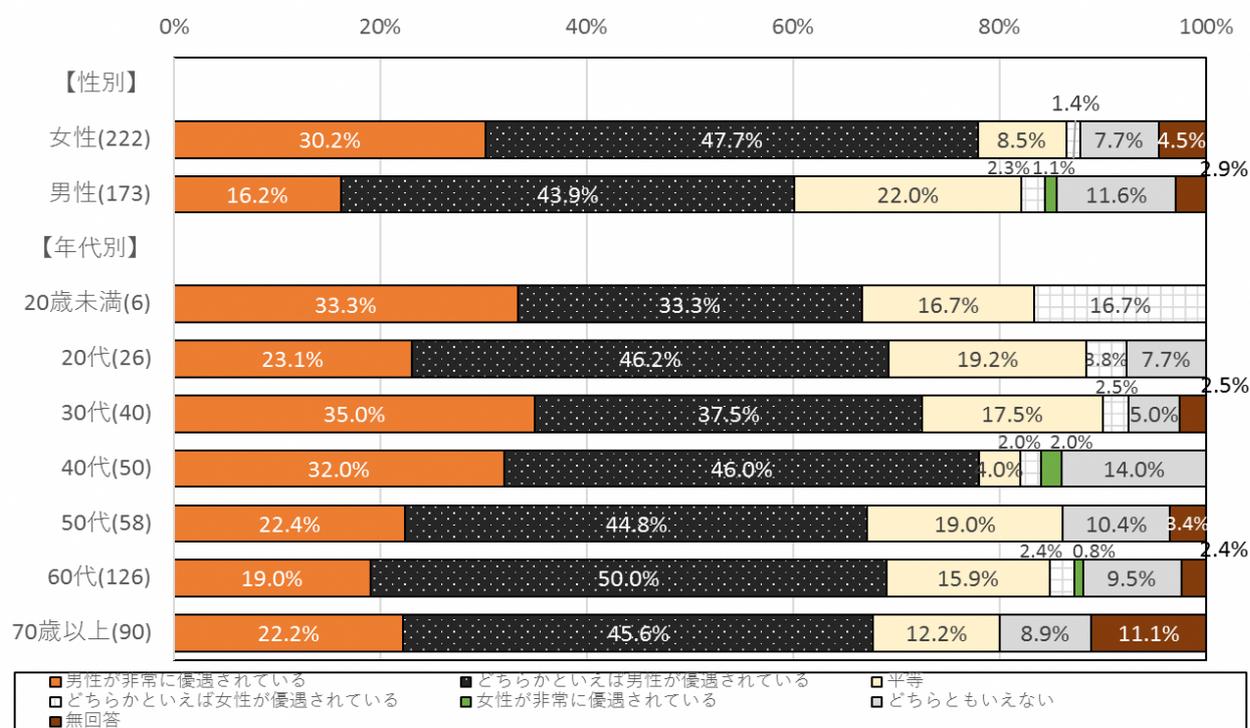
【男性年代別】



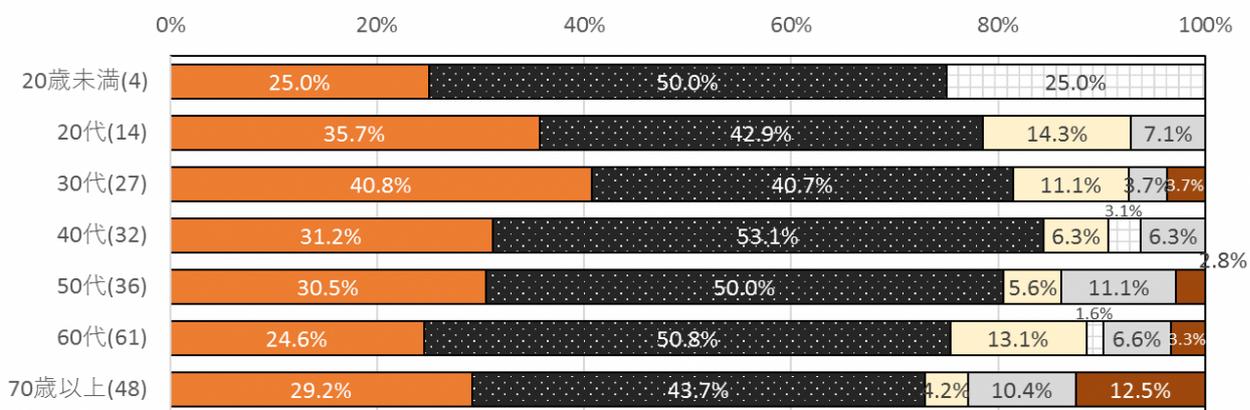
性別で見ると、男性については「男性優遇」と「平等」がほぼ同じ程度の割合ですが、女性については、50%近くが男性優遇としており、男性との差は15%近くになります。

年代別にみると、男性の40代で、「女性優遇」とした人の割合が約33%にのぼり、他の性別・年齢層と比べると際立って高い数字になっています。

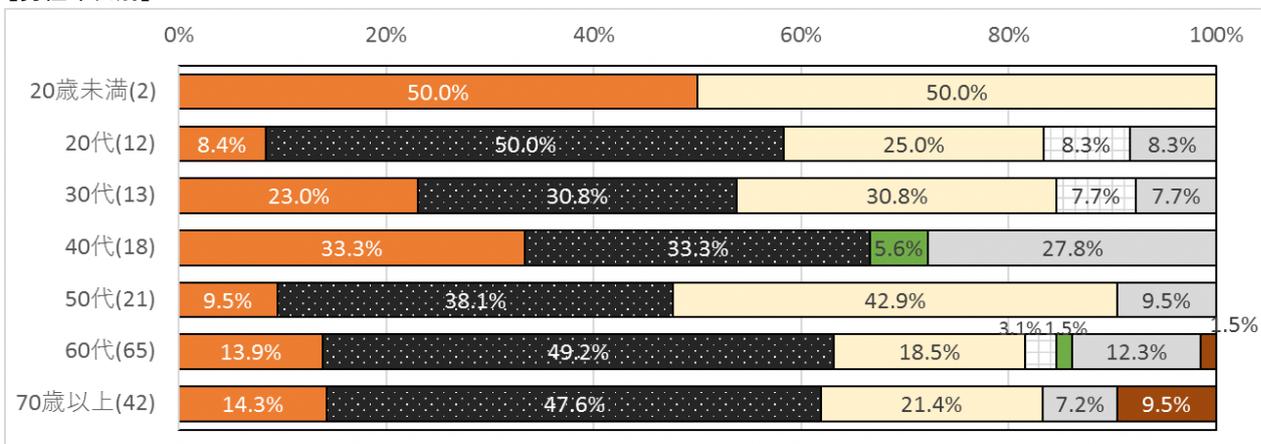
(カ)政治の場で



【女性年代別】

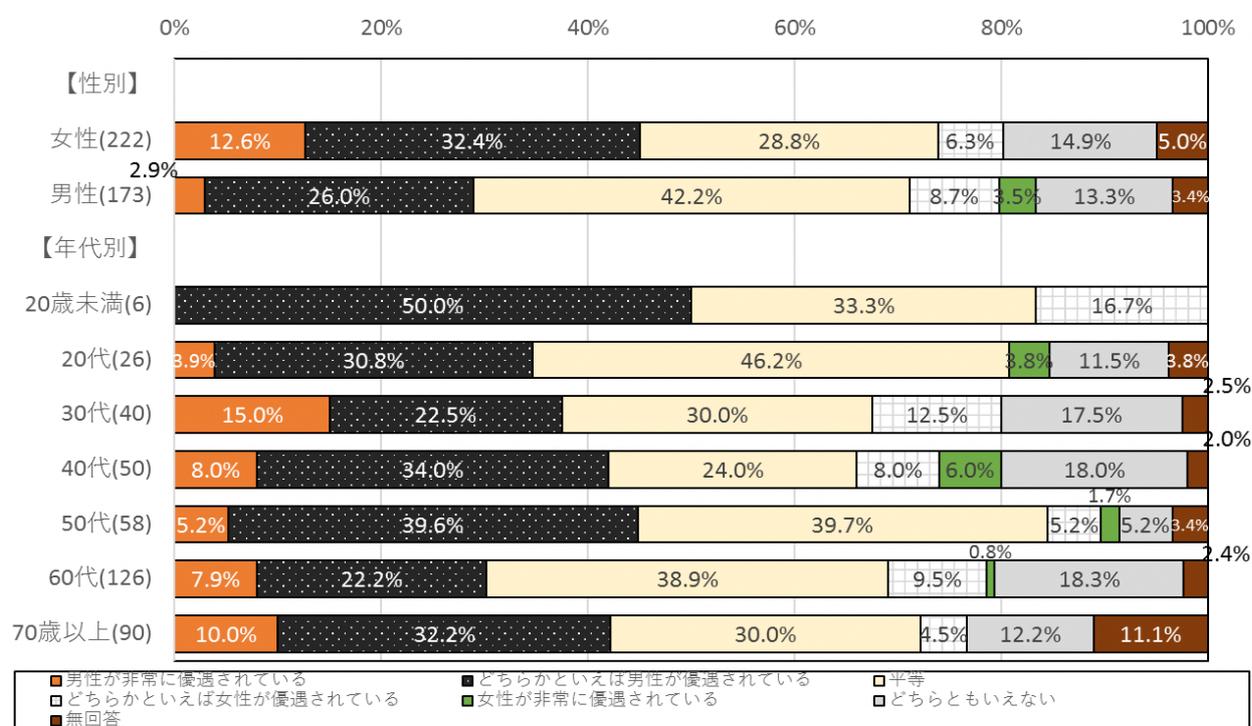


【男性年代別】

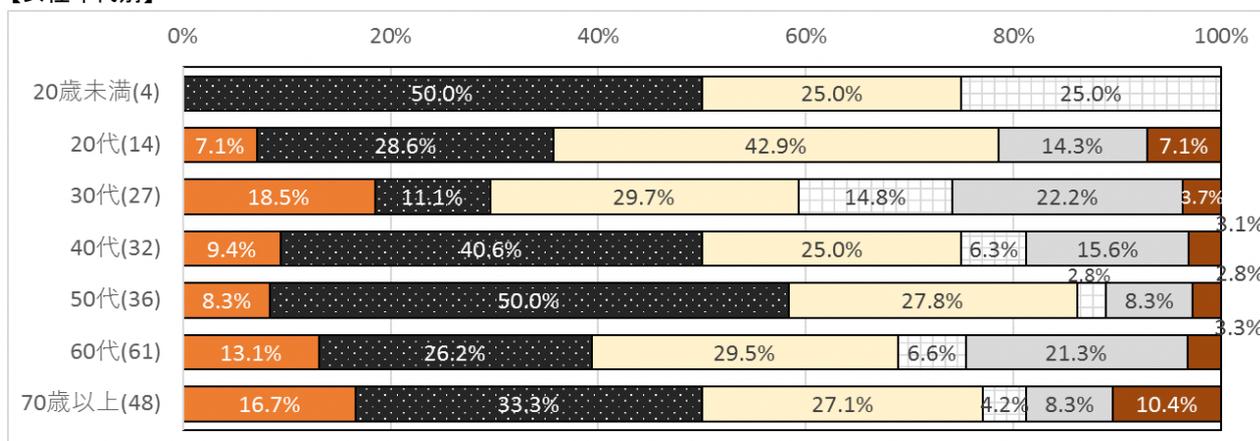


性別、各年代ともに、「男性優遇」とする割合が多くなっていますが、その割合は、女性77.9%、男性60.2%と、性別でみると18%近い開きがあります。  
 女性の40代では、85%近くが男性優遇としている一方、男性50代で男性優遇とした割合は50%弱にとどまり、年代別にみても男女間に差異が見られます。

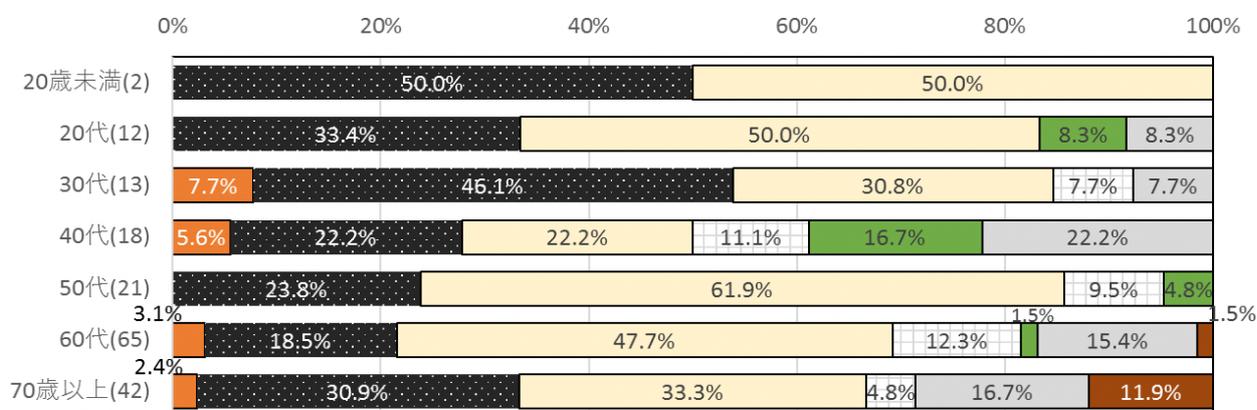
(キ) 法律や制度の上で



【女性年代別】

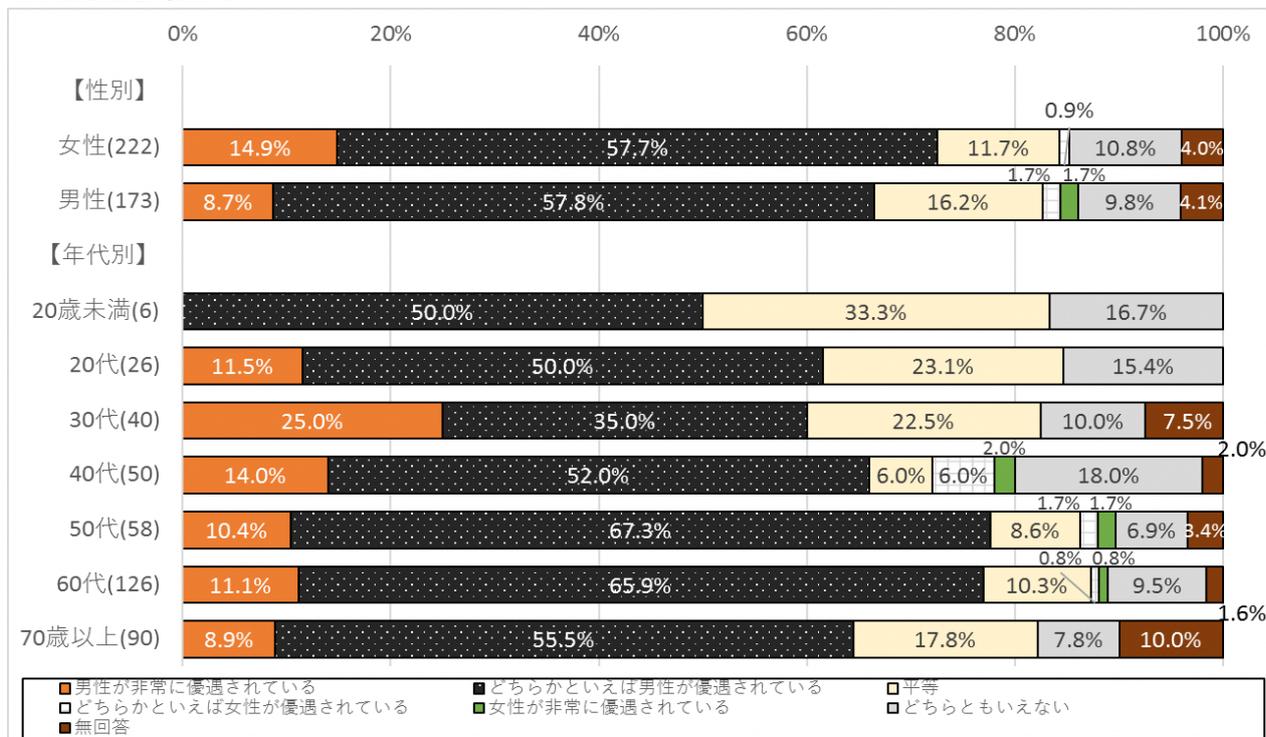


【男性年代別】

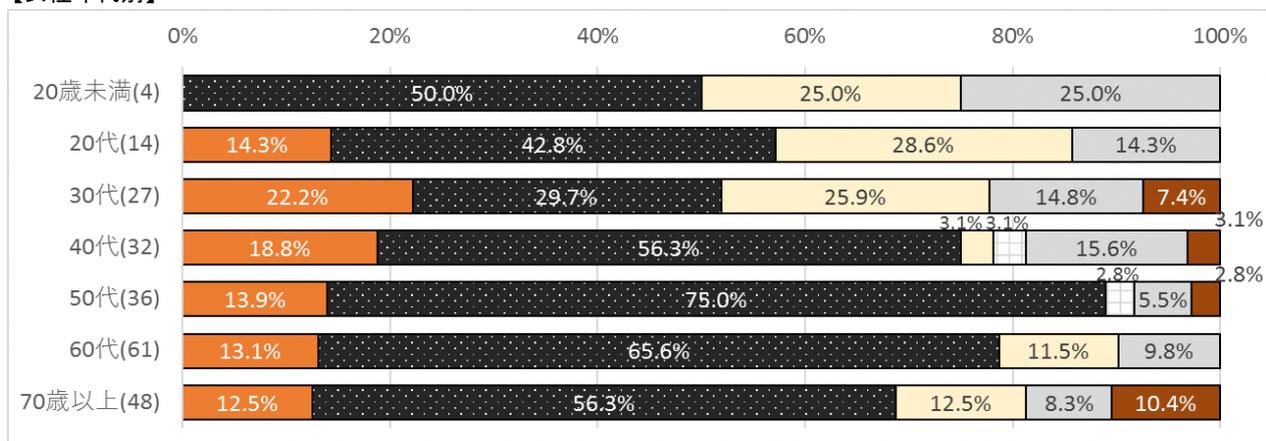


全般的にみると「男性優遇」と「平等」が同じような割合ですが、性別・年代別にみるとばらつきがあります。女性の40代、50代では、男性優遇とする割合が半数を占めているのに対し、男性の40代、50代、60代では、男性優遇とする割合が2割から3割弱となっています。また、男性の40代で「女性が非常に優遇されている」とした人の割合は16.7%となっていることが特筆されます。

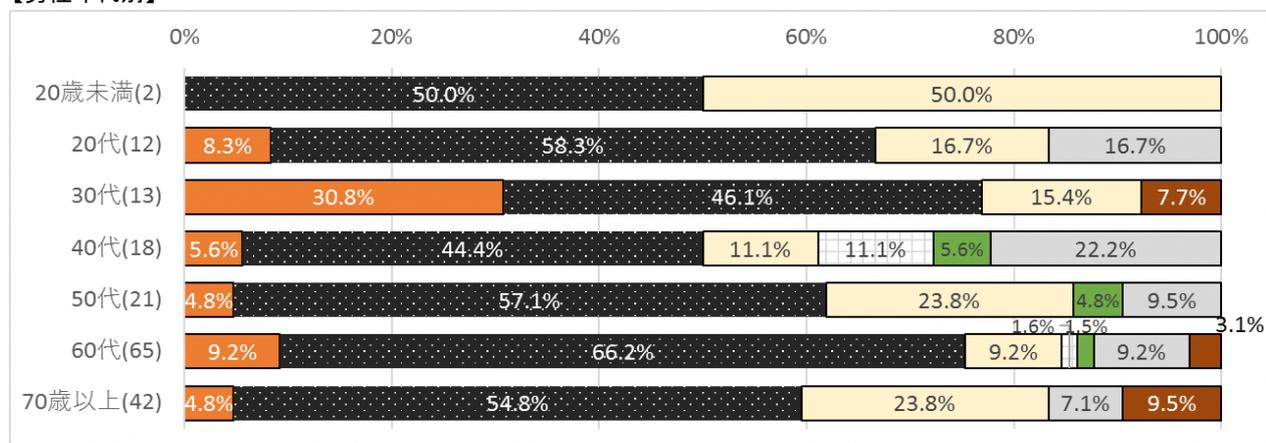
(ク)社会通念・慣習で



【女性年代別】



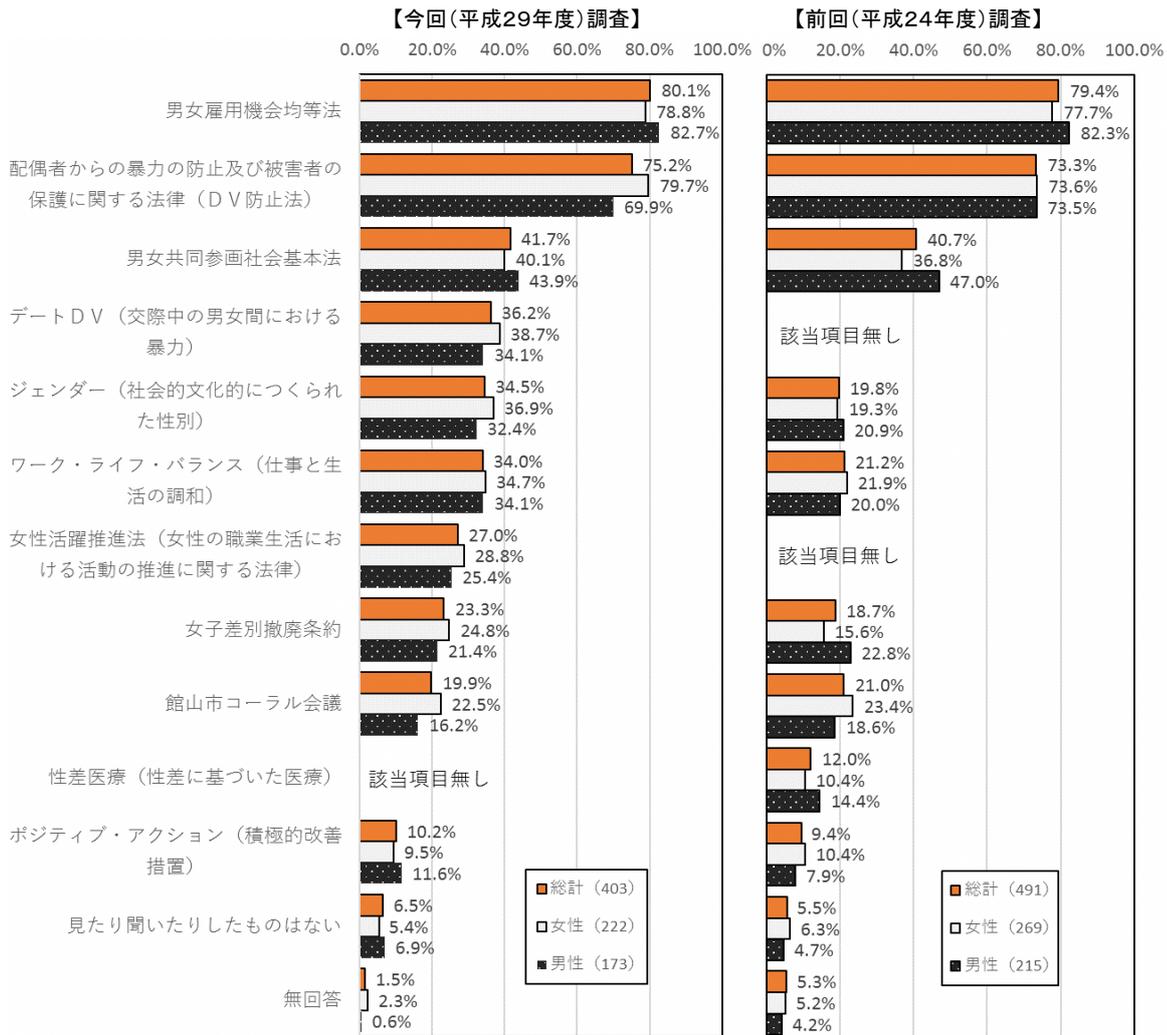
【男性年代別】



性別、各年代ともに、「男性優遇」とする割合が多くなっていますが、男女の年代別をみると傾向に差があります。女性においては、男性優遇とする割合が50代をピークに、それよりも若い世代と年長の世代では割合が低下しています。一方、男性においては、男性優遇とする割合のピークが30代と60代にあり、その他の世代では割合が低下しています。

### 3 男女共同参画に関する用語の認知度

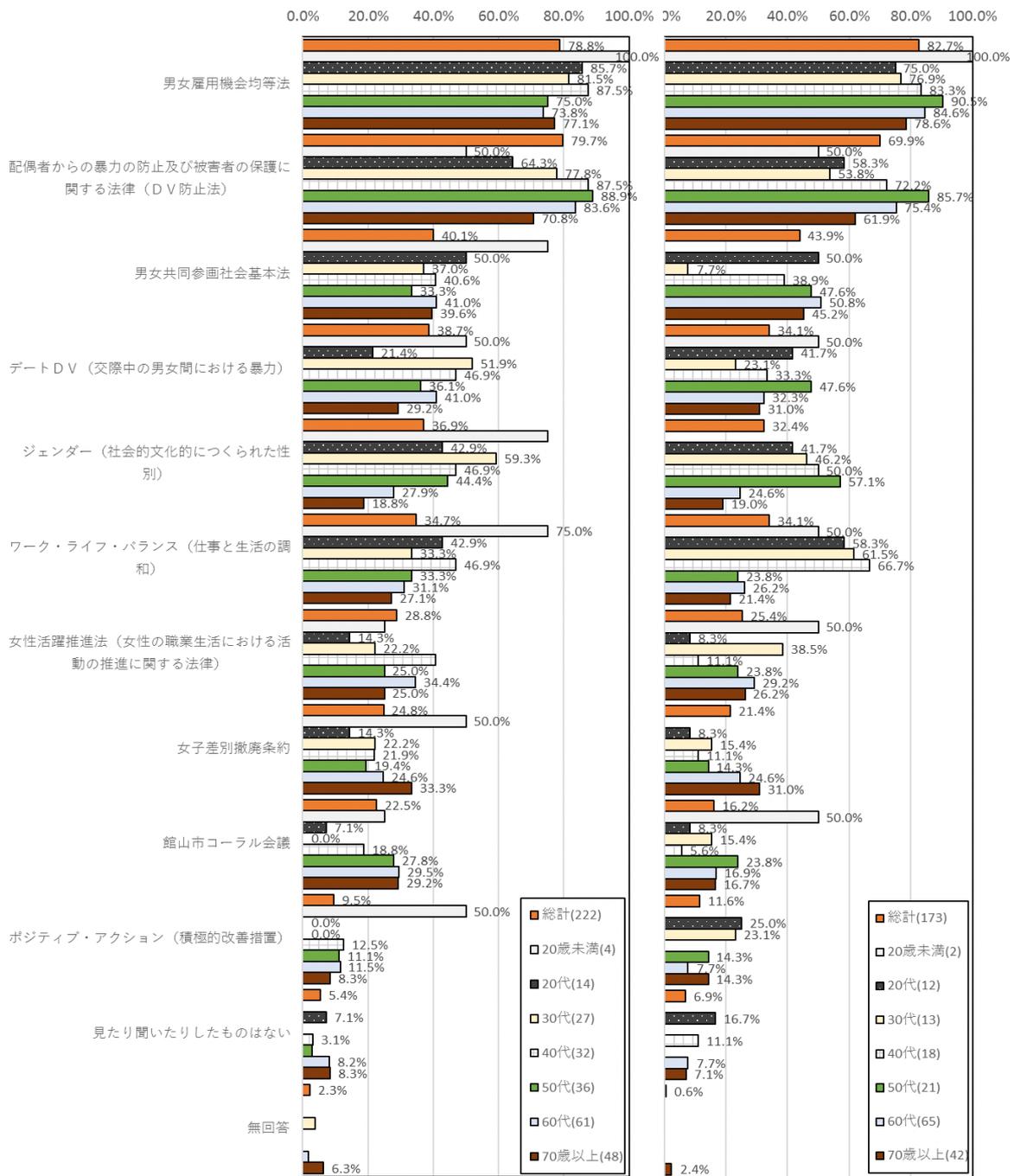
問2 次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。次の中から該当するものすべてを選んで、番号に○をつけてください。



男女共同参画に関する用語については、「男女雇用機会均等法」「DV防止法」「男女共同参画社会基本法」の順に認知度が高く、前回調査と同じ傾向を示しています。性別による差異が大きかったのは、DV防止法で、女性は男性に比べて認知度が約10%高くなっています。

なお、「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス」については、男女ともに前回調査と比べて認知度が大幅に高くなっています。

【年代別】



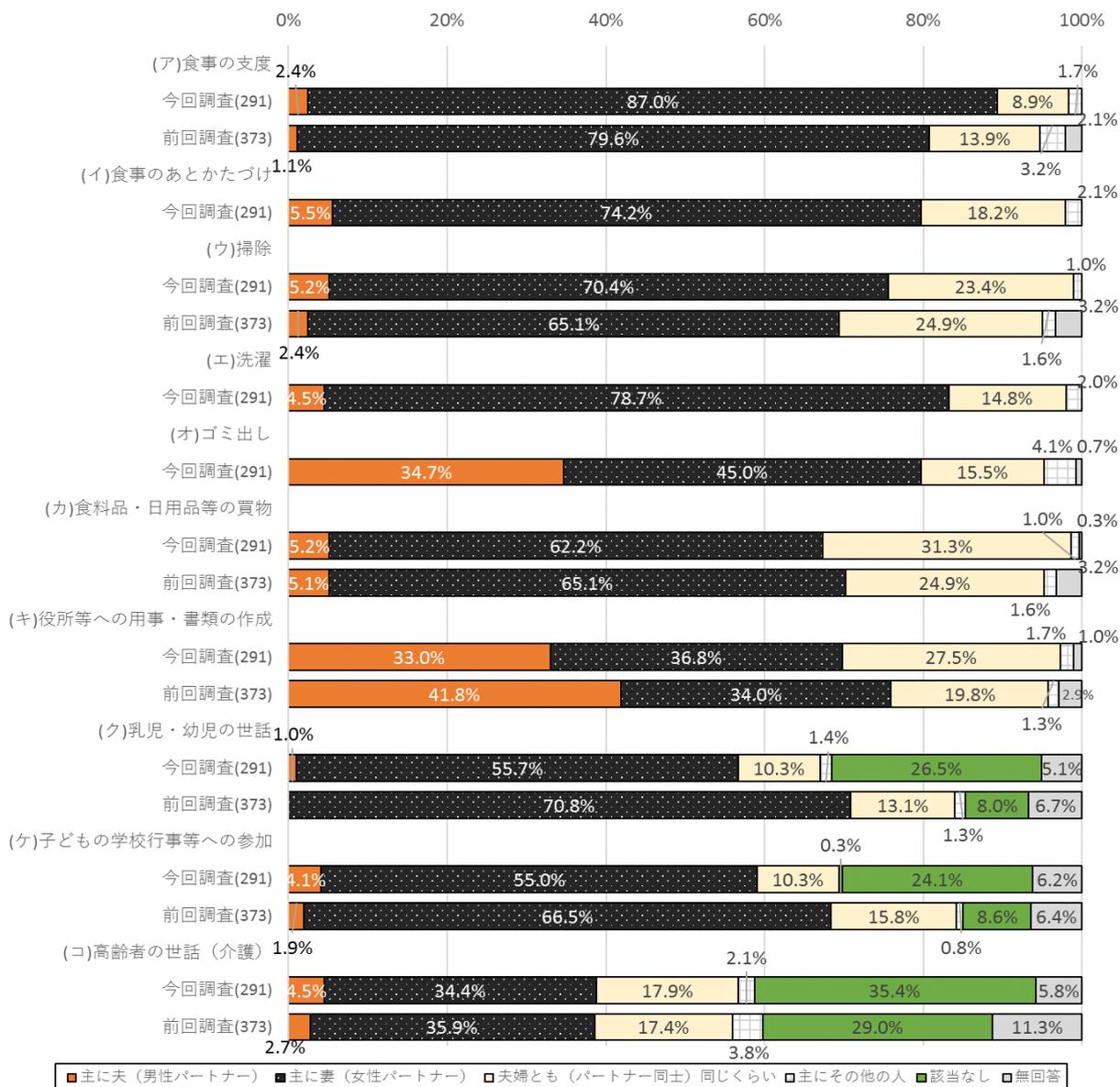
※数値が0.0%の年代については記載していません。

男女雇用機会均等法及びDV防止法については、全ての年代において認知度が高くなっています。

## 4 家庭生活について

### (1) 家事等の役割分担

問5 問3で「結婚している」とお答えの方に伺います。あなたのご家庭では、(ア)から(コ)にあげるような日常的な仕事を、主にどなたがしていますか。それぞれについて、次の中から1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

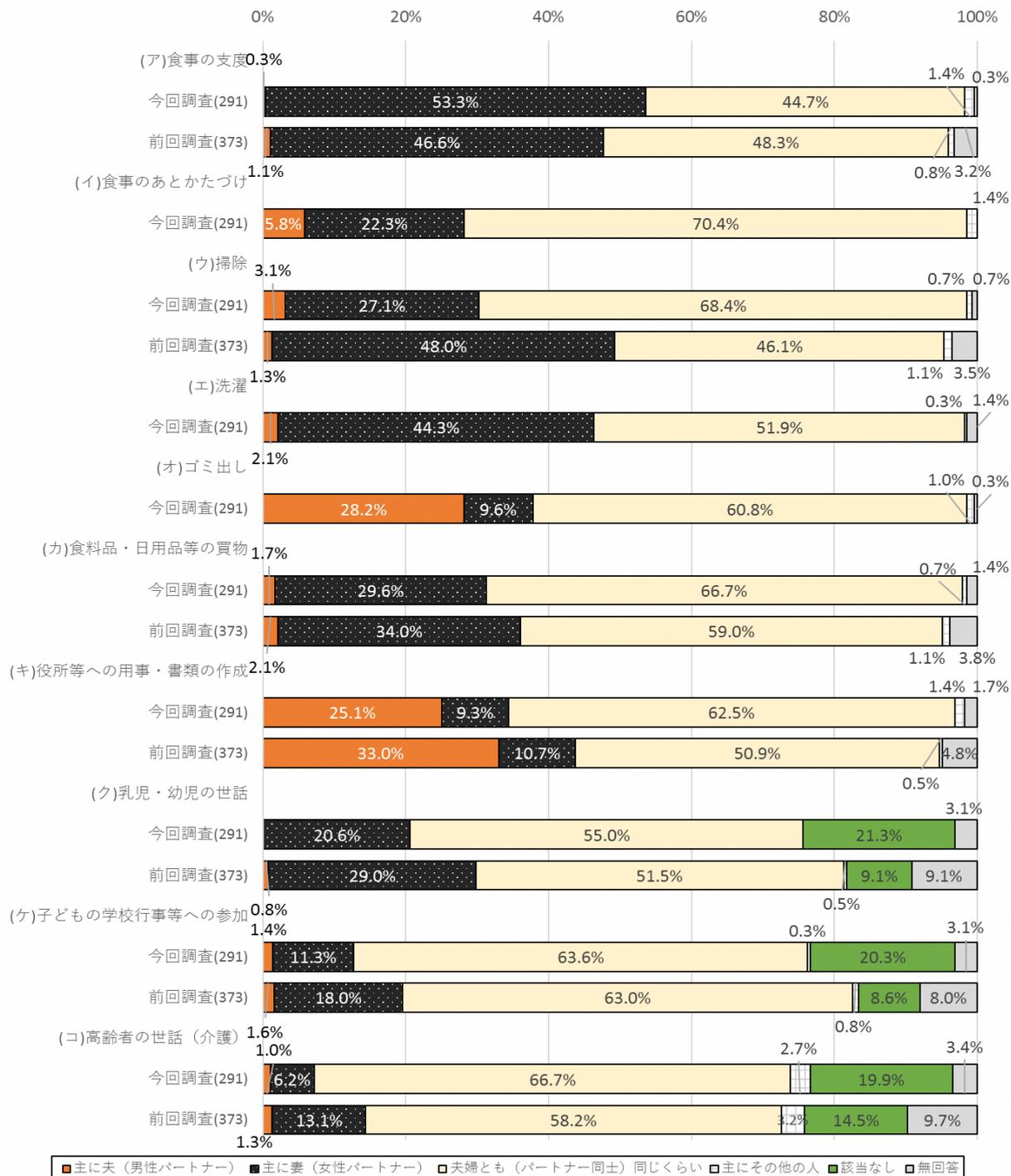


全般的に、「主に妻(女性パートナー)」の割合が多く、食事の支度や掃除については、前回調査と比べて、5%以上増加しています。

一方、ゴミ出しや役所等への用事・書類の作成については、「主に夫(男性パートナー)」の割合が高くなっていますが、役所等への用事・書類の作成については、前回調査より「主に夫(男性パートナー)」の割合が下がっています。

(2)理想的な家事等の役割分担

問6 同じく、(ア)から(コ)にあげるような日常的な仕事を、ご家庭内でどのように分担するのが、あなたにとって「理想」だと思いますか。それぞれについて、次の中から1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

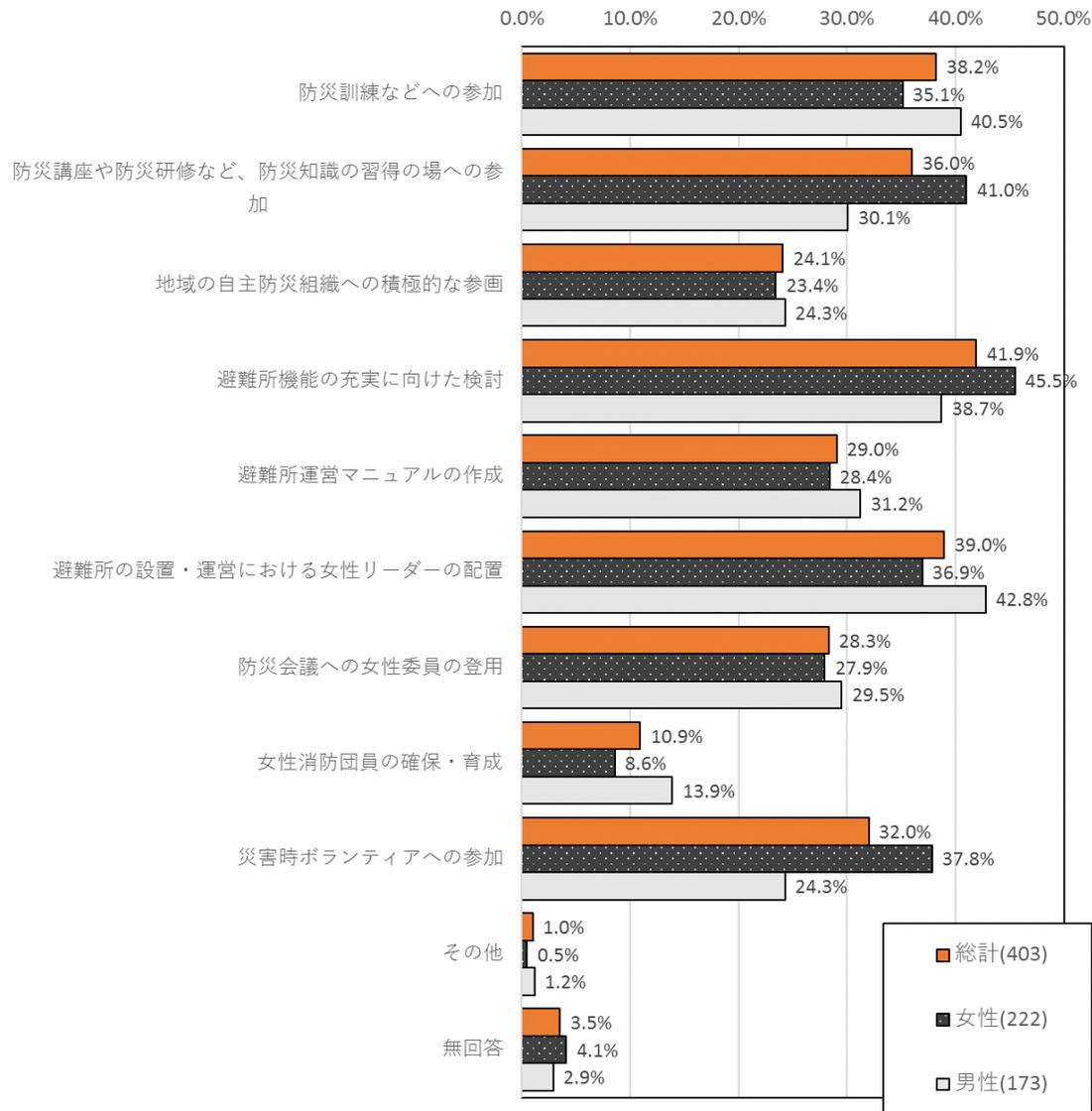


いずれの項目においても、「夫婦(パートナー)が同じくらい行う」ことが理想だとする割合が高くなっています。また、「食事の支度」を除き、前回調査よりもその割合が高まっています。

## 5 防災・災害復興対策について

### (1) 防災・災害復興対策における女性の活躍について

問7 防災・災害復興対策において、女性の視点が必要とされています。どのような取組・活動において、より女性の活躍が必要だと思いますか。次の中から3つ選んで、番号に○をつけてください。



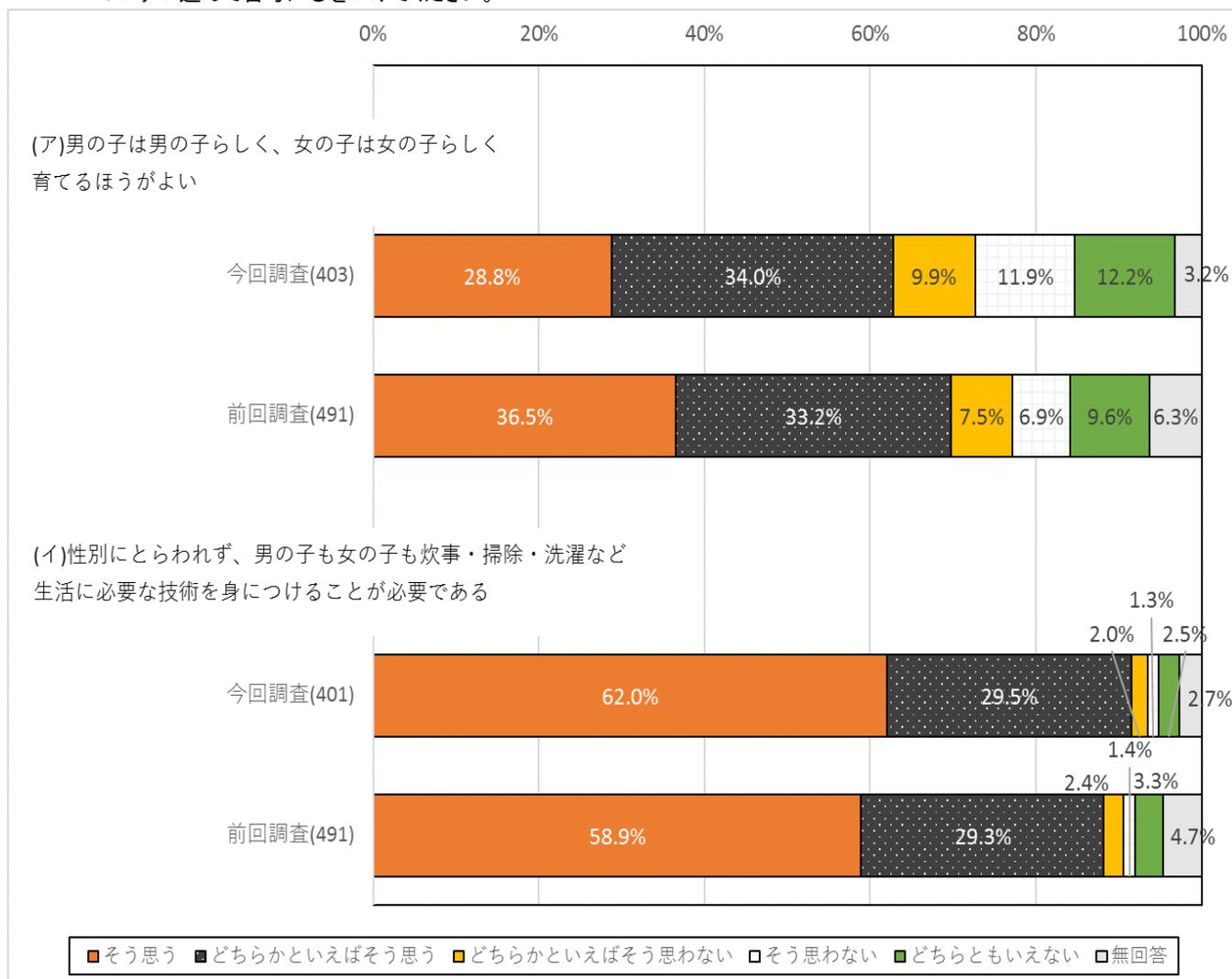
「必要」と答えた人の割合が最も多かったのが、「避難所機能の充実にに向けた検討」で、次いで「避難所の設置・運営における女性リーダーの配置」「防災訓練などへの参加」が続きました。

なお、「防災講座や防災研修など、防災知識の習得の場への参加」や「災害時ボランティアへの参加」については、女性が男性より10%以上高い割合で必要と回答しています。

## 6 教育について

### (1) 子どもの教育における男女平等の意識について

問8 あなたは、子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。次の(ア)から(イ)のそれぞれについて、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

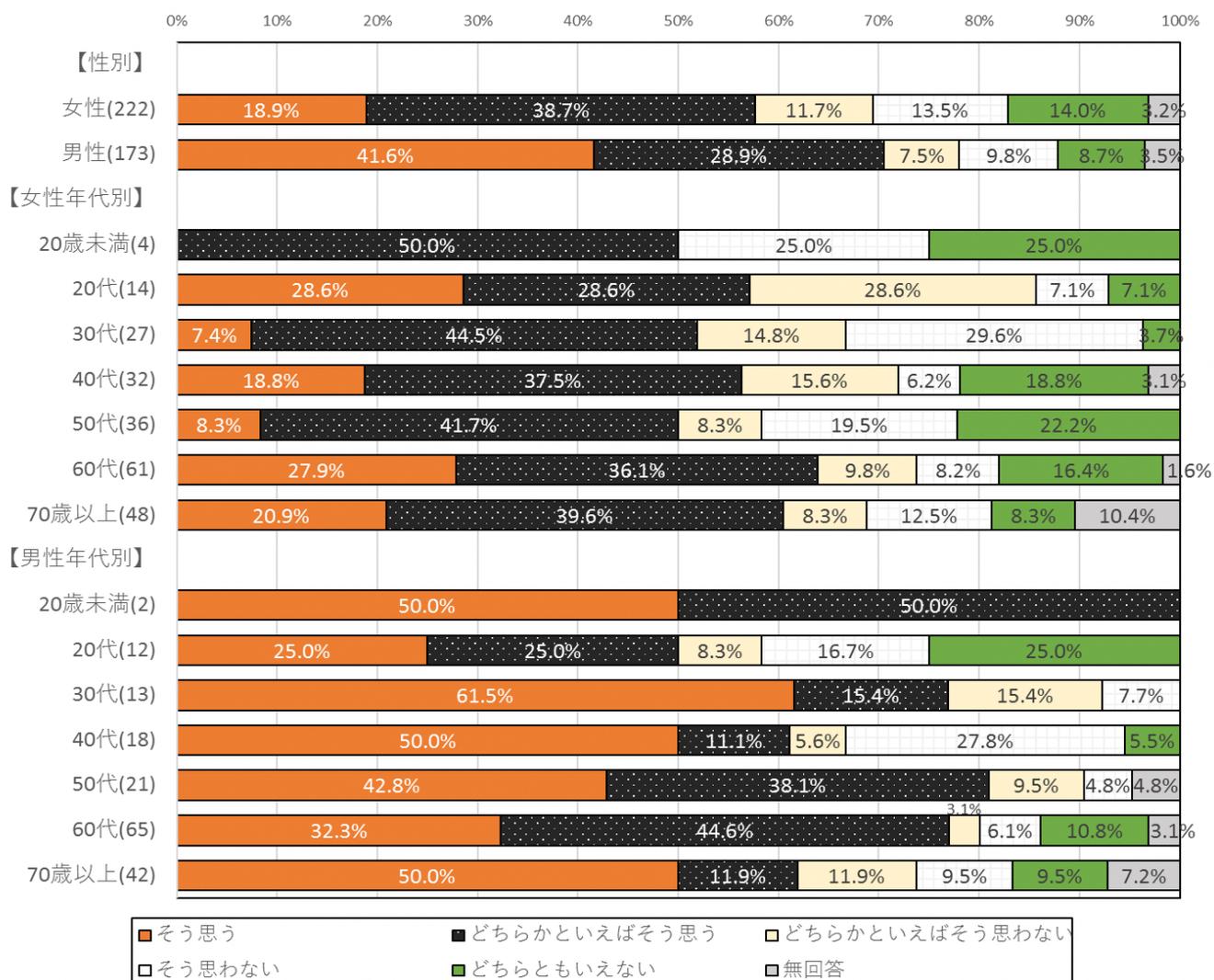


(ア)、(イ)いずれも、「そう思う」(「どちらかといえばそう思う」を含む)とする割合が最も多く、特に(イ)については、そう思うとした割合が91.5%に達しています。前回調査と比べると、(ア)についてはそう思うとした割合が低下しており、(イ)についてはそう思うとした人の割合が増えています。

また、(ア)については、「そう思わない」(「どちらかといえばそう思わない」を含む)とする割合も前回調査と比べ増加しており、21.8%となっています。

(1)子どもの教育における男女平等の意識について

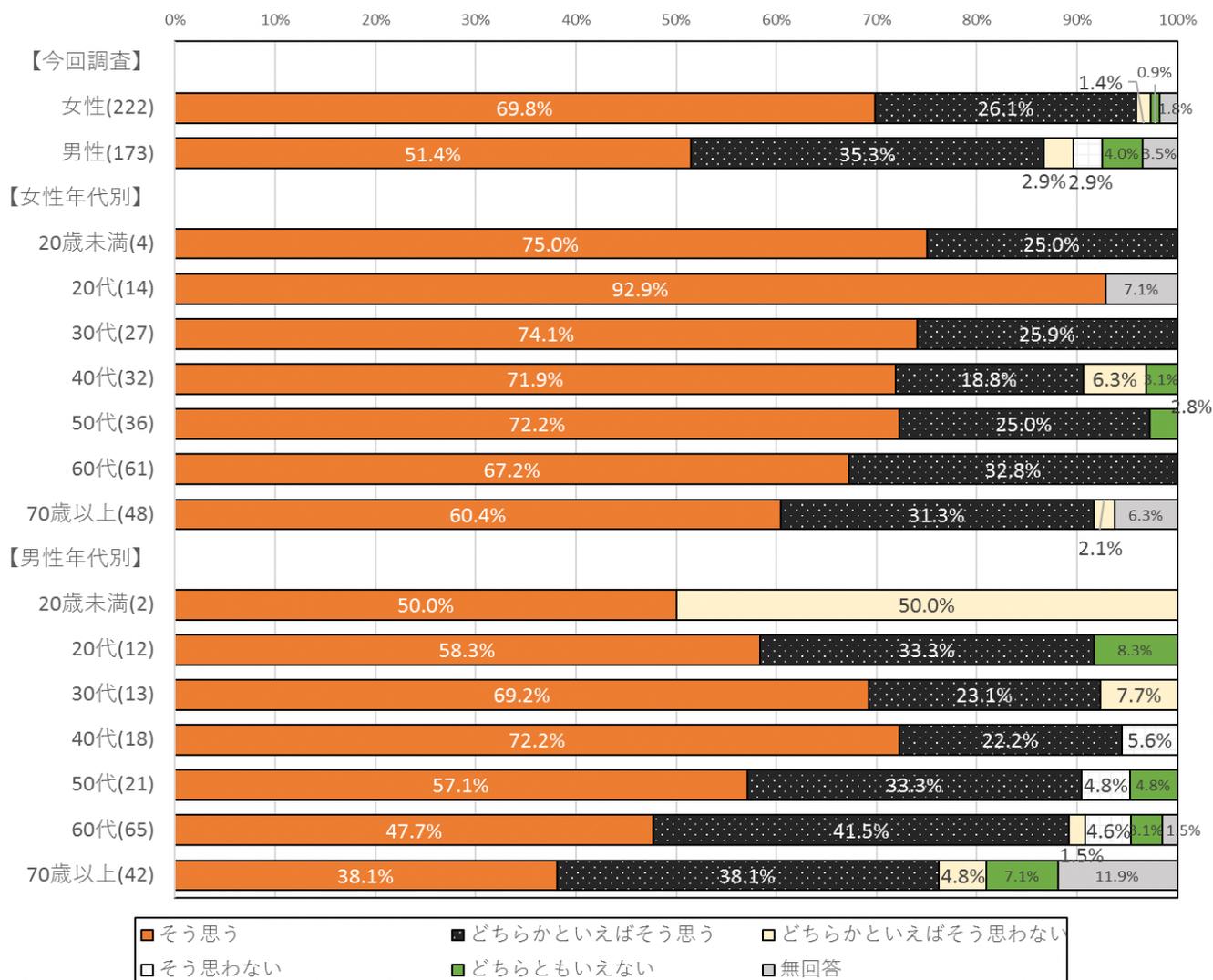
【年代別】(ア)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい



「そう思う」(「どちらかといえばそう思う」を含む)とした割合は、女性が57.6%、男性が70.5%にのぼり、最も高い結果となりました。年代別にみても、全ての世代で「そう思う」とした割合が高くなっていますが、女性の20代、30代、男性の40代においては、「そう思わない」(「どちらかといえばそう思わない」を含む)とする割合が30%を超えています。

(1) 子どもの教育における男女平等の意識について

【年代別】(イ) 性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である

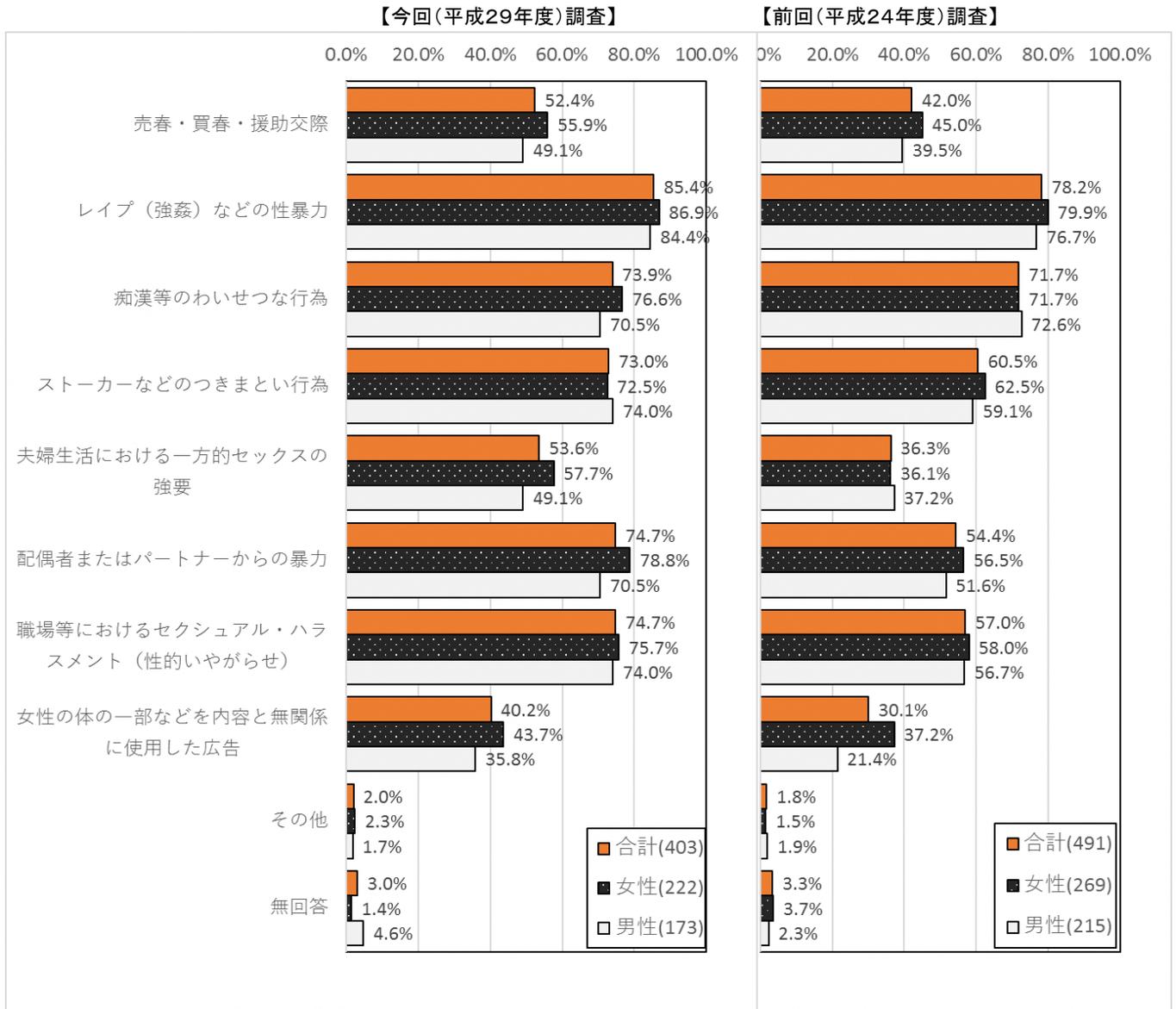


「そう思う」(「どちらかといえばそう思う」を含む)とした割合は、女性が95.9%、男性が86.7%にのぼり、最も高い結果となりました。年代別にみても、全ての世代で「そう思う」とした割合が高くなっており、女性は30代が最も高く、男性は40代がピークで、年代が上がるごとにその割合が低下しています。

## 7 人権について

(1)人権が侵害されていると考える事柄

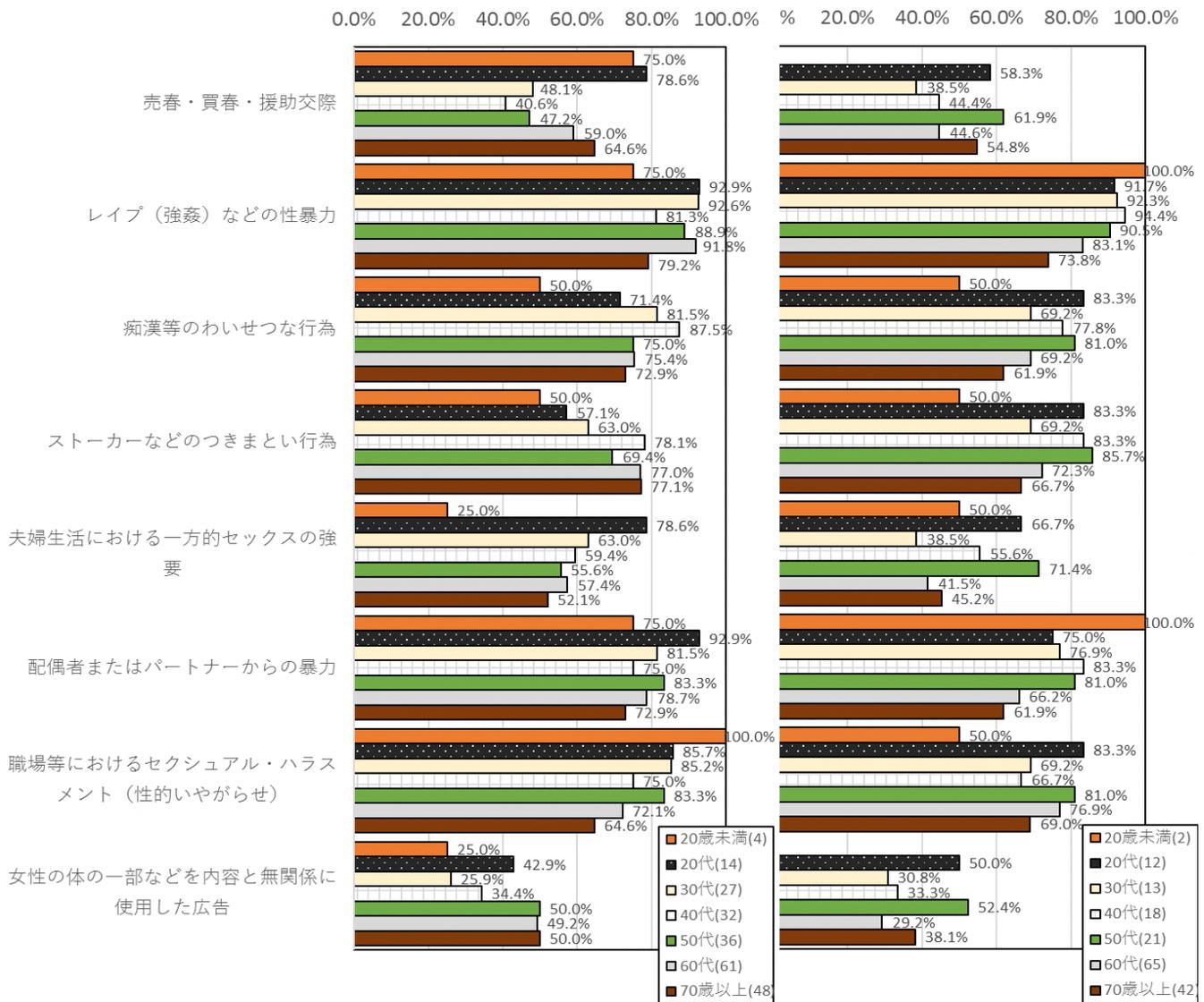
問9 あなたは、どのようなことについて、人権が侵害されていると感じますか。次の中から該当するものすべてを選んで、番号に○をつけてください。



「人権侵害だと感じる」とした割合は、「レイプ(強姦)などの性暴力」が最も高く、85.4%でした。それに次いで、「配偶者またはパートナーからの暴力」「職場等におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」が高い割合となりました。「暴力」「セクシュアル・ハラスメント」については、前回調査と比べ割合が大幅に増加しています。なお、全ての項目において前回調査よりも「人権侵害だと感じる」とした割合が増加しています。

(1) 人権が侵害されていると考える事柄

【年代別】

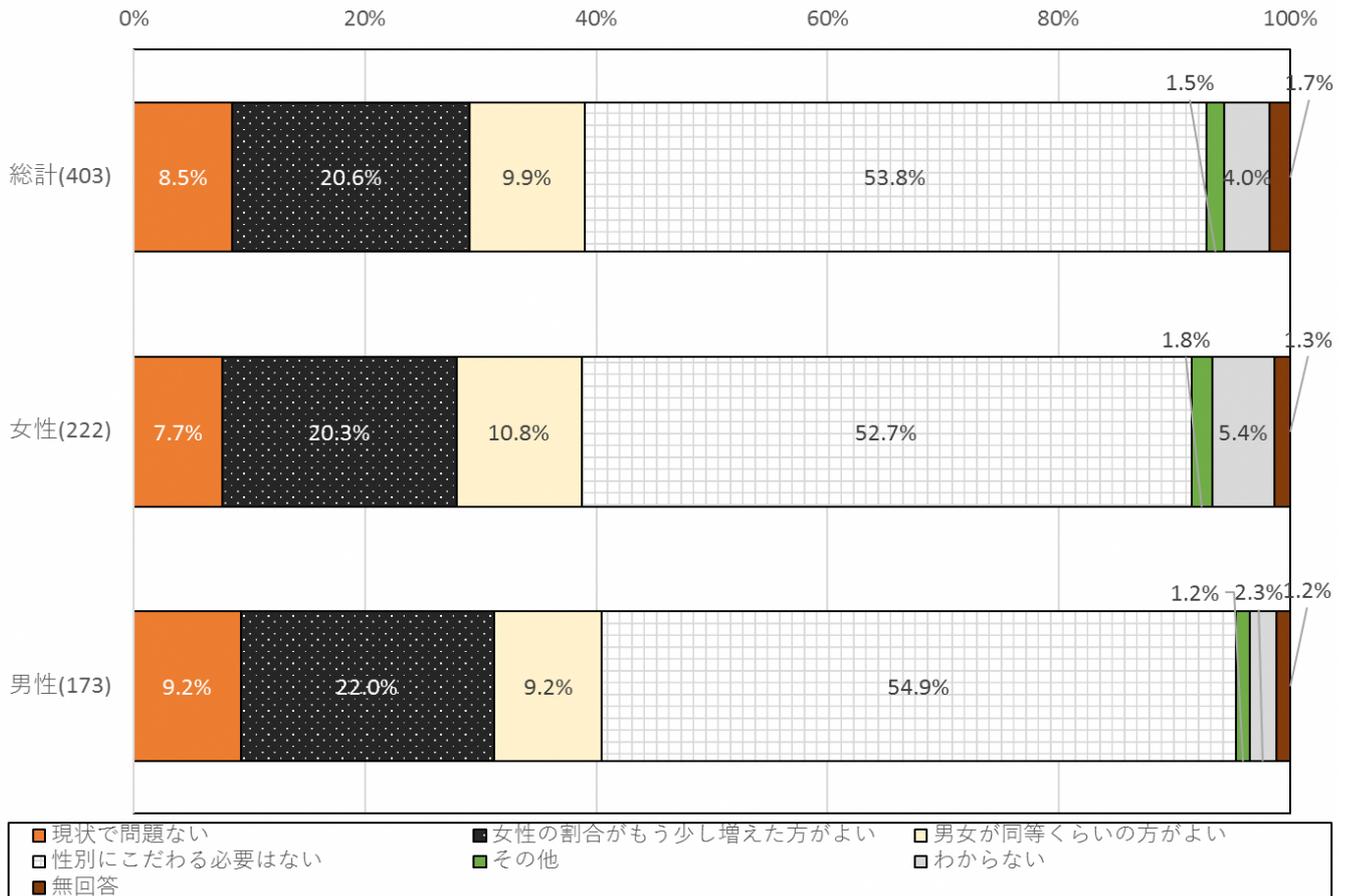


前頁の傾向と同じだが、年代別にみると、「売春・買春・援助交際」、「女性の体の一部などを内容と無関係に使用した広告」のように、年代が上がるにつれ、「人権侵害と感じる」と答えた割合が上がる項目と、「夫婦生活における一方的セックスの強要」、「職場等におけるセクシュアル・ハラスメント」のように、年代が上がるにつれ「人権侵害と感じる」と答えた割合が下がる項目があることがわかります。

## 8 社会活動等への女性の参画について

### (1) リーダー的地位に占める女性の割合について

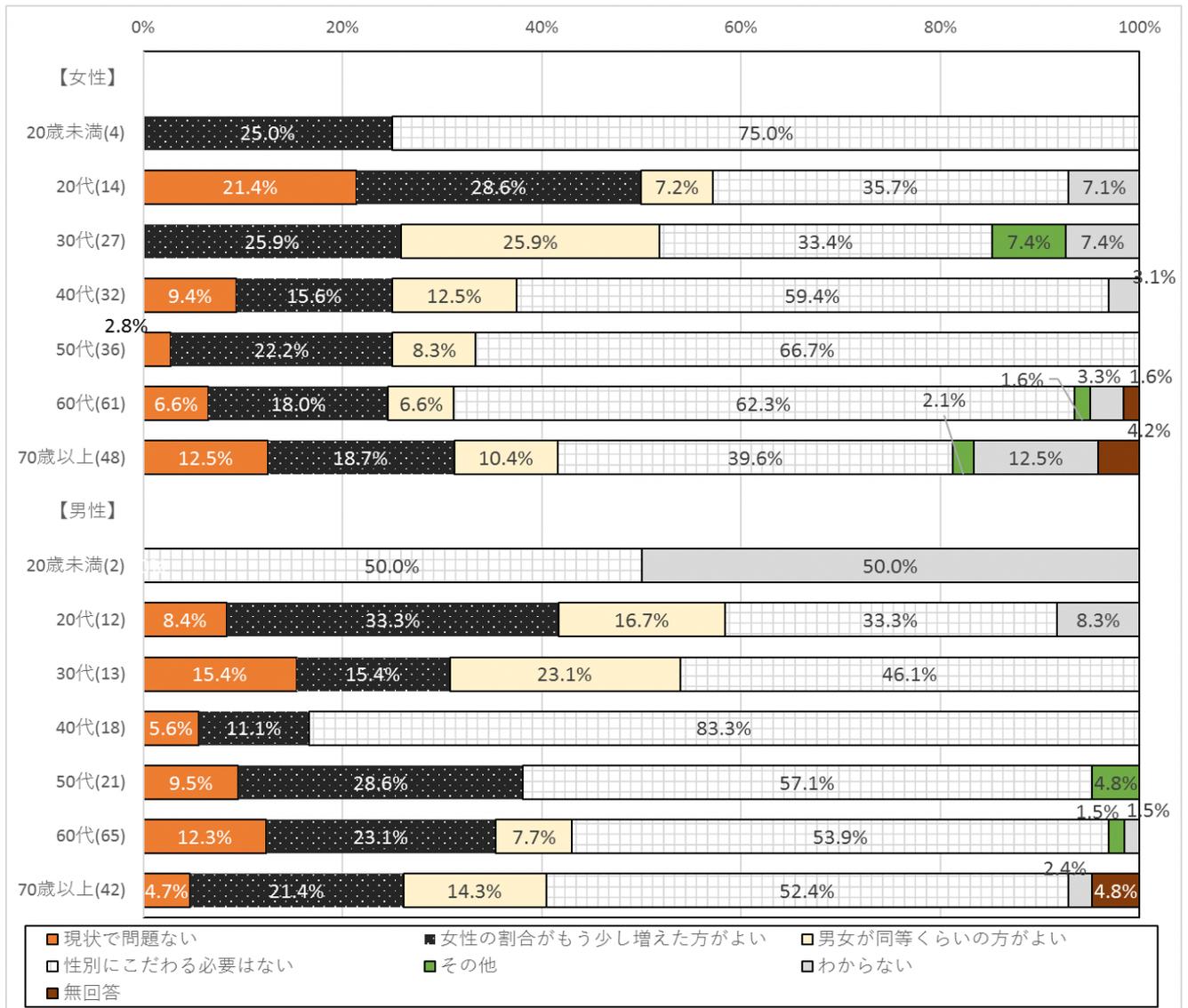
問10 さまざまな職業や分野において、リーダー的地位に占める女性の割合をどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んで、番号に○をつけてください。



女性、男性とも、半数が「性別にこだわる必要はない」と回答しました。「女性の割合がもう少し増えたほうがよい」と答えた人の割合は20%程度で、女性より男性の方が若干割合が高くなっています。「男女が同等くらいの方がよい」「現状で問題ない」と答えた人の割合は、10%弱でした。

(1)リーダー的地位に占める女性の割合について

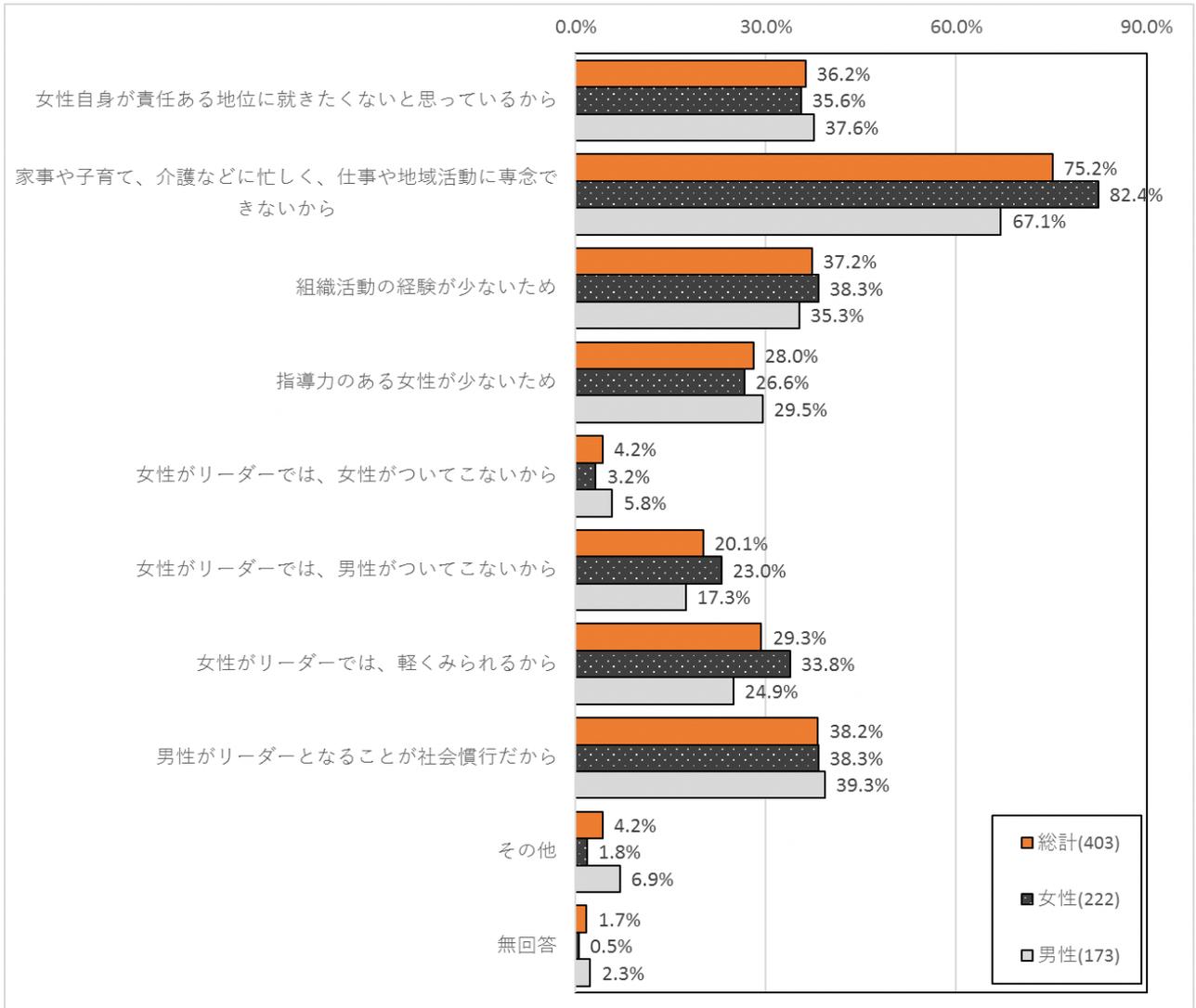
【年代別】



年代別にみると、男性40代で「性別にこだわる必要はない」と答えた人の割合が83.3%と突出して高くなっています。また、男性30代で「女性の割合がもう少し増えた方がよい」と答えた人の割合が33.3%と、全年代を通じて最も高くなっているほか、女性20代で「現状で問題ない」と答えた人の割合が21.4%と、全年代を通じて最も高くなっていることが特筆されます。

(2) 女性のリーダーが少ない要因について

問11 あなたは、職場や地域活動等で、女性のリーダーが少ない要因は何だと思いますか。あなたの考えに近いものを3つ選んで、番号に○をつけてください。



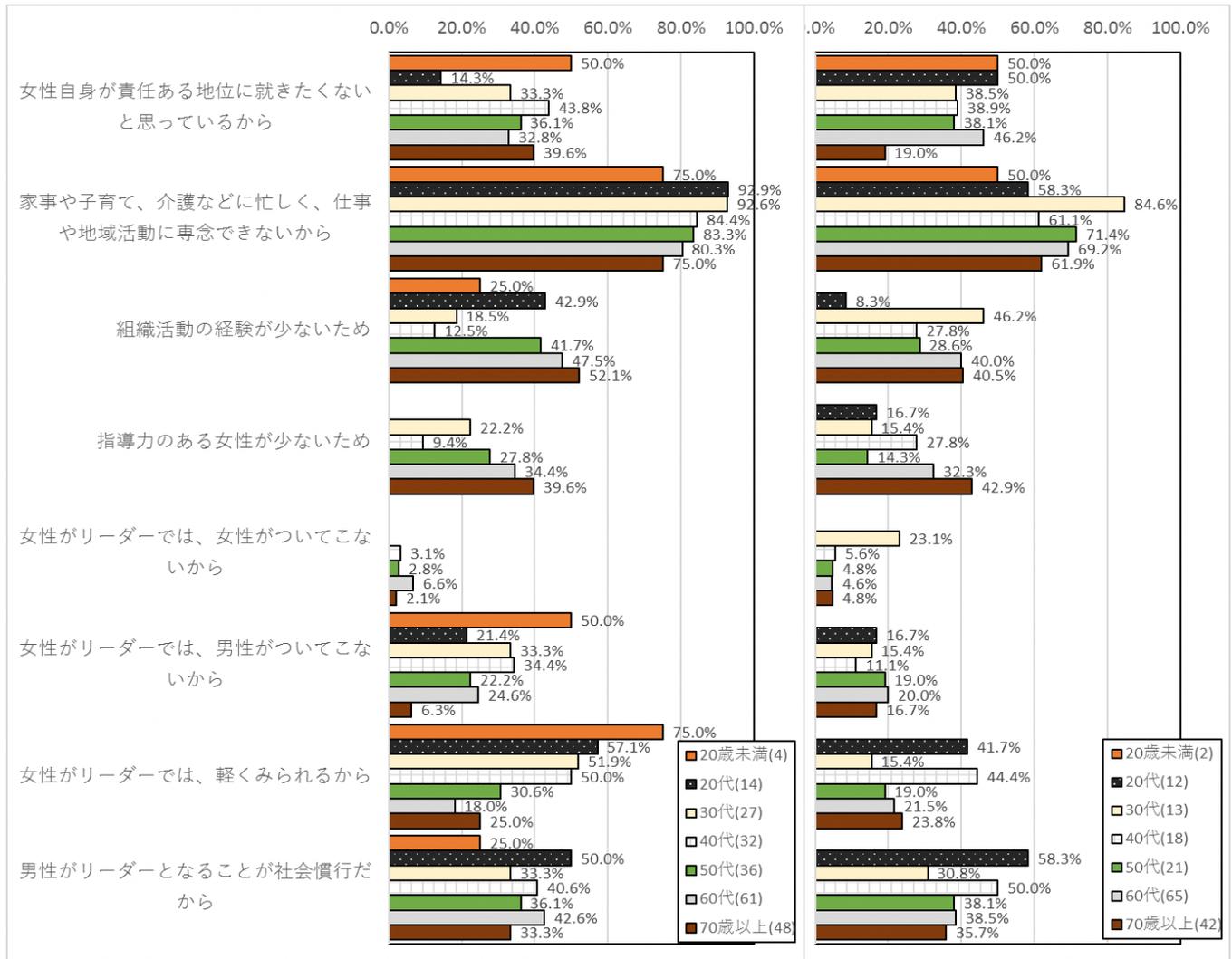
考えられる要因として「家事や子育て、介護などに忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」と答えた人の割合が最も高く、全体で75.2%となっています。ただし、この項目において、女性は82.4%の人が要因として挙げているのに対し、男性は67.1%となっており、15%ほどの差が出ています。また、「女性リーダーでは、かるくみられるから」を要因として挙げた人についても、10%ほど女性の方が高くなっています。

(2) 女性のリーダーが少ない要因について

【年代別】

【女性】

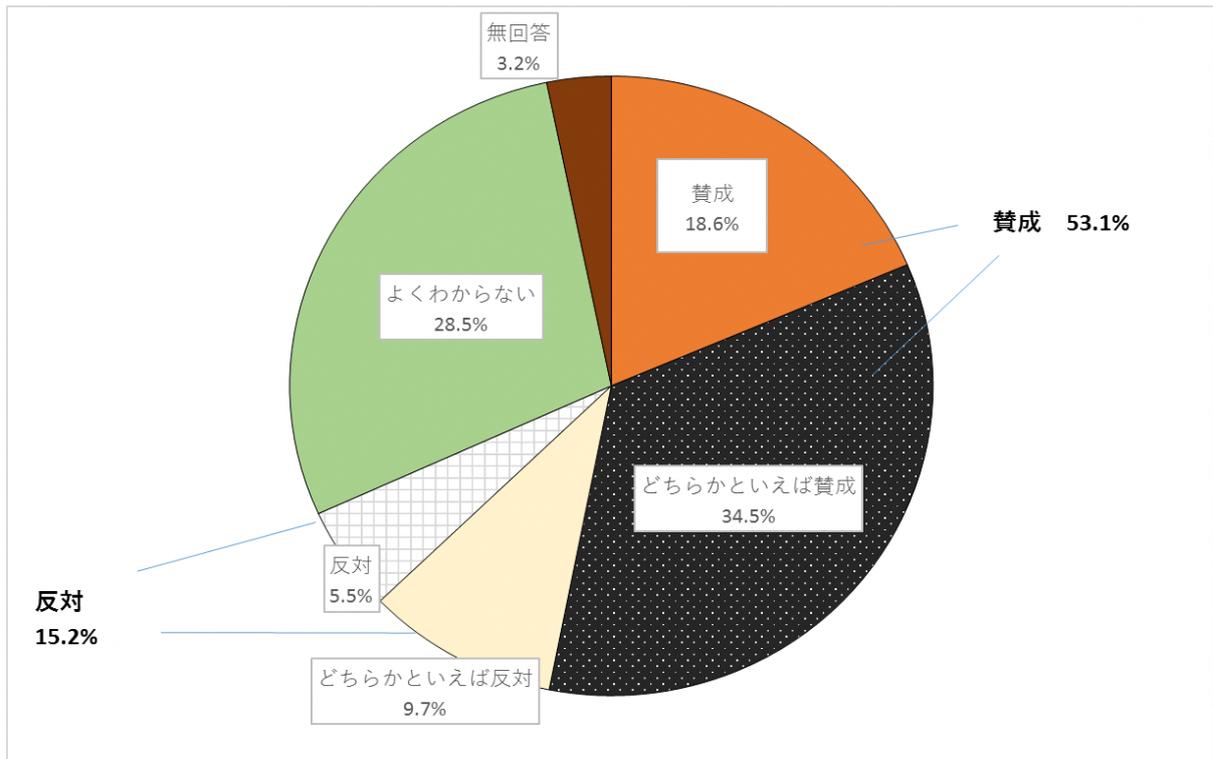
【男性】



全年代を通じ、「家事や子育て、介護などに忙しく、仕事や地域活動に専念できないから」と答えた人の割合が最も高くなっています。なお、男女とも、「組織活動の経験が少ないため」「指導力のある女性が少ないため」は上の年代のほうが割合が高く、逆に「女性がリーダーでは軽くみられるから」では、若い年代のほうが割合が高い傾向がみられます。

(3) ポジティブ・アクションについて

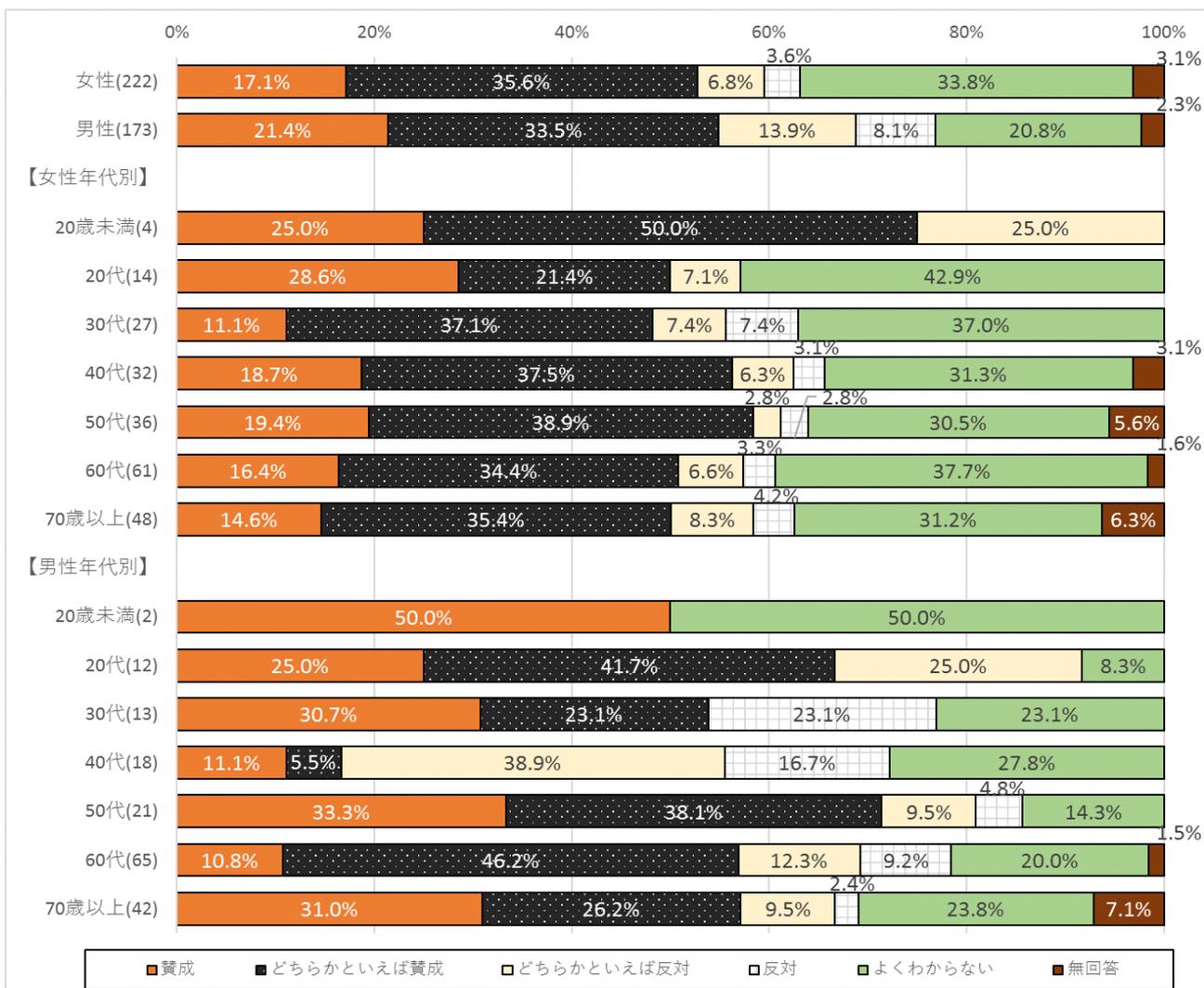
問12 女性の社会進出を促すため、男女間格差のある分野において、ポジティブ・アクション(格差を改善するために、一時的に女性の優先枠や基準割合を儲け、積極的に登用を図ること)を行うことをどう思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んで、番号に○をつけてください。また、その理由をご記入ください。



「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は53.1%と、半数を超えています。一方、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人は、15.2%でした。「よくわからない」と答えた人も28.5%にのぼりました。

(3) ポジティブ・アクションについて

【性別・年代別】



男性の40代のみ、「どちらかといえば反対」「反対」が、「どちらかといえば賛成」「賛成」の割合を上回っていることが特筆されます。また、各年代を通じ、「どちらかといえば反対」「反対」については、男性の方が割合が高くなっています。

### (3) ポジティブ・アクションについて

#### 【選択肢を選んだ理由】

#### <「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた人の記述>

- |   |            |    |
|---|------------|----|
| ○ 新しい時代に向け、男性偏重社会の考え方を変えていくことは重要である。  | (男性、30代)   | 賛成 |
| ○ 女性の考え方は、女性しかわからないので発信できる機会が増える事を望みます。   | (女性、20歳未満) | 賛成 |
| ○ 女性の方が、色々な方向から物事をみれるから。  | (男性、50代)   | 賛成 |
| ○ 機会を与えることが大切。  | (女性、70歳以上) | 賛成 |
| ○ 少子化が進むため。   | (男性、60代)   | 賛成 |
| ○ とりあえず経験することが必要だと思います。   | (女性、60代)   | 賛成 |
| ○ 実際に実践してみたことによって、課題案がわかってくる。   | (女性、50代)   | 賛成 |
| ○ 女性の意見を述べる場が出来るので。   | (女性、50代)   | 賛成 |
| ○ 先は実行、経験してみないと何も生まれてこないと思うので、とにかくやってみましょうの精神でいくしかない。   | (女性、50代)   | 賛成 |
| ○ 社会的に母性愛が足りてない。  | (男性、20代)   | 賛成 |
| ○ 制度を設ける事により、積極的な登用につながると思います。  | (男性、50代)   | 賛成 |
| ○ 男性の意識が、変わることが大事だと思います。  | (女性、60代)   | 賛成 |
| ○ やってみることが大事だと思います。その結果により、改善策や社会への影響が図られることと思います。  | (女性、50代)   | 賛成 |
| ○ 能力のある方はどなたでも良いと思います。  | (女性、70歳以上) | 賛成 |
| ○ 経験することにより、女性も力をつけることが出来る。女性の社会進出が促進されることにより、社会も自然のこととして受入れ易くなる。   | (女性、60代)   | 賛成 |
| ○ 女性も前に出るべき。  | (女性、70歳以上) | 賛成 |
| ○ 男性・女性での視点が違うから。   | (男性、30代)   | 賛成 |
| ○ 現行の延長では、男女比率の大幅な変化は望めないため、このような取組により、実績をあげ、女性登用によるメリット(もしくは、女性でも問題がないこと)を認識することが重要。   | (男性、30代)   | 賛成 |
| ○ やらなければ理解できないし、また良否の判断材料になり次世代につながる。   | (男性、70歳以上) | 賛成 |
| ○ 自立 一人の人間として生きてほしい。守られて誰かのために生きるのもいいが、家庭の中で、夫の手の中から出て、一人の人間として生きる力を持ってほしいと常に思っている。   | (女性、50代)   | 賛成 |
| ○ 女性の活躍が社会の発展に必要だから。  | (男性、70歳以上) | 賛成 |
| ○ 合否は本人の意志と同僚:たとえば患者さん等からの出来具合で決めれば良い人が見つかると思う。   | (男性、60代)   | 賛成 |
| ○ 館山市では男女共同参画社会の実現のために、女性登用率を国・県と同様に「30%」まで引き上げを数値目標とあり、28年度の数値が「27.29%」の登用率になっているので、ポジティブ・アクションを一時的に行うことはいいことだと思います。登用率が上がれば比較的女性の社会進出に大きくつながります。それは、女性が対等な立場で働いていける社会の大きな一歩になると感じます。難しいことかもしれませんが、男女が対等な立場で社会に参画していくにはお互いの相互理解を増やしていくことが必要であると思えます。 | (男性、20代)   | 賛成 |
| ○ 男女平等であるべきと考えるため。まだまだ女性登用率が低い日本においてポジティブ・アクションは必要であると考えます。   | (女性、30代)   | 賛成 |
| ○ 女性が活躍できる場が少ないから。  | (女性、20代)   | 賛成 |
| ○ 格差は外的要因がないと改善に向かわない。  | (男性、60代)   | 賛成 |
| ○ だれにでもかくれた能力があるから。それを引きだせるのではないかと思う。   | (男性、70歳以上) | 賛成 |
| ○ 女性の方が社会的情報が豊富だから。   | (女性、60代)   | 賛成 |
| ○ 子育てや介護があるなど、大変な時期を考慮し理解することができれば良い。   | (女性、60代)   | 賛成 |
| ○ 男性には、気付かないが観点・細やかな気配り・弱者への対応等視野が広がるため。  | (女性、40代)   | 賛成 |
| ○ 最初のハードルは低くすべき。  | (男性、70歳以上) | 賛成 |
| ○ 現在、生き方の多様化がみられているので、家庭よりも社会で活躍することを望む女性がいるのであれば、それを受入れられる社会であってほしいと思う。  | (女性、20代)   | 賛成 |
| ○ 女性の視点から見たり考えたり、男性だけでない見方もできて、もっと広がりがあるものになるのでは? と思います。  | (女性、60代)   | 賛成 |

- 男にはない柔軟な女性の考え方を格差のある分野に入れていくことで新しい風が通ると思う。固まってしまっている組織は発展しなそう。(女性、50代) どちらかといえば賛成
- きめ細かな配慮が必要なため。(女性、70歳以上) どちらかといえば賛成
- 法整備だけでは不十分。(女性、20歳未満) どちらかといえば賛成
- とりあえずやってみることは大事。(女性、30代) どちらかといえば賛成
- 適任者がいれば女性でも活躍できる。チャンスを与えてあげた方が良いと思います。(女性、50代) どちらかといえば賛成
- 男女平等、管理職増加する(女性管理職の増加)①全体説明②希望をとる③総合職的な研修、または試験・面接で登用を図る。(男性、70歳以上) どちらかといえば賛成
- 女性が社会進出しても、育児期間子育て介護期間が、進出を中断させてしまうため、一生通じて女性が社会に進出することは、私生活も犠牲にする感じがします。(女性、60代) どちらかといえば賛成
- 男性優先社会から、女性の立場を理解し共に生活しやすい社会になってほしい。(女性、70歳以上) どちらかといえば賛成
- やる気のある方が、枠を利用し力を発揮されるのは好ましい。(女性、50代) どちらかといえば賛成
- そうでもしないと、いつまでも男性優位の社会構図は変わらないように思います。(女性、40代) どちらかといえば賛成
- 女性の方が社会的情報が豊富だから。(女性、60代) どちらかといえば賛成
- 考え方が昔から進歩的な考えが多いから。(男性、60代) どちらかといえば賛成
- 今までの女性の社会進出が少ないことから、何か女性にメリットのある機会を設ける事で、積極的になるのであれば良いと思ったから。(男性、20代) どちらかといえば賛成
- 優先枠を設けること自体がナンセンス。能力があればそれなりに登用されるはず。(男性、20代) どちらかといえば賛成
- 女性の優先枠をチャンスと捉え、挑戦する人も出ることでしょう。(無回答、無回答) どちらかといえば賛成
- 以前は銀行の窓口は若い女性。30才近くまで同じ職場で働いていたら居づらかったりのたので。(女性、70歳以上) どちらかといえば賛成
- しかし、無理にする必要はないと思います。(男性、70歳以上) どちらかといえば賛成
- 優先させるのではなく、能力があれば男女に関わらず、ポストにつければよい。(男性、40代) どちらかといえば賛成
- 優先枠・基準割合となるとフォローは必要と思われれます。(女性、50代) どちらかといえば賛成
- だけど、男女間格差をなくすための進出をもっと増やしてもらわないと…(女性、60代) どちらかといえば賛成
- 未経験・経験不足などまた自分自身の指導力があるかどうか、確かめるためにも、上記のような登用を図ることに賛成です。(女性、70歳以上) どちらかといえば賛成
- その分野によっては、知識・適応性などもあるので、全てではないと思う。(女性、50代) どちらかといえば賛成
- 特に社内等での組織活動において、男性が主な状況が生まれていると感じているので、その部分の流れを絶つためには、制度を設けて変える必要があると思う。しかし、まずは女性の指導力養成のプログラム等で、段々と社会に混ぜていけるようにするための時間が必要はずなので、2の解答にした。(男性、20代) どちらかといえば賛成
- 女性の社会進出は良い事ではあると思いますが、家事や育児など男女平等にはできない現状ではきびしい部分があると思います。(女性、40代) どちらかといえば賛成
- 男女対等。(男性、60代) どちらかといえば賛成
- 女性も様々な分野で、活躍してよいと思う。(女性、30代) どちらかといえば賛成
- 一応、賛成はしましたが、どれだけの女性がポジティブに社会に役立つように、男性と同時にやっいていこうと思っているのでしょうか？TVなどを見ている、今の女性にがっかりします。(女性、60代) どちらかといえば賛成
- 制度的なものがないと、変わっていかない。(女性、60代) どちらかといえば賛成
- 力仕事等、女性にとって難しい作業もあるはず。それと、何でもかんでも平等というわけにはいかないと思う。(男性、30代) どちらかといえば賛成
- 男性が納得すれば。(男性、20代) どちらかといえば賛成
- もっと女性に活躍してほしいから(上に立てる人が立てていない)(女性、30代) どちらかといえば賛成
- 雇用に関して、機会均等であるべきだと思うが、業種によっては向き不向きがあると考えている。無理に全てに関して平等にしないといけないとは思わない。(女性、30代) どちらかといえば賛成
- 一度やってみることもいいと思うから。(女性、50代) どちらかといえば賛成
- ポジティブアクションという言葉は初めて耳にしたが、あくまで数値だけを上げることを目標とするなら。(その後の活躍を期待したい。)(女性、60代) どちらかといえば賛成
- ありません。ただ、格差改善を強要することは主権側のエゴだと思う。(男性、20代) どちらかといえば賛成
- 女性目線での物事の進め方や、決定することが必要な場合もあると思いますが、本人の意志を十分に考慮すべきだと思います。(男性、60代) どちらかといえば賛成
- 適任者がいればよいのではないのでしょうか。(男性、20代) どちらかといえば賛成
- 多数の人間が集まり、意見を聞き、自分が少しでも前に進めるから。自分が社会に少しでも関わりができ、張りが持てるから。(女性、60代) どちらかといえば賛成

- 男性とは違う視点からもいい案が出そうな感じがする。 (女性、70歳以上) どちらかといえば賛成
- 女性の考え方が生かされる。 (男性、60代) どちらかといえば賛成
- 性別にこだわる必要はないが、社会的慣行等により優秀な人材が埋もれてしまうことはその価値を無駄にしてしまうため、社会全体の考えが変わっていくきっかけになればよいのではと思う。単純に女性の登用が少ないからといってむやみに行うということはあまり賛成できない。 (女性、40代) どちらかといえば賛成
- 男女間格差を減らすことができるから。 (男性、30代) どちらかといえば賛成
- 政策的に必要と思われるため。 (男性、60代) どちらかといえば賛成
- 女性の意見を述べる場が出来るので。 (女性、60代) どちらかといえば賛成
- 考え方が昔から進歩的な考えが多いから。 (男性、70歳以上) どちらかといえば賛成
- 女性である前に男性と同じ人間なのだから、やってみる事に意義がある。脇を支えるスタッフも共に勉強、良い経験になり、職場に良い変化が出てくると思う。 (女性、60代) どちらかといえば賛成
- 女性の優先枠をチャンスと捉え、挑戦する人も出ることでしょ。 (女性、60代) どちらかといえば賛成
- 以前は銀行の窓口は若い女性。30才近くまで同じ職場で働いていたら居づらかったりしたので。 (女性、50代) どちらかといえば賛成
- しかし、無理にする必要はないと思います。 (男性、60代) どちらかといえば賛成
- 基本的には賛成だが、体力・体格等性差により、優先枠を設けることで、その職種のレベルが下がる恐れがあるため、全てに賛成できない。 (女性、30代) どちらかといえば賛成
- そのようなきっかけを作らないと、格差のある分野では難しいことだと思います。 (女性、70歳以上) どちらかといえば賛成
- 女性の方が様々な面でまだ障害があり難しいところがあるため。 (女性、30代) どちらかといえば賛成
- 男女間の格差がある分野には、それなりの理由があるため、格差が生じているように思う。 (男性、50代) どちらかといえば賛成
- 女性にとってチャンスが増えることはとても良い事だと思う。 (女性、50代) どちらかといえば賛成
- 女性も能力があり、女性の進出がないと社会経済がていたいする。女性の能力をもっと活用すべき。 (男性、60代) どちらかといえば賛成
- 家庭内での女性に課する、育児・家事に対しウェイトが重く、これが社会進出に足かせになるし、企業側も女性受入れの体制をもっとして良しと思われる。 (男性、50代) どちらかといえば賛成
- 無理に押し付ける事ではない。 (男性、60代) どちらかといえば賛成
- 自分が女性なので女性の地位が向上することは良いと思う。この年齢になるまで自然体で生きてきたので周囲に格差があるとは感じてこなかった。 (女性、70歳以上) どちらかといえば賛成
- 比率に差があるのが普通、という意識をまず変化させるには、一旦この差を崩すのが有効だと思うが、社会全体も個々の意識も根付いてないのに急激に枠や数だけ増やすのは厳しい。周辺環境も同時に整える長期的な取組も必要だと思う。 (女性、40代) どちらかといえば賛成

#### <「どちらかといえば反対」「反対」と答えた人の記述>

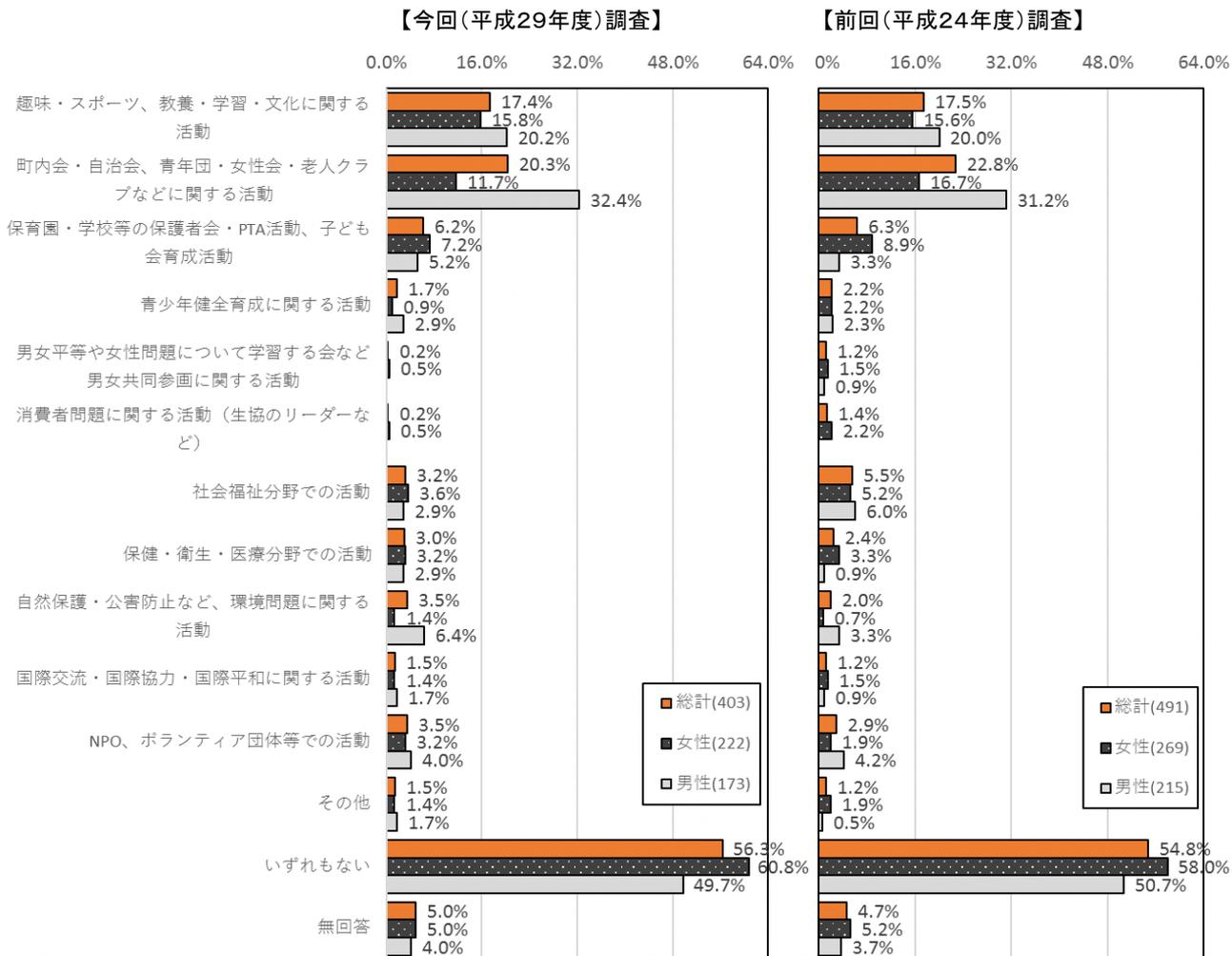
- 優先枠はそもそも男女対等ではなくなる。優先などの考えは捨てるあくまで平等。 (男性、40代) どちらかといえば反対
- ポジティブアクションをすることが差別では？ (女性、50代) どちらかといえば反対
- 女性事態格差に合わせて生活をしていると思うので、積極的に登用する必要はないと思います。 (男性、40代) どちらかといえば反対
- ムリに基準割合に近づけても、意味がないので、小さなことでも良いので制度等を改善する。 (男性、40代) どちらかといえば反対
- だれにでもかかれた能力があるから。それを引きだせるのではないかと。 (女性、70歳以上) どちらかといえば反対
- 基本的には賛成だが、体力・体格等性差により、優先枠を設けることで、その職種のレベルが下がる恐れがあるため、全てに賛成できない。 (男性、50代) どちらかといえば反対
- 決めてするものではないように思う。 (男性、40代) どちらかといえば反対
- この考えこそ、差ではないか。男女関係なく登用すべき(能力的なこと) (男性、50代) どちらかといえば反対
- 性別にこだわらない。 (男性、60代) どちらかといえば反対
- ポジティブ アクションが悪いとは思いますが、その前に女性が働くための基本的な受け皿等を充実した上での実施が望ましいと考える。 (男性、60代) どちらかといえば反対
- 能力不足などは補えない。 (女性、60代) どちらかといえば反対
- 自由社会だから。 (男性、60代) どちらかといえば反対
- そうすることは、平等とはいえないから。 (女性、60代) どちらかといえば反対
- 業種や業務内容、また職責によって男女間で適・不適があるので長続きや定着はしないと思う。 (男性、70歳以上) どちらかといえば反対
- 逆に女性にとって働きづらい環境になってしまう可能性がある。 (男性、20代) どちらかといえば反対

- その仕事が女性に向いているのであれば、それも有りだと思うが、そうでなければ、あえて優先的にしなくとも良いと思う。女性主体にし過ぎると、今度は男性に不公平になってしまうのではないかと？ (女性、30代) どちらかといえば反対
- 社会的に母性愛が足りてない。 (女性、70歳以上) どちらかといえば反対
- 普段からふさわしい人がいたら、男女関係なく登用したらよい。 (男性、20代) どちらかといえば反対
- 性別に関係なく能力適正のある人が、登用されるべきであり、優先枠等を設けて登用することが、女性の社会進出を促すことにはならないと思うからです。ただ、経験を積むことは女性の意識を変えるきっかけにはなる可能性はあると思います。 (男性、40代) どちらかといえば反対
- 優先枠や基準割合を設け、登用してもあまり改善は望めない。まずは、意識改革が必要なのでは？ (女性、40代) どちらかといえば反対
- 女性には肩の荷が重い事もある。 (女性、70歳以上) どちらかといえば反対
- 性別よりも適性で決めた方が良くと思うため。 (女性、40代) どちらかといえば反対
- 女性の優先枠を作る必要はなくよりの確な人選をすべき。 (女性、70歳以上) 反対
- 男女に関わらず、能力のある者を登用すべきである。 (男性、70歳以上) 反対
- そうしないと出てこないのか、それは平等とはいえない。 (男性、30代) 反対
- 体のつくりが違うこと。女性には、男性に出来ない事があり、男性には女性に出来ない事がある。すべてが平等にいくとは思えない。 (男性、40代) 反対
- 女性優先枠が必要ということは、本来、女性にはむかない事だと思う。 (女性、40代) 反対
- すでに差別化しない社会になっていると思うので。 (男性、30代) 反対
- 女性が働きやすい社会を作るには、法的基準で強制するのではなく、出産・乳幼児医療や保育所(子育て施設)の拡充・無料化を進めることや、育児手当や育児休暇など、家事子育ての支援を実際にやっていくことが大事。法的に強制しても個人や企業などの民間レベルでは負担が大きく、守らない者や抜け道を探す者などが出てきてしまう。国や自治体など公的機関が税金を使ってシステム面から改善してあげるべき。 (男性、40代) 反対
- 女性を優先するのでは一時に過ぎず、いいリーダー、必要とされるリーダーとは違うと思う。すぐに改善される問題ではないと思うので、10年後・20年後の先を見据えた長期の目標で行うべき。意識改革、子どもの教育課程で男女の違い(性的なものも含め)を学びつつ、これからの男女が共に生活しやすい社会を作るための基礎となる考えを学んでいくべき。 (女性、30代) 反対
- 優先枠や基準割合により登用することで、能力不足が補えるとは期待できないから。 (女性、50代) 反対
- 優先させるのではなく、能力があれば男女に関わらず、ポストにつければよい。 (男性、40代) 反対
- <「よくわからない」と答えた人及び無回答だった人の記述>**
- 家庭をもった場合、負担が大きく、基準割合を投げても実際十分機能するかどうか疑問です。育児休暇・年休(有給)も安心してとれない経験があったので、実際には休暇をとった場合の不利益も。 (女性、70歳以上) よくわからない
- 『男女間格差のある分野』というのがよくわからない。どういうことがかわからない。 (男性、20代) よくわからない
- 女性の意見がどの様に取り入れられるのかわからない。 (女性、70歳以上) よくわからない
- 日本全体で考えた場合では、賛成ですが館山市で考えた場合、仕事も職種も少なく労働賃金も低いので、女性だけでなく男性もなかなか働き口がないかと思います。なのでまずは、上記の改善が必要かと思えます。 (男性、30代) よくわからない
- あまり気にしたことがない。 (女性、20代) よくわからない
- 優先枠や基準割合により登用することで、能力不足が補えるとは期待できないから。 (男性、70歳以上) よくわからない
- 女性の視点から見たり考えたり、男性だけでない見方もでてきて、もっと広がりがあるものになるのでは？ と思えます。 (女性、30代) よくわからない
- その仕事が女性に向いているのであれば、それも有りだと思うが、そうでなければ、あえて優先的にしなくとも良いと思う。女性主体にし過ぎると、今度は男性に不公平になってしまうのではないかと？ (男性、60代) よくわからない
- やりたい人がやりたい事をやれば良い。組織に属そうと思わせる幼少からの教育が人を頭でっかちりにしている。 (女性、60代) よくわからない
- 今の自分は身のまわりの事は考えるが、社会全体の事はあまり考えていない。 (女性、60代) よくわからない
- 普段からふさわしい人がいたら、男女関係なく登用したらよい。 (女性、60代) よくわからない
- 男女間格差のある分野？ (男性、50代) よくわからない
- その場所や役によっては、男性を優先にした方が、良い場合もあるので。 (女性、30代) よくわからない
- ポジティブアクション自体は良いと思うが、今の社会的に見ると絵に描いた餅のように感じる。館山はまだ昔からの気質が抜けないのでは.. (女性、60代) よくわからない

○ 主体では賛成だが、実質的に女性は育児や家事、介護など様々な用事を行わなければならない、難しいと思います。	(女性、60代)	よくわからない
○ 自分とは職種が違うため、また、今までにそのような経験もなく、わかりません。	(女性、50代)	よくわからない
○ 男女の問題ではなく、本人の気持ち次第と考えます。	(男性、30代)	よくわからない
○ 判断する経験材料が無いため。	(男性、60代)	よくわからない
○ 分野による。	(男性、40代)	よくわからない
○ それぞれの家庭の事情があるから。	(男性、70歳以上)	よくわからない
○ 優先枠を設けること自体がナンセンス。能力があればそれなりに登用されるはず。	(男性、40代)	よくわからない
○ やりたい人がやりたい事をやれば良い。組織に属そうと思わせる幼少からの教育が人を頭でっかちにしてている。	(男性、40代)	よくわからない
○ 高齢のため。	(無回答、無回答)	よくわからない
○ なかなか思い通りにいかない。	(女性、60代)	よくわからない
○ あえて女性を と特別視する意味が解らない。	(女性、40代)	よくわからない
○ 格差は外的要因がないと改善に向かわない。	(女性、50代)	無回答
○ 女性である前に男性と同じ人間なのだから、やってみる事に意義がある。脇を支えるスタッフも共に勉強、良い経験になり、職場に良い変化が出てくると思う。	(無回答、無回答)	無回答

(4) 地域活動への参画状況について

問13 次にあげる地域活動の中で、あなたが「現在、企画から実行までの一連の取組(参画)をしているもの」はどれですか。該当するものをすべて選んで、番号に○をつけてください。

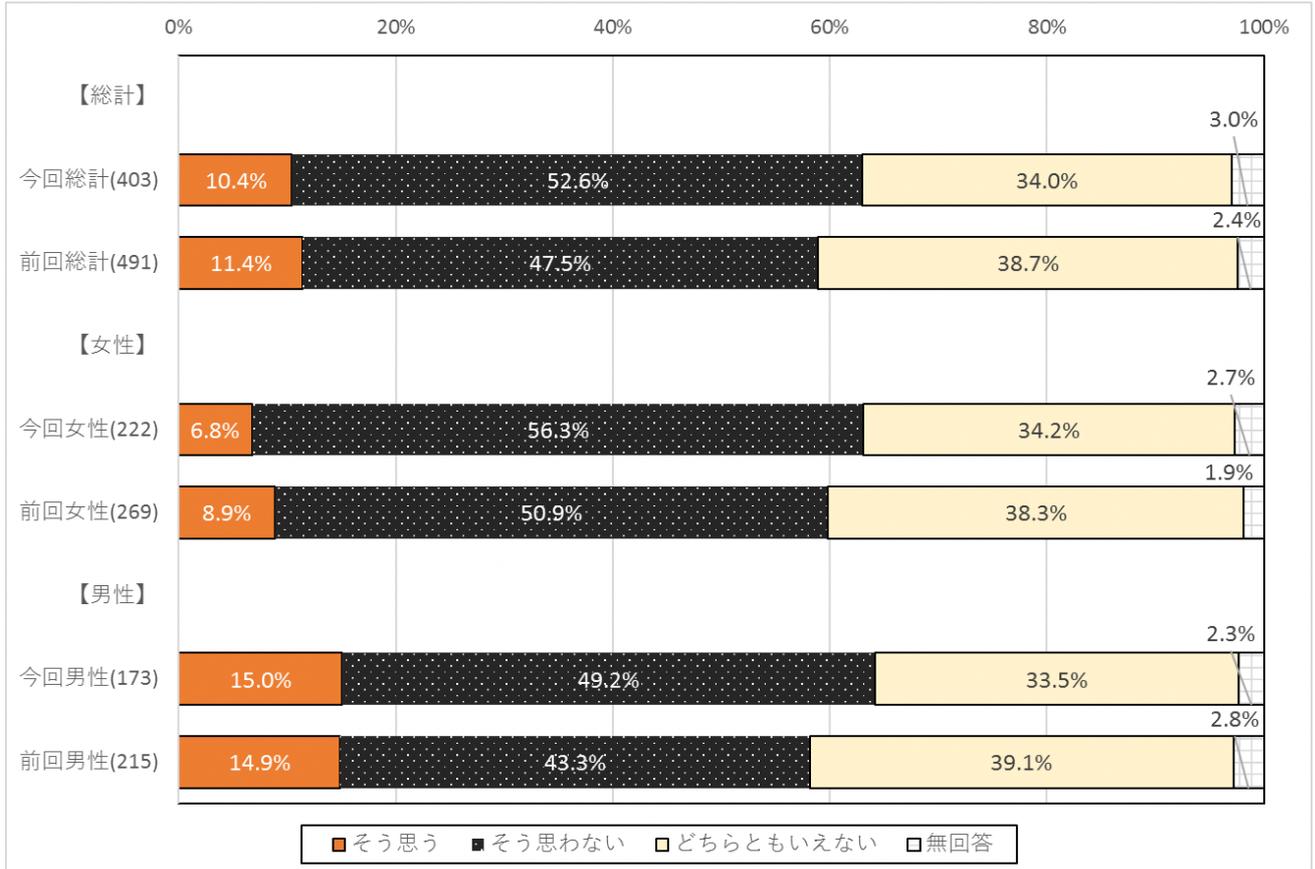


男性、女性とも「いずれもない」とした人の割合が最も多く、女性については前回調査と比べ、割合が増加しています。また、「町内会・自治会、青年団・女性会・老人クラブなどに関する活動」に参画していると答えた人の割合は、男女を比べると20%ほど男性が多くなっており、前回調査と同じ傾向を示しています。

## 9 働き方について

### (1)「男は仕事、女は家庭」の考え方

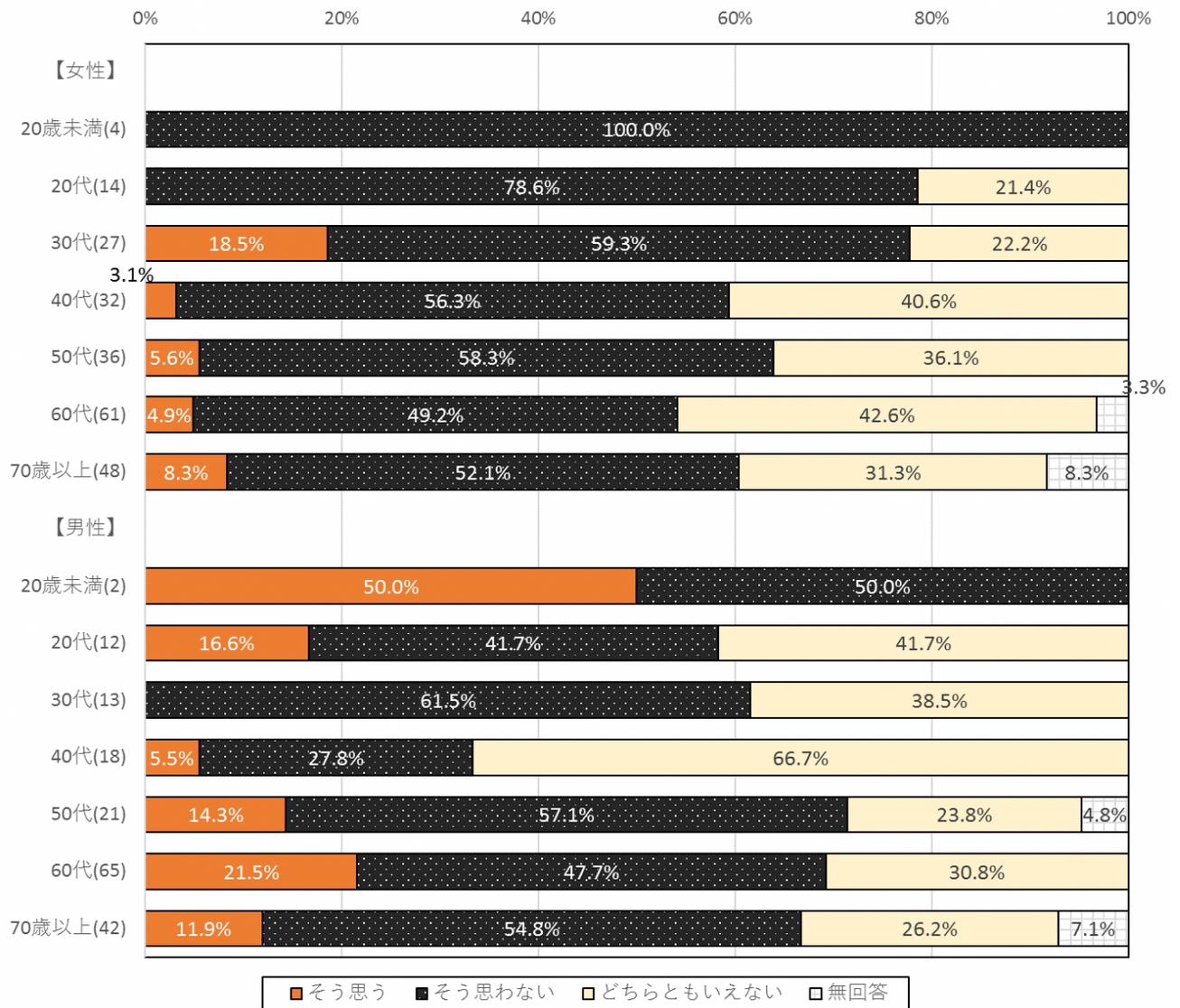
問15 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。



「そう思う」とした人の割合は、前回調査より少なくなっており、「そう思わない」とした人の割合は前回調査より増えています。また、性別でみると、男性のほうが「そう思う」と回答した人の割合が高く、今回調査では、8%ほど男性の方が高くなっています。

(1)「男は仕事、女は家庭」の考え方

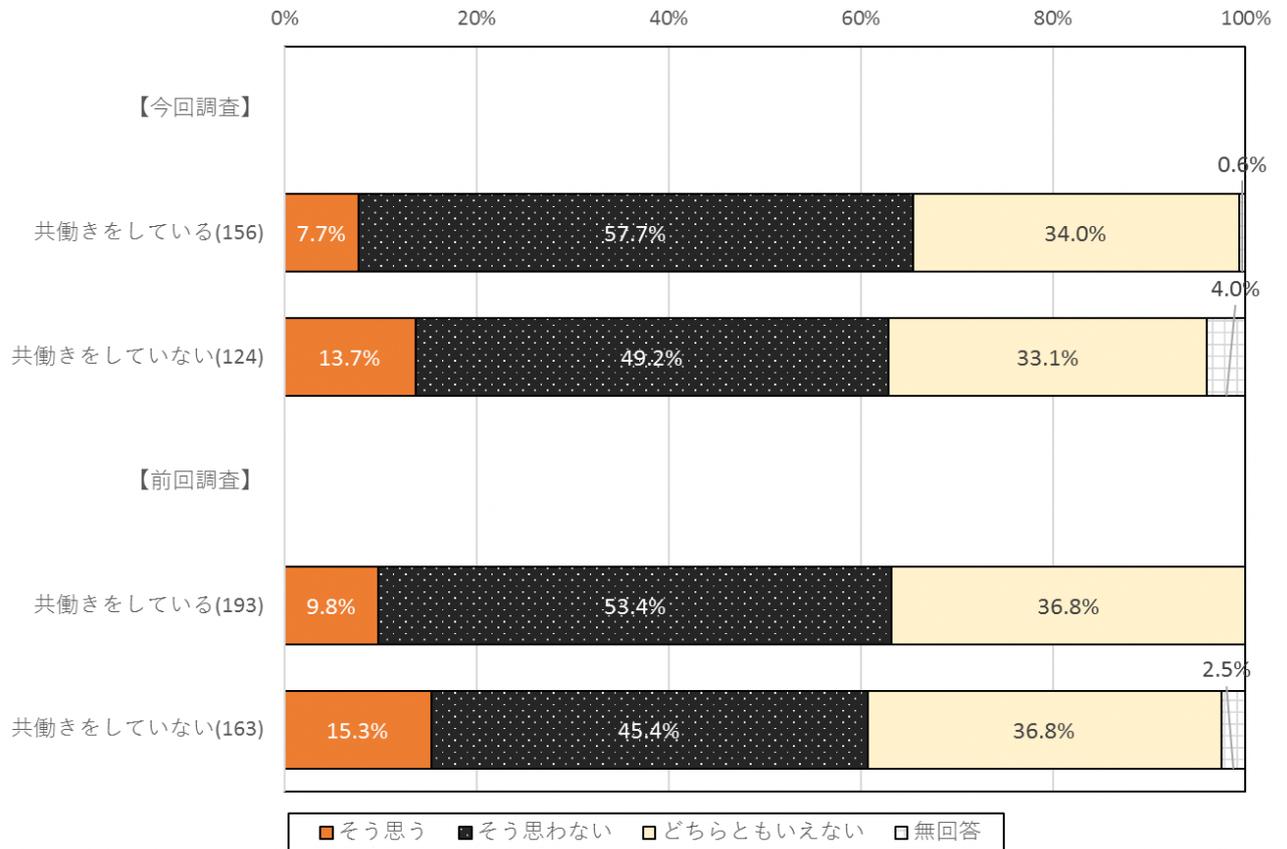
【年代別】



すべての年代において、「そう思わない」と答えた人の割合が最も高くなっています。なお、女性の30代、男性の20代、60代で、「そう思う」とした人の割合が15%を超えています。また、男性の40代では、「どちらともいえない」とした人の割合が66.7%と、他に比べて突出して高くなっています。

(1)「男は仕事、女は家庭」の考え方

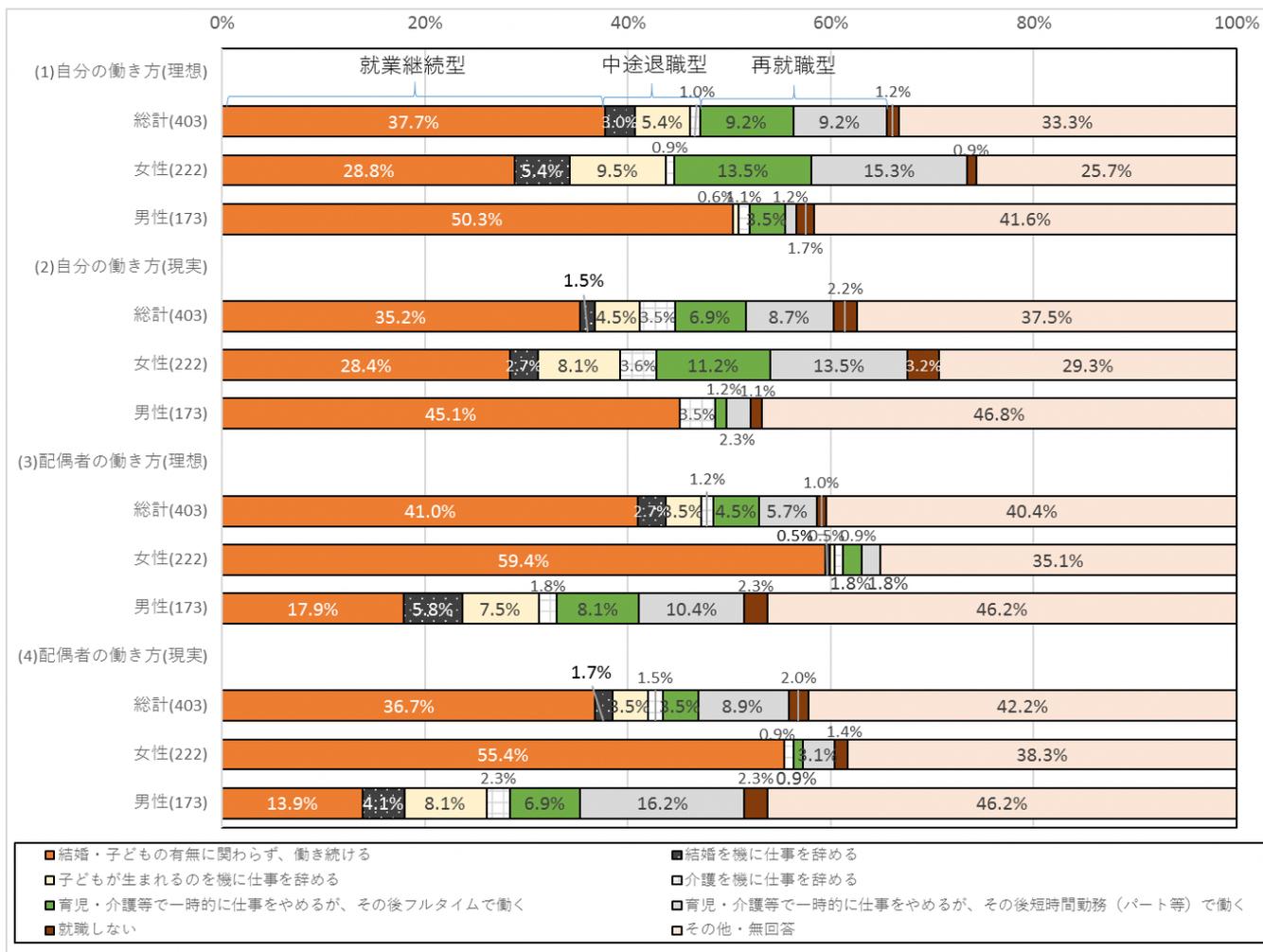
【共働きの有無別】



共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が、していない人に比べ、「そう思う」と回答した割合は低く、「そう思わない」と回答した割合は高くなっていることがわかります。

(2) 自分自身と配偶者(パートナー)の働き方(現実・理想)について

問16 あなたの働き方とあなたの配偶者(パートナー)に望む働き方について、理想と現実をお伺いします。それぞれ、あなたの考えに最も近いと思うものを、下記選択肢の中から1つずつ選んで、その番号を該当欄に記入してください。

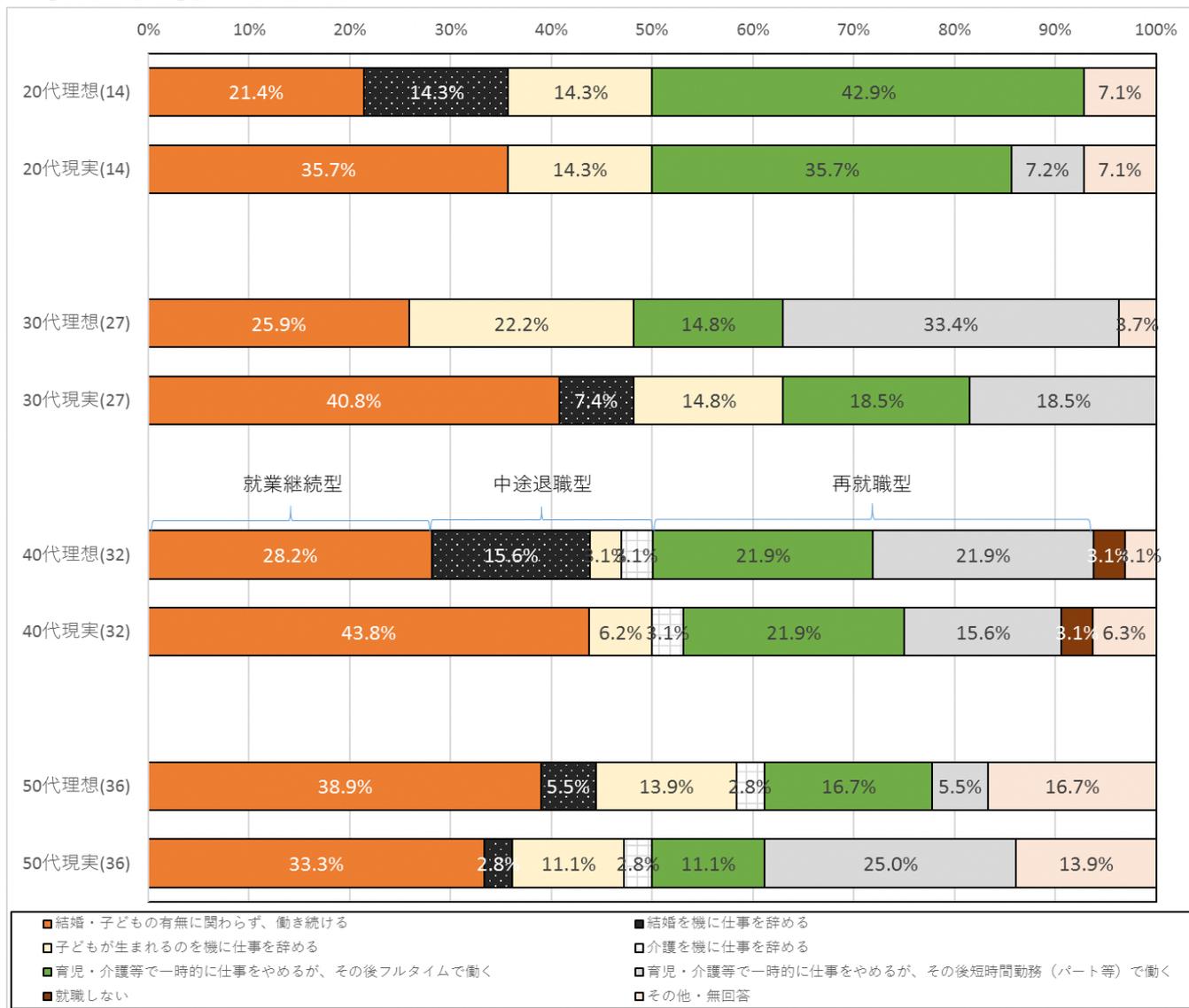


「自分の働き方」については、理想・現実とも、男女問わず「就業継続型」と回答した割合が最も高くなっています。一方、「配偶者の働き方」については、理想・現実とも、男性において「パートナーは再就職型である(を望む)」とした割合が最も高くなっています。

(2) 自分自身と配偶者(パートナー)の働き方(現実・理想)について

(ア) 自分の働き方の理想と現実

【年代別・女性】※20代から50代

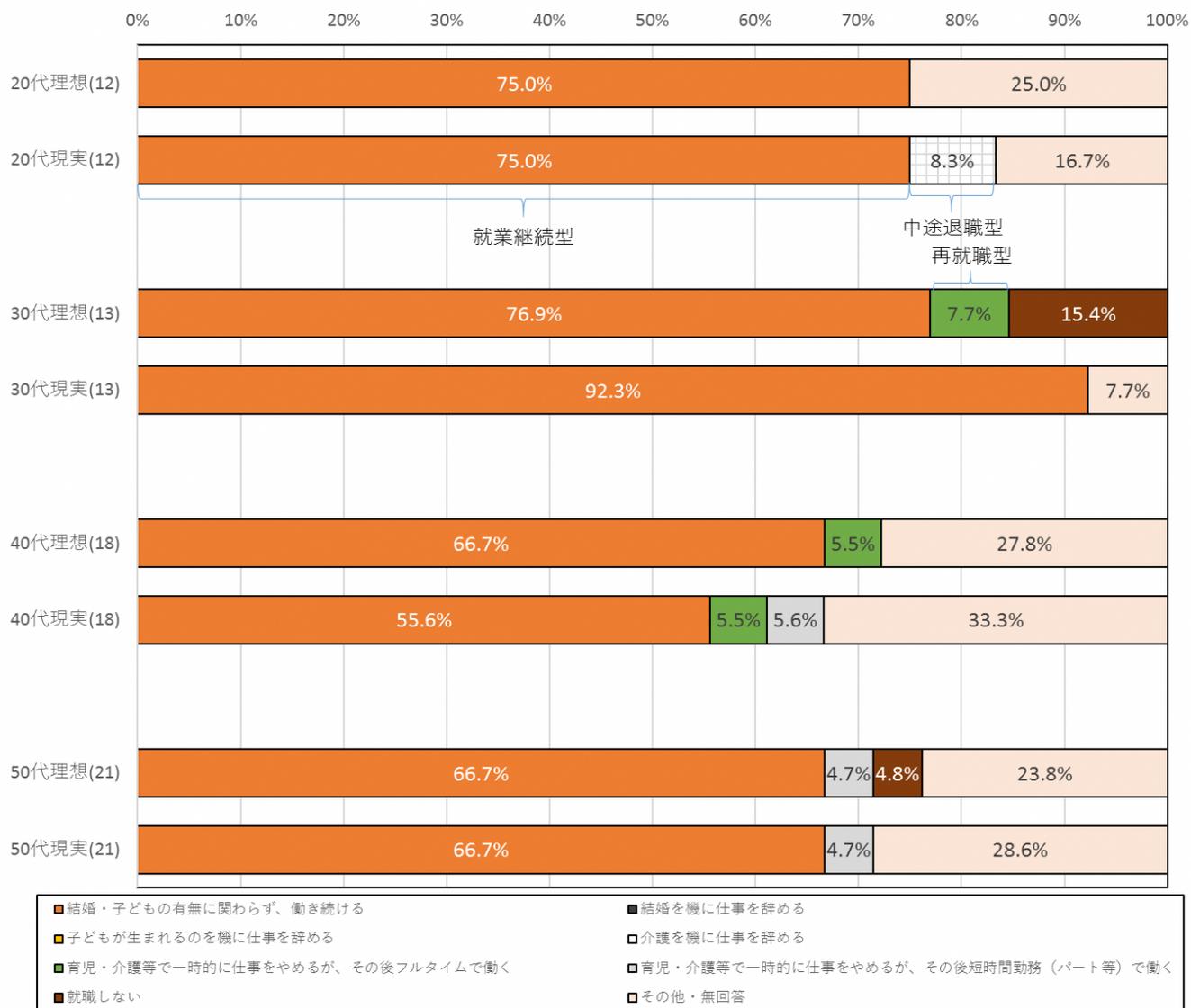


理想においては、50代を除き、「再就職型」とする割合が最も高くなっています。50代理想では、「中途退職型」の割合が最も高くなっています。一方、現実では、50代を除き、「就業継続型」の割合が最も高くなっています。50代現実では、「再就職型」の割合が最も高くなっています。

(2) 自分自身と配偶者(パートナー)の働き方(現実・理想)について

(ア) 自分の働き方の理想と現実

【年代別・男性】※20代から50代

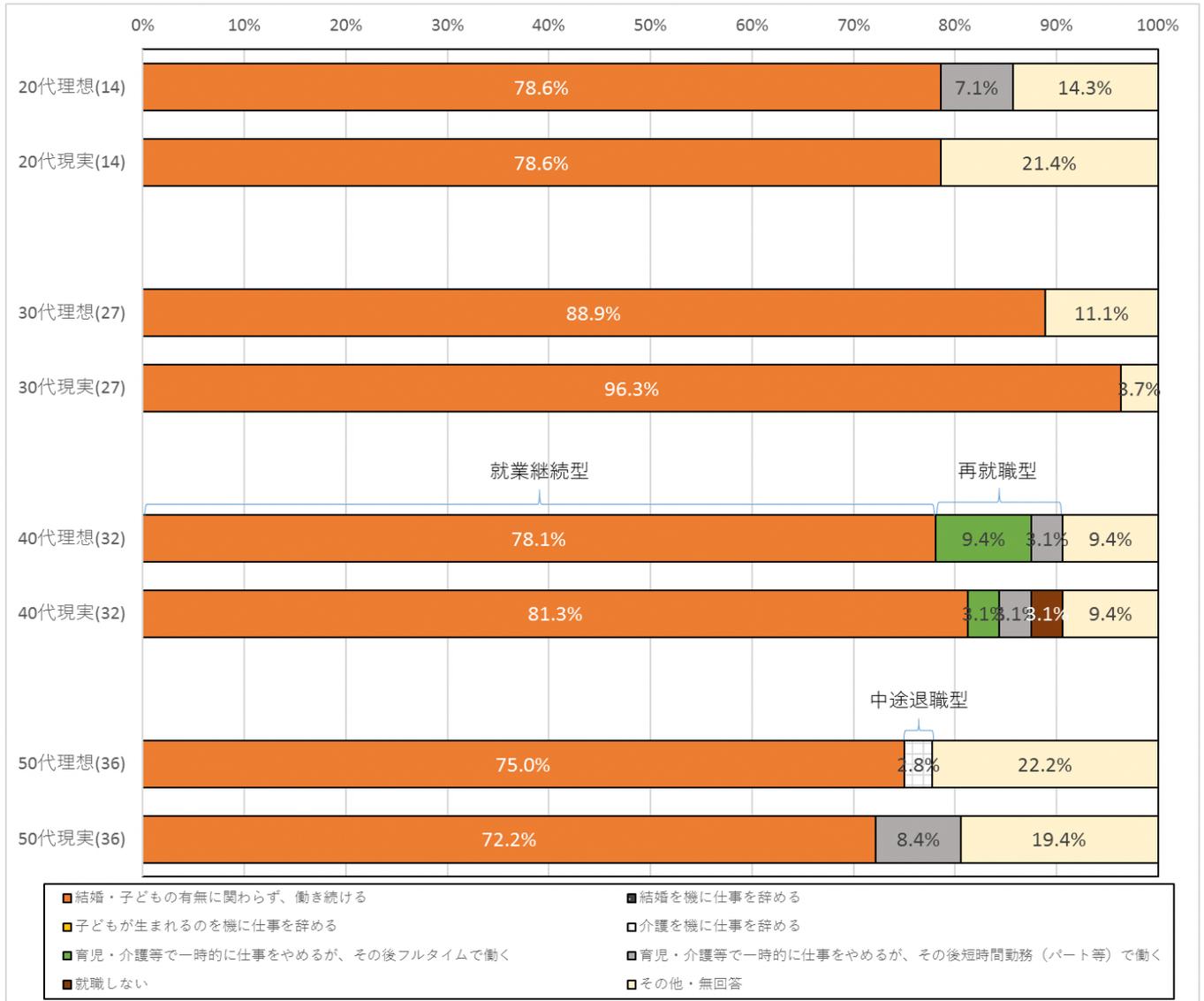


男性の年代別においては、「就業継続型」とした人の割合が全年代、理想・現実を通じ、最も高い割合になっています。20代の現実で「中途退職型」、30代から50代の理想・現実において「再就職型」とした人が一部見られるものの、割合はごく低くなっています。なお、30代の理想で、「就職しない」と答えた人の割合が15.4%となっていることが特筆されます。

(2) 自分自身と配偶者(パートナー)の働き方(現実・理想)について

(イ) 配偶者(パートナー)の働き方の理想と現実

【年代別・女性】※20代から50代

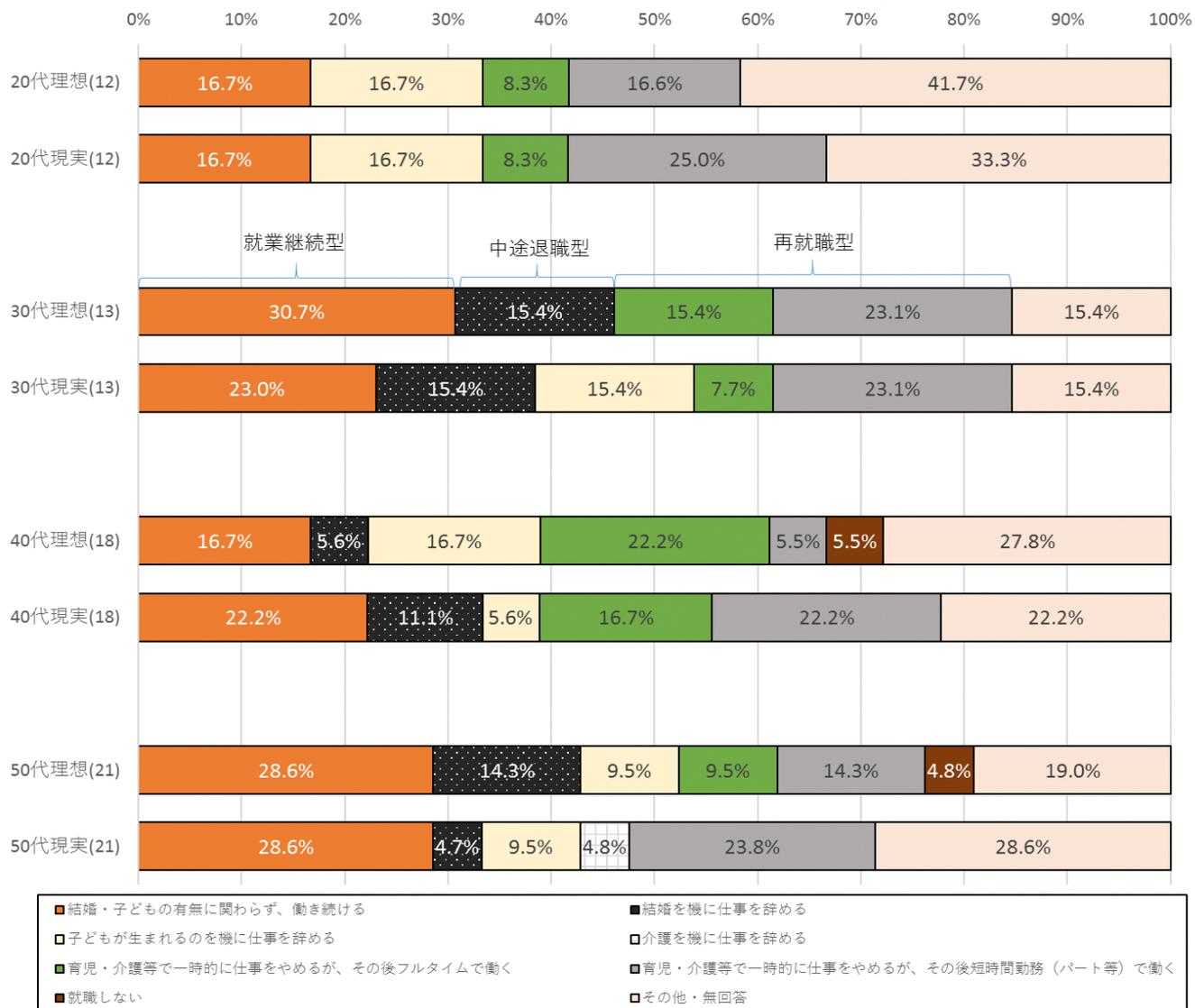


女性の全年代、理想・現実を通じ、「就業継続型」とする割合が最も高くなっています。20代、40代、50代に「再就職型」、50代の理想において「中途退職型」とした人もいますが、ごく少数にとどまっています。

(2) 自分自身と配偶者(パートナー)の働き方(現実・理想)について

(イ) 配偶者(パートナー)の働き方の理想と現実

【年代別・男性】※20代から50代

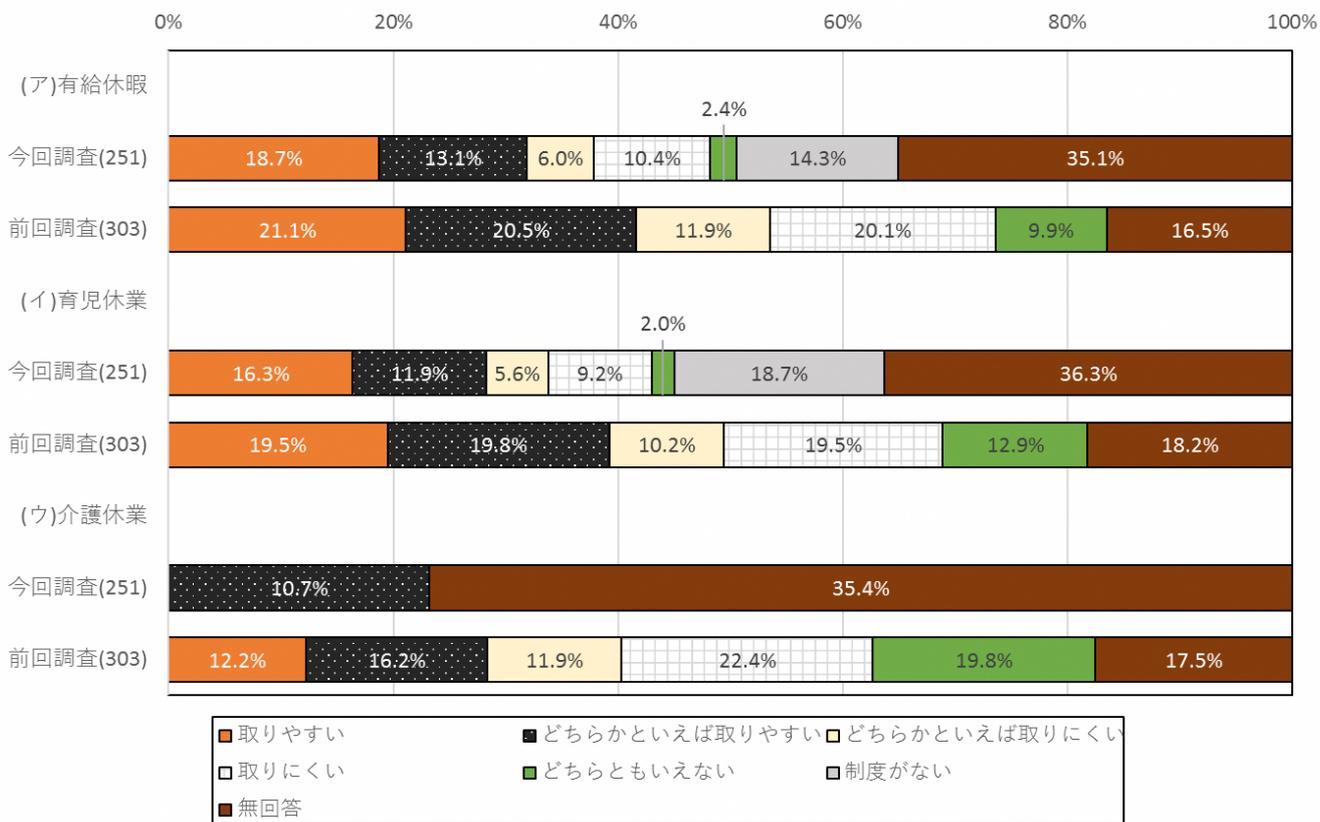


男性においては、50代を除き、理想・現実を通じ「再就職型」とする割合が最も高くなりました。また、40代、50代の理想では、少数ですが「就職しない」とした人もみられます。「中途退職型」は全ての年代を通じ、再就職型と同じか、それよりも低い割合にとどまっています。

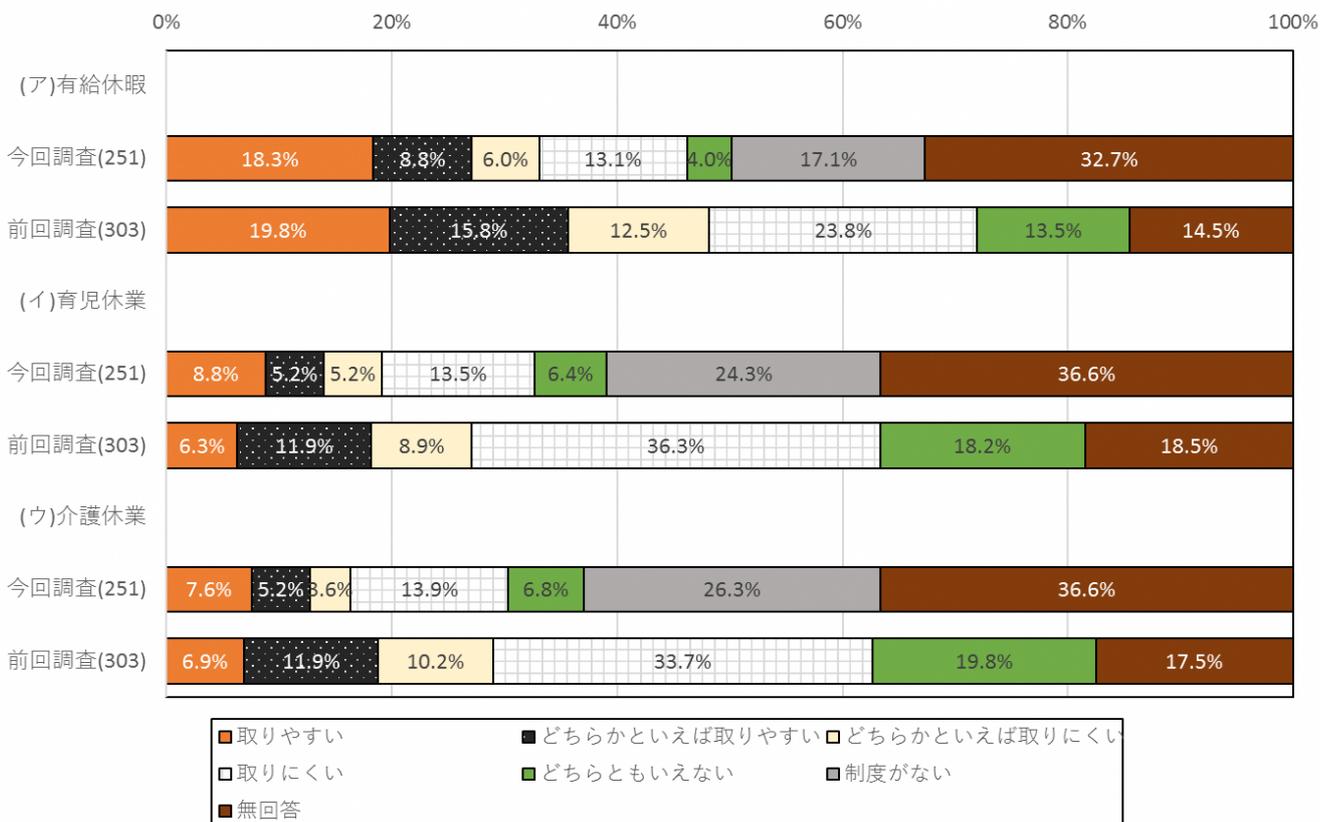
(3) 休暇の取りやすさについて

問17 あなたの職場では、有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。男性職員の場合、女性職員の場合、それぞれについて、該当するものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

【女性職員の場合】



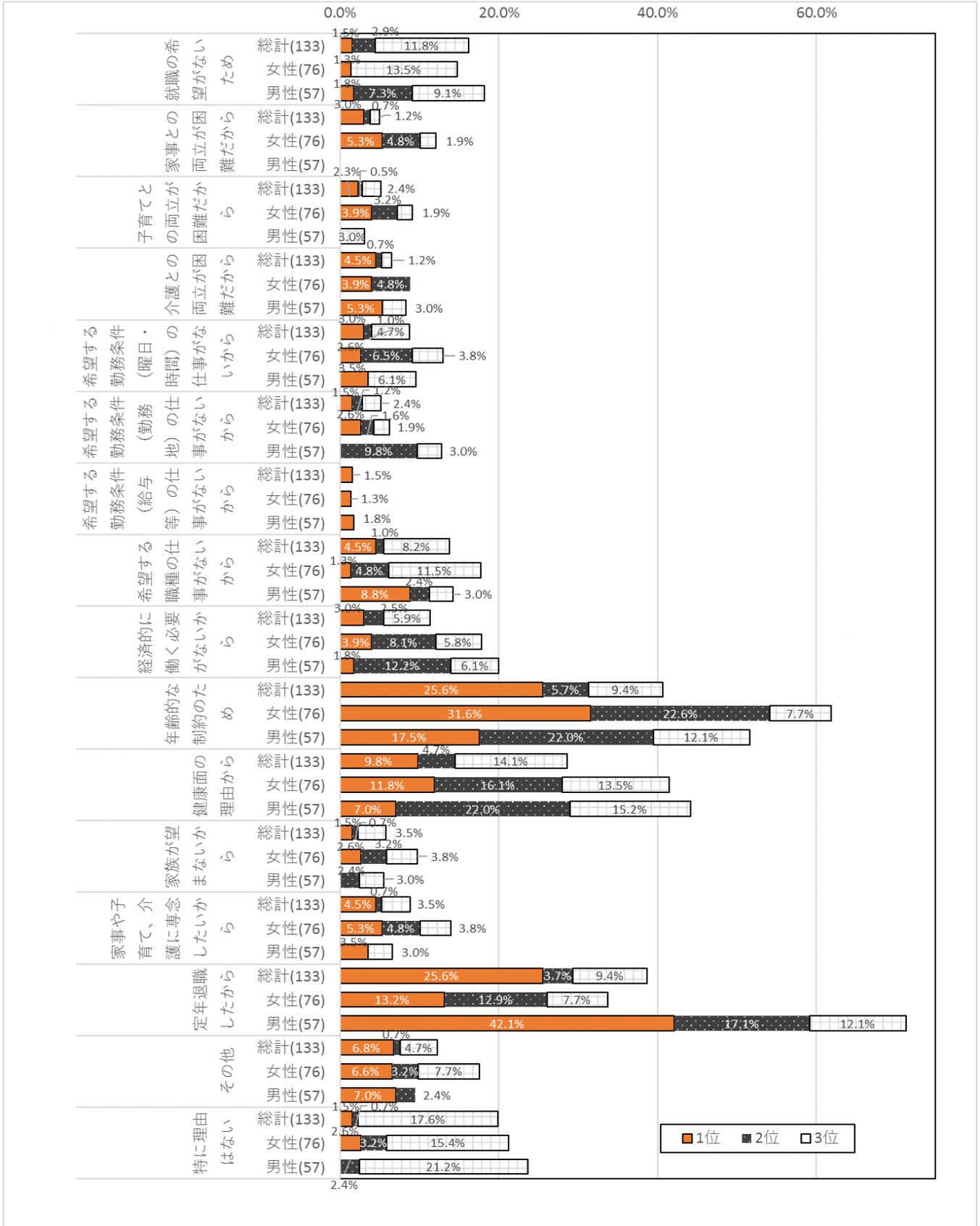
【男性職員の場合】



無回答の割合が高く、前回調査では「制度がない」という項目がなかったため単純比較はできませんが、前回調査に比べると、「取りやすい」「取りにくい」ともに割合が低下しています。また、休暇を取れるとした割合が最も高かったのは「(ア)有給休暇」で、女性の方が男性より「取りやすい」とした割合が高くなっています。

(4) 働いていない理由について

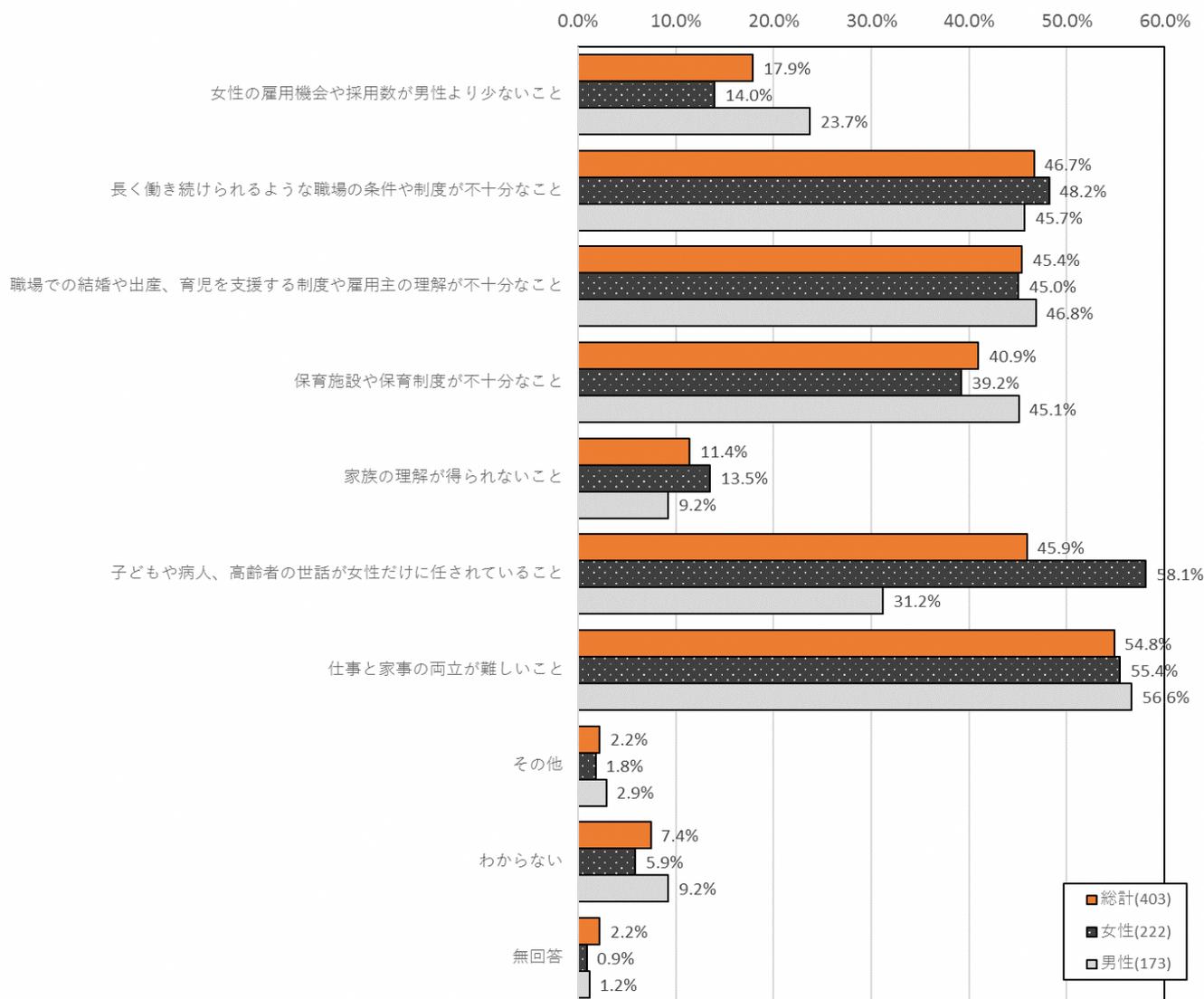
問18 現在働いていない方(学生を除く)に伺います。あなたが働いていない理由は何ですか。その理由として、次の中から当てはまると思う順に1から3位まで選び、該当する番号を記入してください。



トータルで見ると、「定年退職したから」「年齢的な制約のため」「健康面の理由から」を選んだ割合が高くなりました。理由の1位で最も割合が高かった項目は、男性は「定年退職したから(42.1%)」、女性は「年齢的な制約のため(31.6%)」でした。理由の2位については、男性は「年齢的な制約のため、健康面の理由から(いずれも22.0%)」、女性は「健康面の理由から(16.1%)」でした。理由の3位については、男女とも「特に理由はない(男性21.2%、女性15.4%)」でした。

(5) 女性が働き続けるうえでの障壁について

問19 女性が働き続けるうえで、障壁となっているものは何だと思いますか。次の中から3つ選んで、番号に○をつけてください。



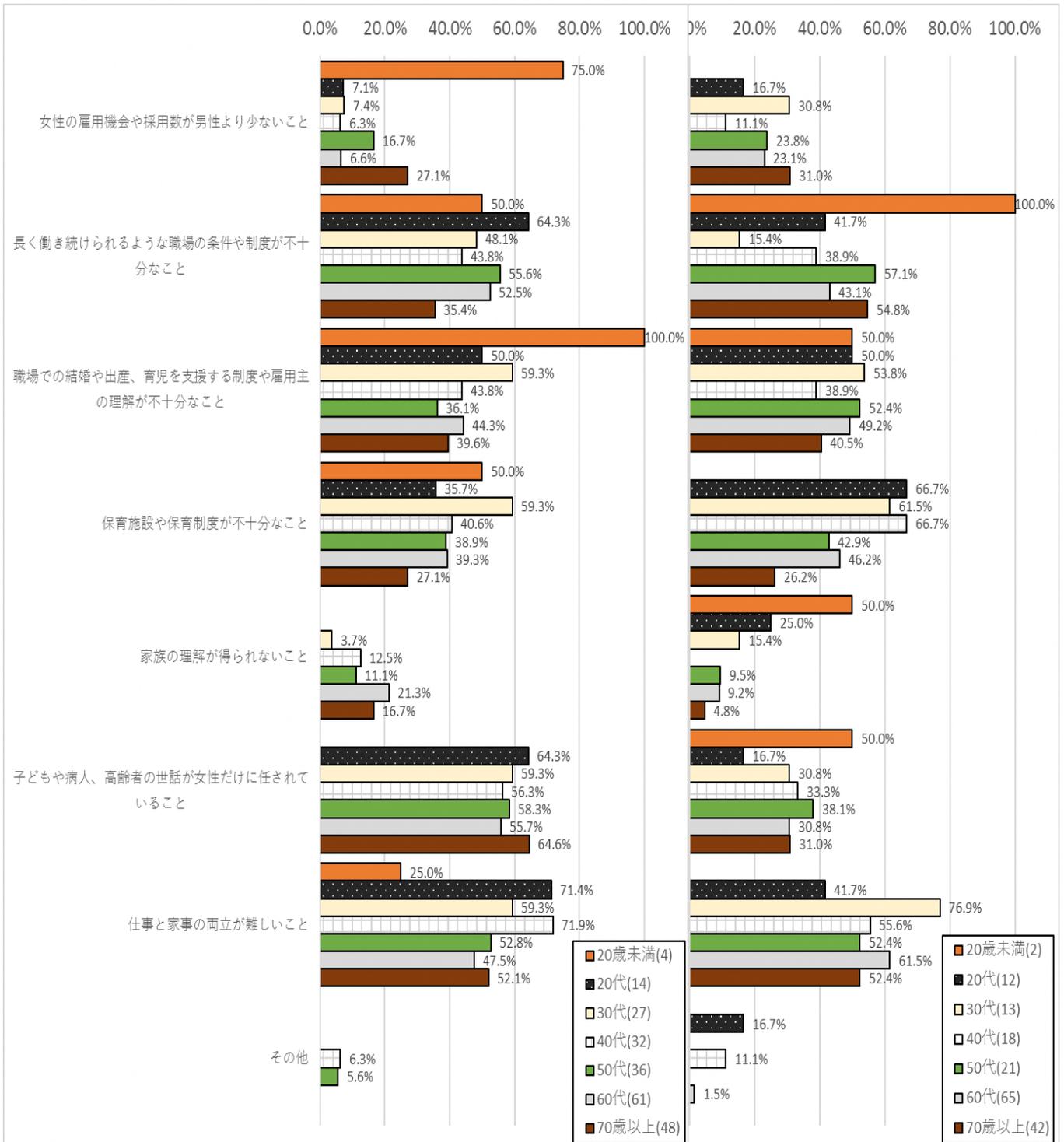
トータルで見ると、「仕事と家事の両立が難しいこと」を選んだ割合が最も高く、「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと」「子どもや病院、高齢者の世話が女性だけに任されていること」「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと」がほぼ同ような割合で続いています。「子どもや病院、高齢者の世話が女性だけに任されていること」については、女性のほうが男性よりも約27%多くなっており、性別により大きな差が出ています。一方、「女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと」「保育施設や保育制度が不十分なこと」については、女性より男性のほうが選んだ割合が多くなっています。

(5) 女性が働き続けるうえでの障壁について

【年代別】

【女性】

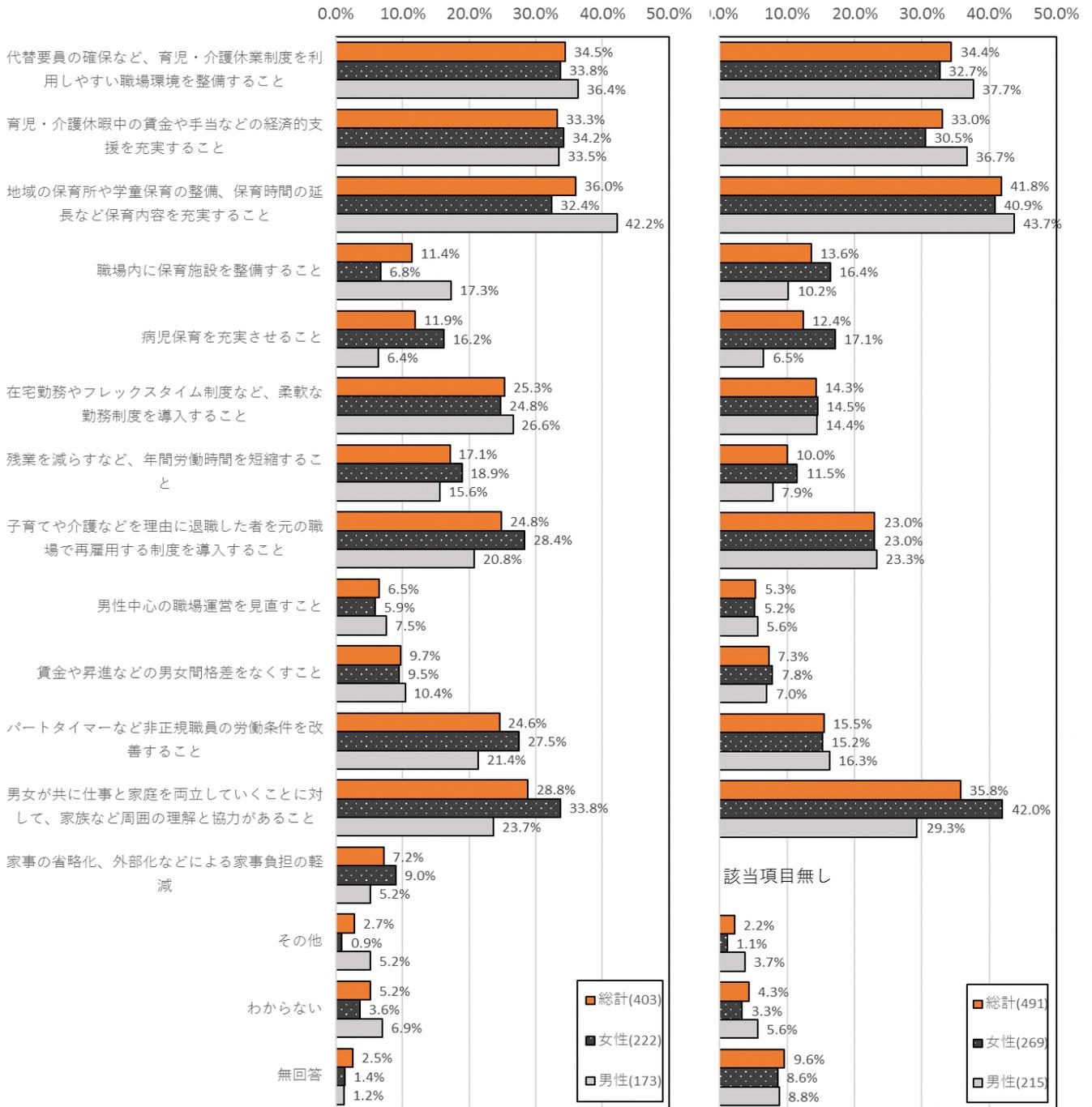
【男性】



年代別にみると、「子どもや病人、高齢者の世話が女性だけに任されていること」では、ほぼ全ての年代で女性の方が男性よりも選んだ割合が高くなっています。また、「仕事や家事の両立が難しいこと」「保育施設や保育制度が不十分なこと」「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと」においては、若い世代のほうが上の世代よりも選んだ割合が高くなっています。

(6)仕事と家庭の両立のため必要な環境整備について

問20 男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。次の中から3つ選んで、番号に○をつけてください。



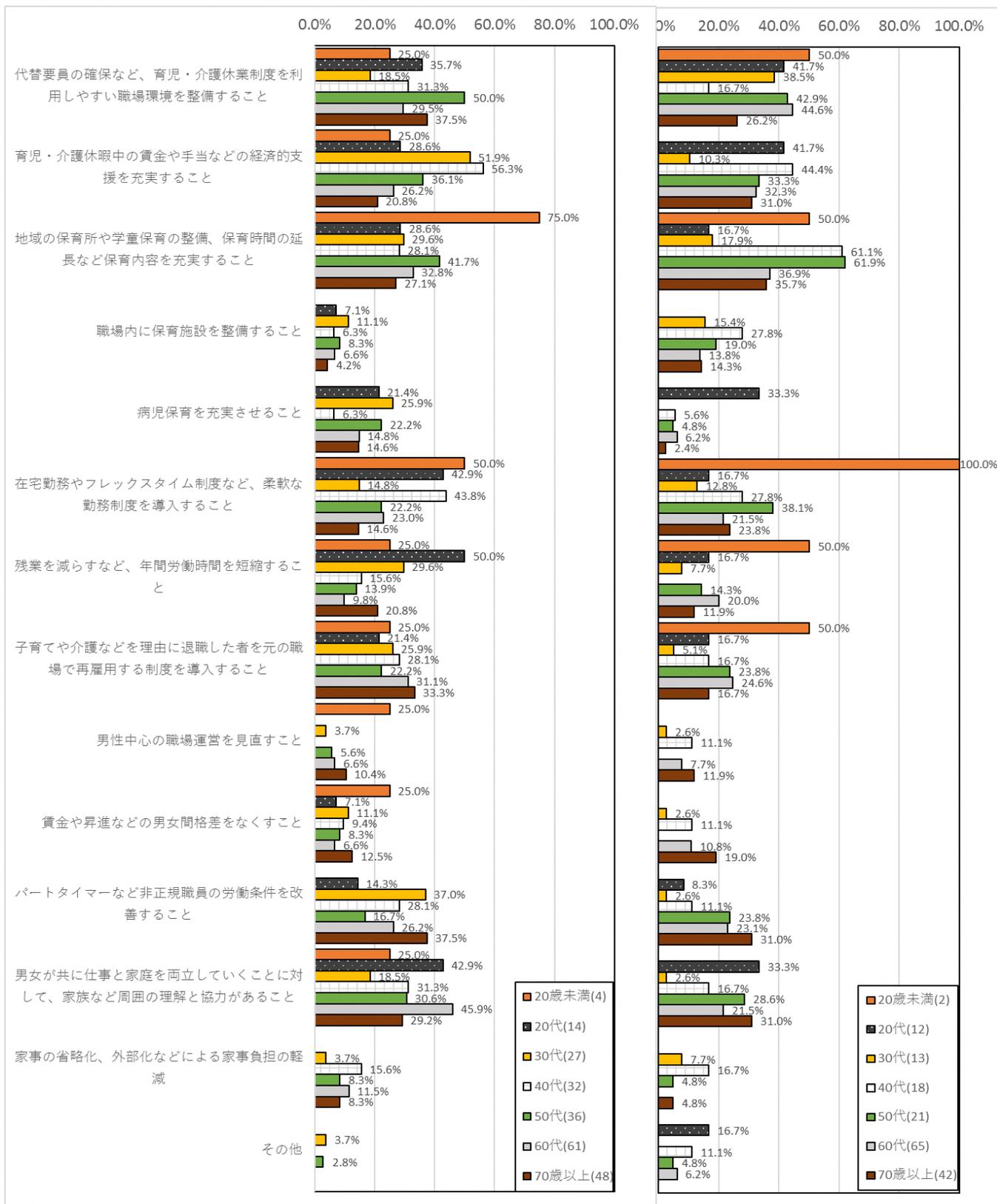
トータルで見ると、「地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」を選んだ人が最も多く、36.0%となっていますが、前回調査の41.8%と比べると、割合が低くなっています。次いで、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」を選んだ割合が多くなっており、この2つの項目については、前回調査と比べ、割合に大きな差はありません。このほか、前回調査と比べて5%以上割合が低くなっているものとして、「男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、家族など周囲の理解と協力があること」が挙げられます。逆に、前回調査と比べて5%以上割合が高くなったものとして、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」「残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること」「パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善すること」が挙げられます。また、女性のほうが男性より選んだ割合が5%以上高かったものとして、「育てや介護などを理由に退職した者を元の職場で再雇用する制度を導入すること」「パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善すること」「男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、家族など周囲の理解と協力があること」があり、逆に男性のほうが選んだ割合が5%以上高かったものとして、「地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」「職場内に保育施設を整備すること」が挙げられます。

(6)仕事と家庭の両立のため必要な環境整備について

【年代別】

【女性】

【男性】



年代別にみると、「子育てや介護などを理由に退職した者を元の職場で再雇用する制度を導入すること」においては、上の年代のほうが回答した割合が高くなっていることがわかります。一方、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」「残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること」においては、若い世代のほうが回答した割合が高くなっています。また、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」や「地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」においては、40代ないし50代の回答割合が高いことがわかります。